区画の中央北端部から南東部に向かって鈎手状に流れる溝跡で、ＳＸ2121 整地層上面および地山面で検出した。おもに調査区内を蛇行しながら流れるＳＤ1111 河川跡の流路内に構築されている。総長で約 110ｍ検出しており、北半部ではほぼ同位置で、南半部では流路を変えて 3 時期（ＳＤ1020Ａ→Ｃ）の変遷が認められた。溝幅は南にいくにしたがって狭く、コーナー部分でやや膨らむ傾向がある。また、鈎手に曲がったコーナーのやや下流付近には溝水の浄化のためとみられる枡や貯水的な施設とみられる土壙を伴っている。

遺物は溝跡、土壙とその周辺から土師器、須恵器、緑釉・灰釉陶器、漆紙文書、硯、土製品（羽口、円盤）、砥石、木製品、金属製品、鉄滓など多数の遺物が出土しており、土器の中には墨書やヘラ書されたものも多く含まれる。

Ａは、ＳＤ1020Ａ溝跡とＳＫ2051・2298 土壙からなる。ＳＢ2069・3036 掘立柱建物跡、ＳＤ3044・3047 溝跡と重複し、ＳＢ2069・3036 より古く、ＳＤ3044・3047 より新しい。

［ＳＤ1020Ａ］上端幅 0.4～3.1ｍ、底面幅 0.2～2.7ｍ、深さ 30～75㎝ の素掘りの溝跡で、断面形は逆台形もしくは「Ｕ」字状を呈し、底面には凹凸がみられる。堆積土は地山ブロック・粒を含む黒・黒褐色粘質土の自然堆積土からなる。

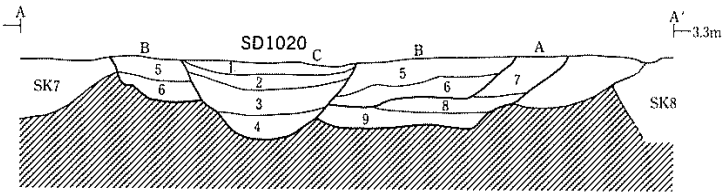
［ＳＫ2051］（第 164 図）ＳＤ1020Ａの中央北寄りに位置する。南北方向の流路に沿って構築されており、ＳＤ1020Ａとは幅 0.5～1.0ｍ、深さ 25～30㎝ 程の溝で接続している。平面形は長軸約 4ｍ、短軸約 3ｍの楕円形で、断面形は皿状を呈し、深さは約 0.6ｍである。堆積土は地山ブロックを含む黒･黒褐色粘土の自然堆積土からなる。

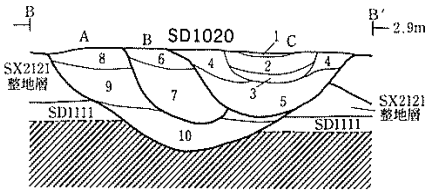
［ＳＫ2298］（第 166 図）ＳＤ1020Ａの南東部に位置する。土壙の東端部のみを検出したにすぎないが、ＳＤ1020Ａとの位置関係や規模、形状等からみて、ＳＫ2051 と同様にＳＤ1020Ａに伴う貯水施設的な性格のものと考えられる。平面形は径約 5ｍ以上の円形と推定され、深さは約 65㎝ である。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。堆積土は地山ブロックが混入する黒・黒褐色粘土の自然堆積土からなる。

遺物は、溝および土壙からロクロ調整の土師器、須恵器、緑釉・灰釉陶器、製塩土器、瓦、鉄滓などが出土しており、「川」「宮城」「曰理」などの墨書土器もみられる。坏類の底部調整は土師器が回転ヘラケズリ調整、手持ちヘラケズリ調整、回転糸切り無調整のものが混在し、須恵器はヘラ切り無調整のものが多い。

Ｂは、ＳＤ1020Ｂ溝跡のみで、これに伴う土壙については明らかではない。溝の北半部ではＳＤ1020Ａとほぼ同位置で重複するが、南半部では区画中央部のやや南寄り付近で東に屈曲し、ＳＤ1020Ａとは流路を大きく変えている。ＳＢ1552 掘立柱建物跡、ＳＫ1218 土壙などと重複し、これらより新しい。

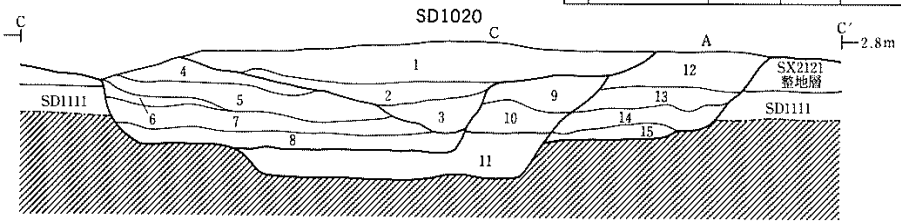
［ＳＤ1020Ｂ］上端幅 0.8～1.0ｍ、底面幅 0.3～0.8ｍ、深さ 30～60㎝ の素掘りの溝跡で、断面形は「Ｕ」字状を呈する。堆積土は黒褐色粘質土の自然堆積土からなり、堆積土の中位には灰白色火山灰の 1 次堆積層が認められる。なお、北半部の東西溝で、溝の底面よりも 30㎝ 程深い枡跡を検出している。平面形は長軸約 2.4ｍ、短軸約 1.4ｍの長楕円形で、壁は直立気味に立ち上がる。堆積土はＳＤ1020Ｂと同様の自然堆積土からなる。



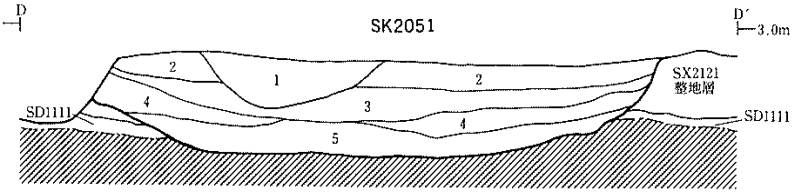


No	土色	土性	備考	
1	黒 10YR1.7/1	シルト	SD1020C	灰白ブロック・炭化物含。
2	黒褐 2.5Y3/1	シルト		地山土含。
3	黒 10YR2/1	シルト		炭化物多。
4	黒褐 10YR3/1	砂質シルト		地山砂多。
5	黒褐 10YR3/1	シルト	SD1020B	炭化物多。
6	褐灰 10YR4/1	砂質シルト		炭化物含。地山砂ブロック多。
7	黒 10YR2/1	シルト	SD1020A	
8	黒 10YR1.7/1	シルト		炭化物含。地山砂若干含。
9	黒褐 10YR3/1	シルト		炭化物含。

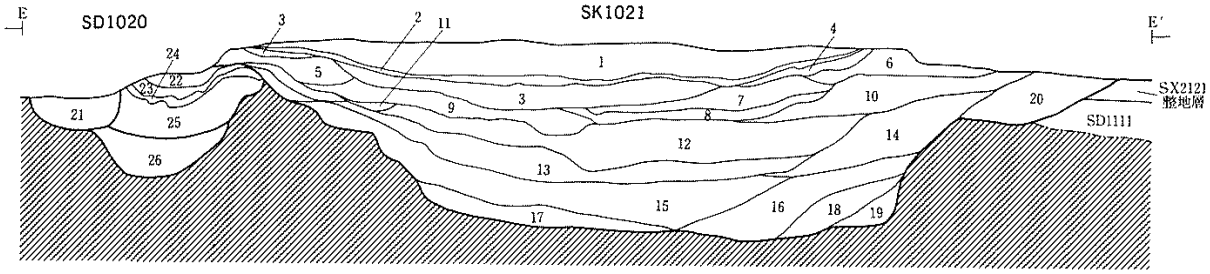
No	土色	土性	備考	
1	暗灰黄 2.5Y4/2	シルト	SD1020C	炭化物含。
2	灰黄褐 10YR4/2	シルト		
3	黒褐 10YR3/2	シルト		炭化物ブロック若干含。
4	黒褐 2.5Y3/2	シルト		
5	黒褐 2.5Y3/2	シルト		灰白ブロック・炭化物含。
6	黄灰 2.5Y4/1	シルト	SD1020B	灰白ブロック含。
7	黒褐 10YR3/1	粘質シルト		
8	黒褐 10YR3/2	シルト	SD1020A	
9	黒褐 10YR2/2	粘質シルト		
10	黒褐 2.5Y3/1	粘質シルト		



No	土色	土性	備考	No	土色	土性	備考
1	黒褐 10YR2/2	粘土	SD1020C 炭化物多。	9	黒褐 2.5Y3/1	粘土	SD1020B 炭化物多。
2	黒 2.5Y2/1	粘土	炭化物多。	10	黒褐 2.5Y3/2	粘土	
3	黒褐 10YR2/2	粘土	炭化物多。	11	黒 5Y2/1	粘土	地山ブロック・砂含。
4	黒 10YR2/1	粘質シルト	[耕作積土]炭化物含。	12	黄褐 10YR5/6	粘土	SD1020A 黒褐色粘土ブロック（大）多。
5	黒褐 2.5Y3/1	粘土	炭化物含。	13	黒褐 10YR2/2	粘土	炭化物多。
6	黒褐 10YR3/2	粘土		14	暗オリーブ褐 2.5Y3/3	粘土	黄褐粘土ブロック多。
7	黒褐 2.5Y3/2	粘土		15	オリーブ黒 5Y2/2	粘土	地山ブロック多。
8	オリーブ黒 5Y2/2	粘土					



No	土色	土性	備考	No	土色	土性	備考
1	黒褐 2.5Y3/1	粘質シルト	炭化物含。	4	黒褐 10YR3/2	粘土	炭化物多。
2	黒褐 10YR3/1	シルト	炭化物含。	5	黒褐 2.5Y3/2	粘土	炭化物・地山ブロック多。
3	黒 10YR2/2	粘土	炭化物多。				



No	土色	土性	備考		No	土色	土性	備考	
1	黒褐 10YR2/2	シルト	SK1021	灰白粒含。	14	黒褐 10YR2/2	シルト	SK1021	炭化物含。地山砂少量含。
2	黒 2.5Y2/1	シルト		灰白粒含。	15	黒褐 2.5Y3/1	シルト		地山ブロック含。
3	黒 2.5Y2/1	シルト		灰白粒含。	16	黒 10YR2/1	粘質シルト		地山ブロック若干含。
4	黒褐 10YR3/2	シルト			17	黒褐 2.5Y3/1	シルト		灰白ブロック・地山ブロック含。
5	黒褐 10YR2/3	シルト			18	黒 2.5Y2/1	粘質シルト		灰白ブロック含。
6	黒褐 10YR3/2	シルト			19	黒褐 2.5Y3/1	シルト		地山砂ブロック含。
7	黒褐 10YR2/2	シルト		炭化物（大）含。	20	黒 10YR2/1	シルト		炭化物・地山砂ブロック小量含。
8	黒 10YR2/7	シルト			21	黒褐 2.5Y3/2	シルト	SD1021C	
9	黒褐 10YR3/1	シルト			22	黒褐 10YR2/3	シルト	整地層	地山ブロック含。
10	黒褐 2.5Y3/1	シルト			23	黒褐 10YR2/2	シルト	SD1020B	灰白ブロック含。
11	黒褐 2.5Y3/2	シルト		地山ブロック含。	24	灰白 10YR7/1	シルト		灰白の一次堆積層。
12	黒褐 10YR2/2	シルト			25	黒 10YR2/1	シルト		上部に灰白粒含。
13	黒褐 2.5Y3/1	シルト			26	黒褐 10YR3/1	シルト	SD1020A	地山砂ブロック含。

0　1　2m

第159図　SD1020溝跡、SK1021・2051土壙断面図

遺物は溝および枡からロクロ調整の土師器、須恵器、赤焼土器、緑釉・灰釉陶器、挽物（盤）、曲げ物、砥石、鉄滓などが出土しており、「川」「厨」「富」などの墨書土器もみられる。

Ｃは、ＳＤ1020Ｃ溝跡とＳＫ1021 土壙からなる。流路はＳＤ1020Ｂとほぼ同様であるが、北半部に南北方向の溝を新たに付している。また、ＳＫ1021 土壙付近では部分的な整地を施した後、溝を掘り直している。ＳＥ6 井戸跡、ＳＫ1210 土壙などと重複し、これらより古い。

［ＳＤ1020Ｃ］上端幅 0.5～2.4m、底面幅 0.3～1.4m、深さ 30～60cm の素掘りの溝跡で、断面形は「Ｕ」字状を呈する。堆積土は上層が溝廃絶後に堆積した黒･黒褐色粘質土（基本層位Ⅱ層）、下層が灰白色火山灰粒を少量含む黒褐色粘質土の自然堆積土からなる。また、北半部の東西溝では、ＳＤ1020Ｂとほぼ同位置で、溝の底面よりも20cm程深い枡跡を検出している。平面形は長軸約2.9m、短軸約1.8mの長楕円形で、壁は緩やかに立ち上がる。

［ＳＫ1021］（第 165 図）ＳＤ1020Ｃのほぼ中央付近に位置する。南北方向の流路に沿って構築され、溝側にやや張り出した形態を呈している。平面形は径 4.3～4.8mの不整円形で、断面形は逆台形状を呈する。深さは約 1.1mで、湧水層である粗砂層まで達している。堆積土はすべて自然堆積土からなり、1～3 層が黒･黒褐色粘質土（基本層位Ⅱ層）、4 層以下が砂混じりの黒褐色土で、壁際には灰白色火山灰ブロックが部分的に少量含まれる。

遺物は、溝や枡、土壙からロクロ調整の土師器および須恵器、赤焼土器、緑釉･灰釉陶器、曲げ物、下駄、土錘、砥石、鉄滓などが出土しており、「川」「賀美」などの墨書土器もみられる。このほか漆紙文書（『孝経』）や漆付着土器なども出土している。

【ＳＤ147 溝跡】（第161･162 図）

調査区北西隅のやや東側に位置し東西方向に延びる溝跡で、地山面で検出した。ＳＸ76 土器埋設遺構、ＳＫ87 土壙などと重複し、これらより古い

検出長は約 14mで東側は調査区外に延びる。上端幅 2.2～3.2m、底面幅は 1.2～1.8mである。深さは約 10cm で、断面形は「Ｕ」字状を呈する。方向は東で 8 度南に偏している。

遺物は出土していない。

【ＳＤ164 溝跡】（第162 図）

調査区北西に位置し南東方向に延びる溝跡で、地山面で検出した。ＳＢ169･170･179 掘立柱建物跡、ＳＡ19 塀跡、ＳＤ1020 溝跡と重複し、これらより古い。

途中で途切れるものの検出長は約 28mで、上端幅 0.2～0.4m、底面幅 0.1～0.2mである。深さは約 10cm で、断面形は「Ｕ」字状を呈する。方向は東で 30 度南に偏している。

遺物は出土していない。

【ＳＤ101 溝跡】（第162 図）

調査区北西に位置し東西方向に延びる溝跡で、地山面で検出した。ＳＢ25・163・168・170 掘立柱建物跡と重複し、これより古い。

検出長は約 5.5mで東側は調査区外に延びる。上端幅 0.6～0.8m、底面幅は 0.7m以下である。深さは約 10cm で、断面形は「Ｕ」字状を呈する。方向は東で19度南に偏している。

遺物は堆積土中からロクロ調整の土師器および須恵器、製塩土器が出土している。

【ＳＤ218溝跡】（第162図）

調査区北西に位置し南東方向に延びる溝跡で、ＳＸ2121整地層上面で検出した。ＳＡ1塀跡と重複し、これより古い。

検出長は約８ｍで南東側は調査区外に延びる。上端幅0.4～0.7ｍ、底面幅は0.2～0.3ｍである。深さは15㎝前後で、断面形は「Ｕ」字状を呈する。方向は東で30度南に偏している。

遺物は出土していない。

【ＳＤ49溝跡】（第162図）

調査区北西に位置し南東方向に延びる溝跡で、ＳＸ2121整地層上面で検出した。ＳＢ112掘立柱建物跡と重複し、これより古い。掘り上げは行っていないため、柱痕跡の有無や深さなどは不明であるが、周囲にはほぼ同方向に延びるＳＡ1･89材木塀跡などを検出しており、これらと同様に材木塀跡の可能性も考えられる。

途中で途切れるものの総長約17.5ｍ、上端幅は0.2～0.4ｍで、方向は東で24度南に偏している。

【ＳＤ2036溝跡】（第163図）

調査区北西のやや中央寄りに位置し南東方向に延びる溝跡で、地山やＳＤ1111堆積土上面で検出した。ＳＢ1102・1103・2035掘立柱建物跡、ＳＤ1020溝跡、ＳＤ1018溝跡と重複し、これらより古い。

検出長は約24ｍで、上端幅約1.5ｍ、底面幅約1.0ｍである。深さは約30㎝で、断面形は「Ｕ」字状を呈する。方向は東で50度南に偏している。堆積土は２層に細分され、下層は黒褐色の粘質土で自然堆積土、上層が地山ブロックが多く混入する黒色土で人為堆積土とみられる。

遺物は緑釉陶器の破片が出土している。

【ＳＤ1018溝跡】（第163図）

調査区北西のやや中央寄りに位置し東西方向に延びる溝跡で、ＳＸ2121整地層上面で検出した。ＳＢ1103掘立柱建物跡、ＳＤ2036溝跡と重複し、ＳＤ2036より新しく、ＳＢ1103より古い。

検出長は約７ｍで上端幅0.5～0.8ｍ、底面幅0.4～0.7ｍである。深さは約15㎝で、断面形は「Ｕ」字状を呈する。方向は東で19度南に偏している。堆積土は地山粒が少量混入する黒色粘土で、自然堆積土とみられる。

遺物はロクロ調整の土師器および須恵器、瓦などが出土しており、須恵器が最も多い。坏類の底部調整は土師器は回転ヘラケズリ調整とヘラ切り無調整や回転糸切り無調整が混在し、須恵器はヘラ切り無調整が主体で、回転糸切り無調整も少量含まれる。

【ＳＤ2091溝跡】（第165図）

調査区中央やや南側に位置し、ほぼ直角に曲がる東西･南北方向の溝跡で、ＳＢ3135と方向を揃えている。地山面で検出し、ＳＫ2094土壙と重複しており、これより新しい。

検出長は南北約5.0ｍ・東西約2.5ｍで、上端幅0.6～1.5ｍ、底面幅0.5～0.9ｍである。深さは南北約25㎝、東西2～11㎝で、南北方向の部分が一段深くなっており、断面形は逆台形状を呈する。方向は南北が北で５度東に偏しており、東西が東で７度南に偏している。堆積土は２層に細分され、い

ずれも自然堆積土とみられる。

遺物は出土していない。

【ＳＤ3044 溝跡】（第165図）

調査区南東のやや西寄りに位置し南北方向に延びる溝跡である。地山面で検出し、ほぼ同位置で一度掘り直しがなされている（Ａ→Ｂ）。ＳＢ3128 掘立柱建物跡、ＳＤ1020Ａ溝跡などと重複し、これらより古い。

Ａは上端幅約 0.5ｍ、底面幅約 0.1ｍで、深さは約 15cm である。断面形は「Ｕ」字状を呈する。

Ｂは検出長約 5.0ｍで、上端幅約 0.9ｍ、底面幅約 0.3ｍである。深さは 14～33cm で、断面形は「Ｕ」字状を呈する。方向は北で10度東に偏している。

遺物はＢの堆積土から調整不明の土師器甕が 1 片のみ出土している。

【ＳＤ3047 溝跡】（第168図）

調査区南東のやや西寄りに位置し南北方向に延びる溝跡である。地山面で検出し、ほぼ同一で一度掘り直しがなされている（Ａ→Ｂ）。ＳＤ1020Ａ溝跡と重複し、これよりも古い。

Ａは検出長約 4.2ｍで、上端幅 0.9～1.0ｍ、底面幅 0.4～0.6ｍである。深さは 17～29cm で、断面形は逆台形状を呈する。方向は北で15度東に偏している。

Ｂは検出長約 4.4ｍで上端幅 0.6～0.7ｍ、底面幅 0.4～0.5ｍである。深さは 9～18cm で、断面形は「Ｕ」字状を呈する。方向は北で18度東に偏している。

遺物はＡの堆積土からロクロ調整の土師器および須恵器、Ｂの堆積土からロクロ調整の土師器および須恵器、平瓦が少量出土している。

【ＳＤ2229 溝跡】（第160･169 図）

区画南東に位置し東西方向に延びる溝跡で、地山やＳＤ1111 河川跡上面で検出した。ＳＫ1382 土壙などと重複し、これよりも古い。

途中で一度途切れるものの約 8ｍまで検出し、上端幅 0.4～0.9ｍ、底面幅 0.3～0.6ｍである。深さは 15cm 前後で、断面形は逆台形状を呈する。方向は東で 6 度南に偏している。堆積土は灰白色火山灰粒を含み、2 層に細分され人為堆積土とみられる。

遺物は堆積土中からロクロ調整の土師器および須恵器が少量出土している。

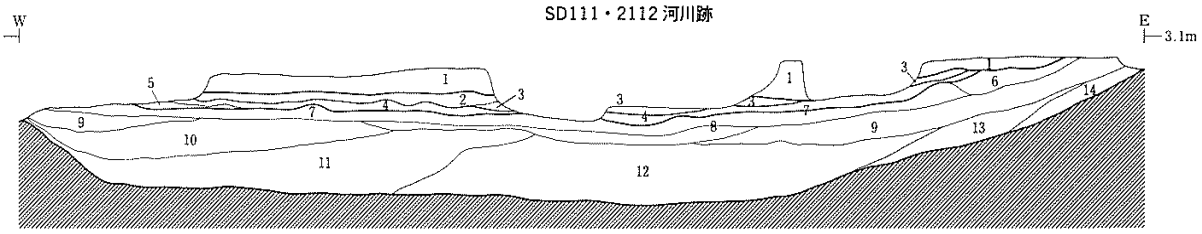
【ＳＤ1374 溝跡】（第160･169 図）

調査区南東に位置し南北方向に延びる溝跡で、地山面で検出した。ＳＦ2260 畑跡、ＳＫ1373 土壙と重複し、ＳＦ2260 より新しく、ＳＫ1373 より古い。

検出長は約 5.5ｍで、上端幅 0.3～0.8ｍ、底面幅 0.1～0.4ｍである。深さは 8～39cm で、断面形は「Ｕ」字状を呈する。方向は北で 7 度東に偏している。堆積土は 3 層に細分され、いずれも自然堆積土である。1 層には灰白色火山灰粒を含む。

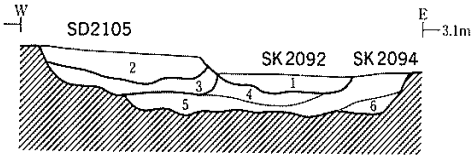
遺物はロクロ調整の土師器および須恵器が出土しており、須恵器が多い。須恵器坏の底部調整はヘラ切り無調整、回転糸切り無調整が混在する。

【ＳＤ2228 溝跡】（第160･169 図）

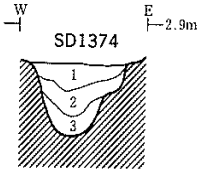


SD1111 No	土色	土性	備考		No	土色	土性	備考	
1	黒褐 10YR2/2	シルト	Ⅲa層	白色凝灰岩粒・炭化物粒含。	8	オリーブ褐 2.5Y4/3	粘土	SD2112	
2	黒 10YR2/1	シルト	SX2121	炭化物・地山ブロック含。	9	黄褐 10YR5/3	砂		細砂層。
3	黒褐 10YR2/2	砂質シルト		地山砂ブロック含。	10	黄褐 10YR5/3	砂		細砂層。
4	黒褐 10YR3/1	粘質シルト	SD1111	地山ブロック含。	11	暗灰黄 2.5Y5/2	砂		粗砂層。
5	黒褐 10YR3/1	粘質シルト		地山ブロック含。	12	灰オリーブ 5GY5/1	砂		細砂層。植物遺体。グライ化。
6	黄褐 2.5Y5/3	砂質シルト	SD2112		13	暗灰黄 2.5Y5/2	砂		粗砂層。グライ化。
7	黄褐 2.5Y5/3	粘土			14	黒 5Y2/1	シルト		粗砂との互層。

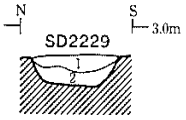
0 1 2m



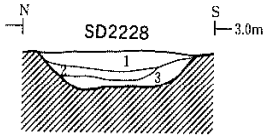
No	土色	土性	備考	
1	黒褐 10YR3/1	シルト	SK2092	炭化物・地山ブロック・土器片多。
2	暗褐 10YR3/3	シルト	SD2105	
3	黒褐 7.5YR2/3	シルト		地山ブロック（大）多。炭化物粒含。
4	黒 10YR2/1	シルト	SK2094	地山ブロック（大）含。
5	黒 7.5YR7.5/1	シルト		地山砂多。炭化物粒含。
6	黒 7.5YR2/1	シルト		全体に地山砂ブロック含。



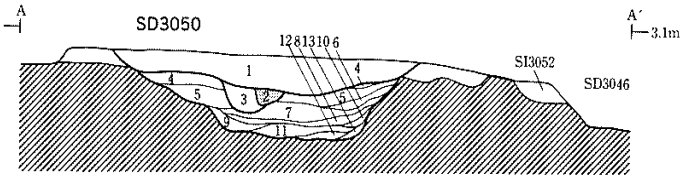
No	土色	土性	備考
1	黒褐 10YR2/2	シルト	灰白粒少量含。炭化物・地山土多。
2	黒 10YR2/1	シルト	炭化物・地山ブロック含。
3	黒 10YR2/1	シルト	地山ブロック含。



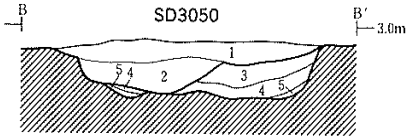
No	土色	土性	備考
1	黒褐 10YR2/2	シルト	灰白粒・炭化物含。
2	黒 10YR2/1	シルト	灰白粒含。地山砂多。



No	土色	土性	備考
1	黒褐 2.5Y3/2	シルト	炭化物含。
2	暗灰黄 2.5Y4/2	砂質シルト	地山砂含。
3	黄褐 10YR5/3	砂	

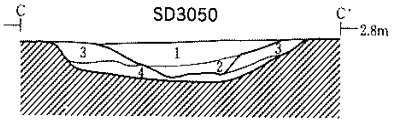


No	土色	土性	備考		No	土色	土性	備考	
1	黒褐 2.5Y3/1	シルト	C(溝跡)	地山砂ブロック含。	8	黄灰 2.5Y4/1	粘質シルト	A	
2	黒褐 2.5Y3/1	粘土	B(塀跡)	［抜取り溝堆積土？］炭化物多。	9	暗灰黄 2.5Y4/2	砂質シルト		地山砂ブロック多。
3	黄褐 2.5Y5/3	シルト		［掘り方埋土］地山砂ブロック（大）多。	10	暗灰黄 2.5Y4/2	砂質シルト		地山砂ブロック多。
4	灰オリーブ 5Y5/2	細砂	A(溝跡)	細砂層（ラミナ）。	11	オリーブ褐 2.5Y4/3	砂		
5	暗灰黄 2.5Y4/2	砂質シルト		地山砂ブロック含。	12	暗灰黄 2.5Y5/2	砂		細砂層。
6	暗オリーブ褐 2.5Y3/3	砂質シルト		地山土ブロック（大）多。	13	黒褐 2.5Y3/1	粘土		
7	灰オリーブ 5Y5/2	砂		細砂層（ラミナ）。					



No	土色	土性	備考	
1	黒褐 10YR3/2	シルト	C(溝跡)	炭化物粒含。
2	黒褐 2.5Y3/2	粘質シルト		地山土・炭化物粒含。
3	灰黄褐 10YR4/2	粘質シルト	A	地山砂含。
4	暗灰黄 2.5Y4/2	砂		地山砂多。
5	黒 2.5Y2/1	粘質シルト		

※平面図（セクションポイント）は第229図参照



No	土色	土性	備考	
1	暗灰黄 2.5Y4/2	シルト	C	
2	黒褐 2.5Y3/2	シルト		地山ブロック含。
3	暗オリーブ褐 2.5Y3/3	シルト	A	地山ブロック含。
4	黄灰 5Y6/3	シルト		地山土多。

0 1 2m

第160図　南1西2区溝跡断面図

調査区南東部から南１西１区にかけて延びる東西方向の溝跡で、地山面で検出した。ＳＸ1250 道路跡、ＳＩ3052 竪穴住居跡、ＳＡ2280 材木塀跡、ＳＤ2235･2236 溝跡と重複し、ＳＡ2280、ＳＤ2235･2236 より新しく、ＳＸ1250、ＳＩ3052 より古い。

検出長は未精査部分を含め約 45ｍで、上端幅約 1.5ｍ、底面幅 0.7～1.0ｍである。深さは約 30cm で、断面形は「Ｕ」字状を呈する。方向は東で約８度南に偏している。堆積土は３層に細分され、いずれも自然堆積土と考えられる。

遺物はロクロ調整の土師器、須恵器、瓦などが少量出土している。

【ＳＤ3050 溝跡】（第160･169･229 図）

調査区南東部から南２西２区・南２西１区にかけて延びる溝跡で、地山面で検出した。同位置で２度の掘り直し（Ａ→Ｃ）が認められた。検出長は約 107ｍで、方向は東で約42度南に偏している。なお、Ｂについては、部分的にではあるが柱の抜取り痕跡が確認されており、材木塀跡の可能性も考えられる。ＳＸ1300 道路跡やＳＢ3035 掘立柱建物跡、ＳＥ3048 井戸跡、ＳＤ2228 溝跡、ＳＫ3066・3074・3080 などの南２西２区の土取り穴群、ＳＫ1474・3024・3043 土壙などと重複し、ＳＫ3080 より新しく、その他より古い。

Ａは上端幅 1.5～1.6ｍ、底面幅 0.8～1.3ｍで深さは 20～45cm である。断面形は逆台形状状を呈する。堆積土は２層に細分され、いずれも自然堆積土とみられる。

Ｂは上端幅約26cm、底面幅約15cmで、深さは約31cmである。断面形はＵ字状を呈し、柱を抜き取った痕跡がみられる。堆積土は１層で、人為堆積土である。

ＣはＢの柱を抜き取った後、そのまま溝跡として利用したものと考えられ、上端幅 1.8ｍ前後、底面幅約 1.0ｍである。深さは 11～21cm で、断面形は「Ｕ」字状を呈する。堆積土は 10 層に細分され、いずれも自然堆積土である。

遺物はＣの堆積土中から土師器および須恵器の甕が３片出土しているのみである。

(10) 小溝状遺構群

数条の小溝が平行して延びるもので畑跡の可能性が考えられる。調査区の北西部で４面、中央付近で２面、南東部で２面検出した。

【ＳＦ32 小溝状遺構群】（第161･162 図）

調査区北西に位置し、ＳＸ999 整地層上面および地山面で検出した。東西･南北に平行して延びる小溝群である。方向によってＡ（南北）→Ｂ（東西）２時期の変遷を確認している。ＳＢ197･201･202 掘立柱建物跡などと重複し、これらより古い。

Ａは 0.2～0.8ｍ間隔で９条（ａ～ｉ）確認しており、検出長は最長約 5.5ｍで、上端幅 0.3～0.7ｍ、底面幅は 0.2～0.7ｍである。深さは 5cm 前後で、断面形は「Ｕ」字状を呈する。方向は北で18度前後東に偏している。

Ｂは 0.1～0.5ｍ間隔で７条確認しており、検出長は最長約７ｍで、上端幅 0.2～0.5ｍ、底面幅は 0.1～0.4ｍである。深さは 10cm 前後で、断面形は「Ｕ」字状を呈する。方向は東で16度前後南に偏し

ている。

遺物はＡから調整不明の土師器と須恵器が数片、Ｂからロクロ調整の土師器、須恵器が少量出土しているのみである。

【ＳＦ220小溝状遺構群】（第161･162図）

調査区北西に位置し、地山面で検出した。南北に平行して延びる小溝群である。ＳＢ111･178･179掘立柱建物跡、ＳＡ19材木塀跡、ＳＥ50井戸跡、ＳＫ54・56土壙などと重複し、これらより古い。

溝は1.7～2.5m間隔で4条（ａ～ｄ）確認しており、検出長は最長約4.5mで、上端幅0.2～0.3m、底面幅は0.1～0.2mである。深さは5cm前後で、断面形は「Ｕ」字状を呈する。方向は北で約18度東に偏している。

遺物は出土していない。

【ＳＦ214小溝状遺構群】（第162図）

調査区北西に位置し、地山面で検出した。東西に平行して延びる小溝群である。ＳＤ61・108溝跡などと重複し、それより古い。

溝は0.1～0.8m間隔で7条（ａ～ｇ）確認しており、検出長は最長約3mで、上端幅0.1～0.3m、底面幅は0.1～0.2mである。深さは5cm前後で、断面形は「Ｕ」字状を呈する。方向は東で約17度南に偏している。

遺物は出土していない。

【ＳＦ2113小溝状遺構群】（第164図）

調査区ほぼ中央に位置し、地山面で検出した、東西に平行して延びる小溝群である。ＳＸ2121整地層に覆われる。ＳＢ1086･1091･1176掘立柱建物跡、ＳＦ2114小溝状遺構群と重複し、ＳＦ2114より新しく、ＳＢ1086・1091・1176より古い。

溝は5条（ａ～ｅ）確認している。間隔は残りが悪い為ばらつきがあるが、比較的残りのよい部分でみると0.7～0.9m間隔である。検出長は最長約4.3m、上端幅は0.2～0.4mで、底面幅や深さなどは掘り上げを行っていない為不明である。方向は東で5度前後南に偏している。

堆積土は地山ブロックが少量混入する黒褐色粘質土である。

【ＳＦ2114小溝状遺構群】（第164図）

調査区ほぼ中央に位置し、地山面で検出した、南西に平行して延びる小溝群である。ＳＸ2121整地層に覆われる。ＳＢ1091・1176掘立柱建物跡、ＳＦ2113小溝状遺構群と重複し、これらよりも古い。

溝は9条（ａ～ｉ）確認している。間隔は残りが悪くばらつきがあるが、比較的残りのよい部分でみると0.3～0.9m間隔である。検出長は最長約2.5m、上端幅は0.4～0.5mで、底面幅や深さなどは掘り上げを行っていない為不明である。方向は北で50度前後東に偏している。

堆積土は地山ブロックが少量混入する黒褐色粘質土である。

【ＳＦ2202小溝状遺構群】（第166図）

調査区南東に位置し、地山面で検出した、南北に平行して延びる小溝群である。ＳＤ1020Ｃ･2201溝跡や周辺の柱穴などと重複し、それらより古い。ＳＸ2121整地層との関係は確認できなかった。

溝は0.1～0.6m間隔で13条（ａ～ｍ）確認しており、検出長は最長約9ｍで、上端幅は0.3～1.2m、底面幅や深さなどは掘り上げを行っていない為不明である。方向は北で約8度東に偏している。

【ＳＦ2260小溝状遺構群】（第169図）

調査区南東に位置し、地山やＳＤ1111堆積土上面で検出した、南北に平行して延びる小溝群である。ＳＢ1243・1245・1246・3128・3129掘立柱建物跡と重複し、これらよりも古い

溝は0.1～1.0m間隔で24条（ａ～ｚ）確認しており、検出長は最長約6ｍで、上端幅0.2～0.5m、底面幅は0.1～0.4mである。深さは5～25cmで、断面形は「U」字状を呈する。方向は北で約8度東に偏している。

堆積土は黒褐色土である。

遺物は堆積土中からロクロ調整の土師器、須恵器が少量出土している。

(10)河川跡

【ＳＤ1111河川跡】（第160･164･166図）

調査区北西部から南半部にかけて、蛇行しながら南流する浅い河川跡で、地山面で検出した。ＳＤ2112河川跡よりも新しい。掘立柱建物跡やＳＤ1020溝跡などの重複する遺構の多くは、河川の整地（ＳＸ2121）後に構築されたものである。

上端幅最大20m以上、底面幅6ｍ以上、深さは約35cmと浅く、底面は標高で約2.2mである。堆積土は黒・黄褐色粘土で、流れの少ない淀んだ状況下で堆積したものと思われる。

遺物は出土していない。

［ＳＸ2121整地層］

ＳＤ1111を埋め立てるための整地で、層厚は河川中央部で最も厚く約10cm程残存する。地山ブロックが多く混入する黒･黒褐色土で埋め戻しており、上面には基本層位Ⅲａ層の黒褐色土が堆積している。

遺物はロクロ調整の土師器および須恵器が極少量出土しているのみである。

【ＳＤ2112河川跡】（第160図）

調査区北西から南東方向に延びる河川跡で、ＳＤ1111河川跡の下層で検出した。奈良･平安時代の地山である基本層位ａ̈層を侵食するが、断面観察等によって確認したにとどまり、詳細は不明である。

上端幅約10m以上、深さは約1.1mまで確認し、更に深くなっている。堆積土は主に黄褐色の砂が堆積している。

遺物は出土していない。

(11)時期不明の遺構

本調査区や南2西1区において他の掘立柱建物跡に比して、円形や隅丸方形で径（一辺）20～45cmの小規模な柱穴を持つ掘立柱建物跡や柱列を検出した。重複するものについては他の遺構よりも新しく、柱穴埋土には古代の遺構面を覆う基本層位Ⅱ層起源の黒・黒褐色土を多く含んでいる。遺物もほ

とんどが数片の小破片で時期の特定は困難であることから、これらの遺構については時期不明の遺構として説明を行うこととする。

ａ.掘立柱建物跡

【ＳＢ226掘立柱建物跡】（第162図）

調査区の北西に位置する、東西３間、南北１間の東西棟である。柱穴は地山面で８ヶ所検出し、すべての柱穴で柱痕跡を確認している。ＳＢ168・169・170掘立柱建物跡などと重複し、ＳＢ168よりも新しい。他の掘立柱建物跡とは直接の切り合いはないものの、柱穴埋土などから新しいものと考えられる。

平面規模は桁行が南側柱列で総長5.65ｍ、柱間寸法は西より1.98ｍ・1.94ｍ・1.71ｍ。梁行は西妻で2.63ｍである。方向は南側柱列でみると、東で約17度南に偏している。柱穴は一辺が20～38㎝の隅丸方形で深さは19～61㎝、柱痕跡は8～13㎝の円形である。

遺物は出土していない。

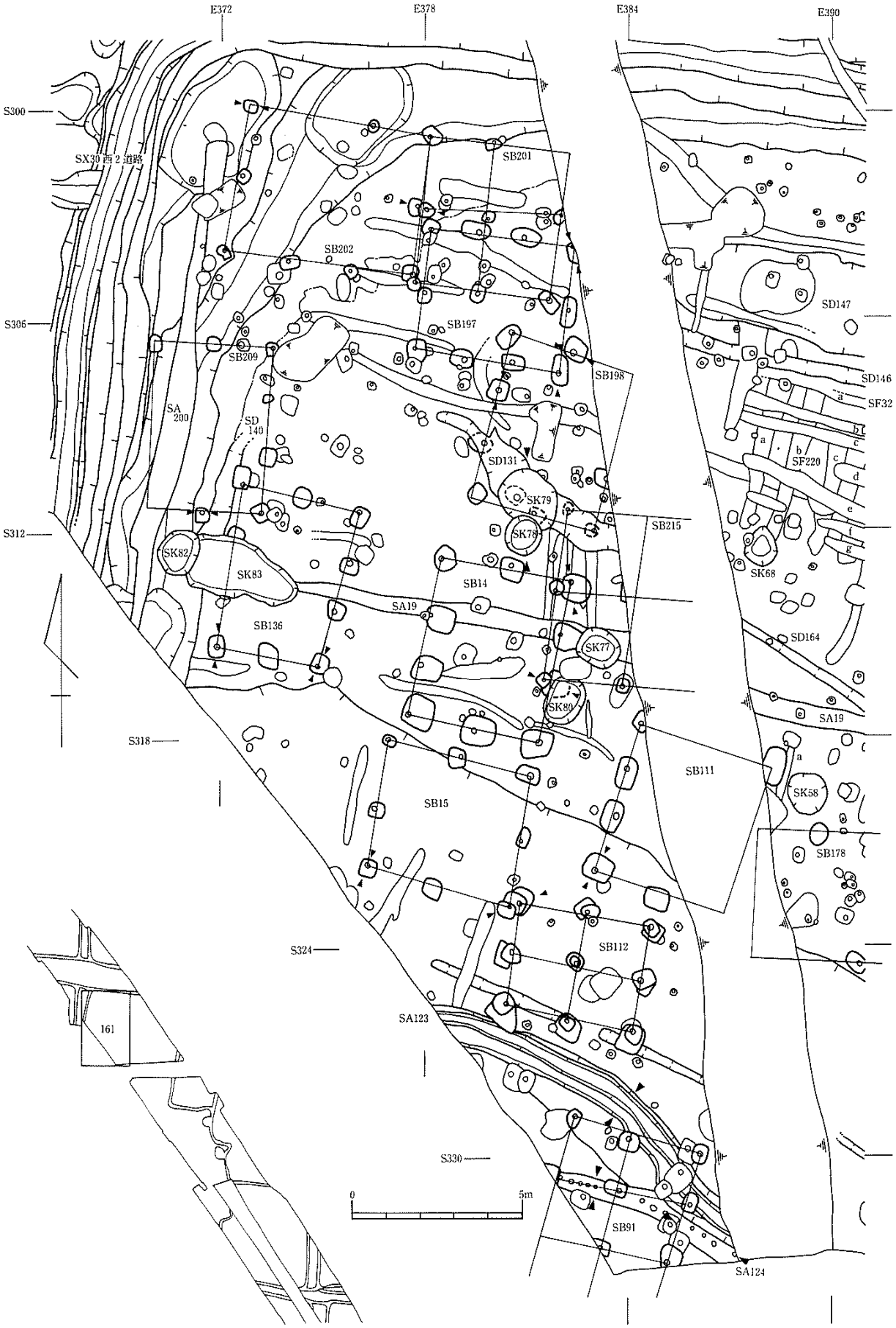
ｂ.柱列

【ＳＡ228柱列】（第162図）

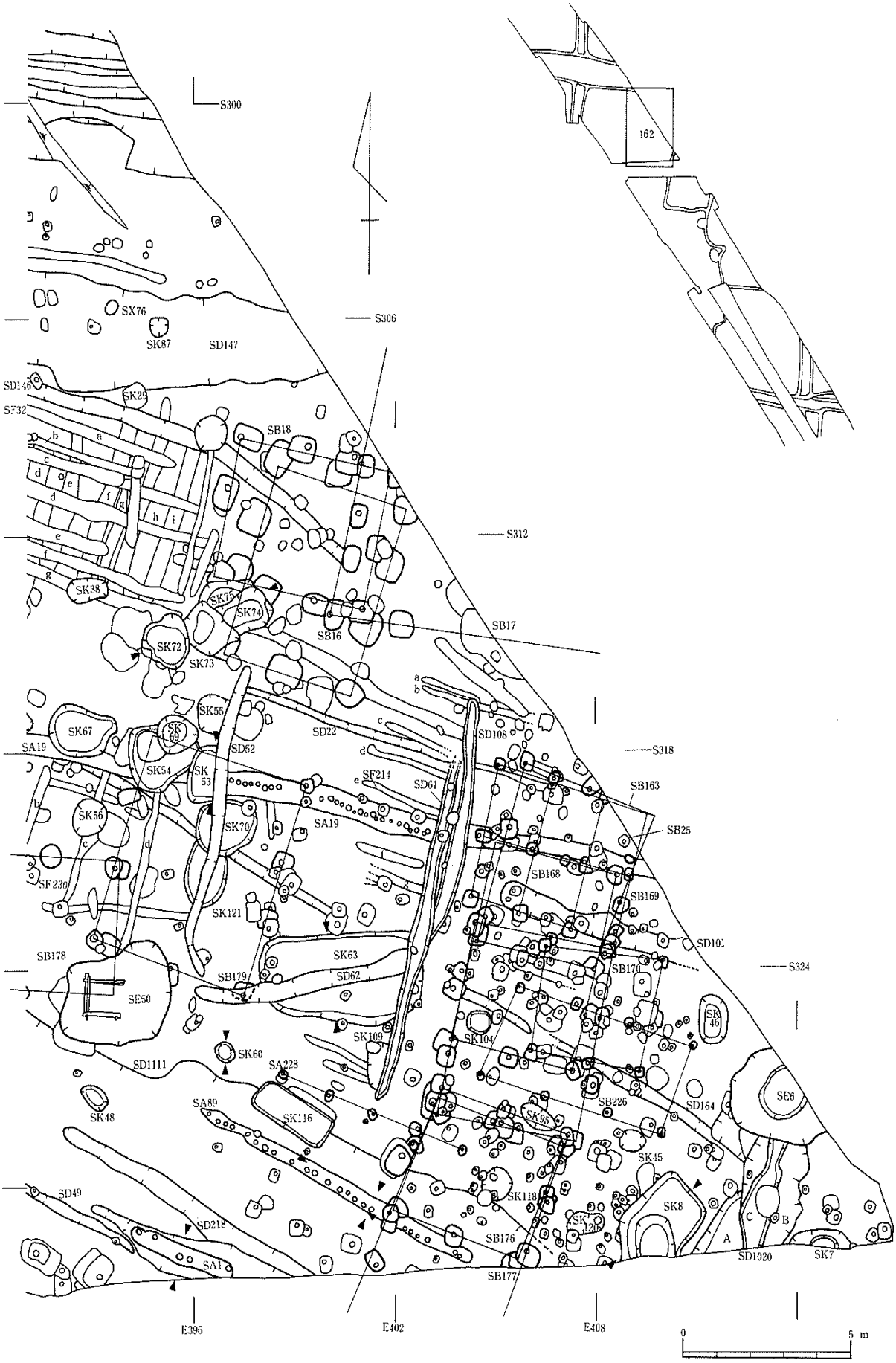
調査区の北西に位置し、地山面で４間分を検出した。ＳＢ175・176・177掘立柱建物跡などと重複し、直接の切り合いはないものの、柱穴埋土などから新しいものと考えられる。

総長5.75ｍ、柱間寸法は西より1.47ｍ・1.39ｍ・1.42ｍ・1.45ｍ。方向は東で約22度南に偏している。柱穴は１辺23～40㎝の隅丸方形で、深さ13～31㎝、柱痕跡は径7～12㎝の円形である。

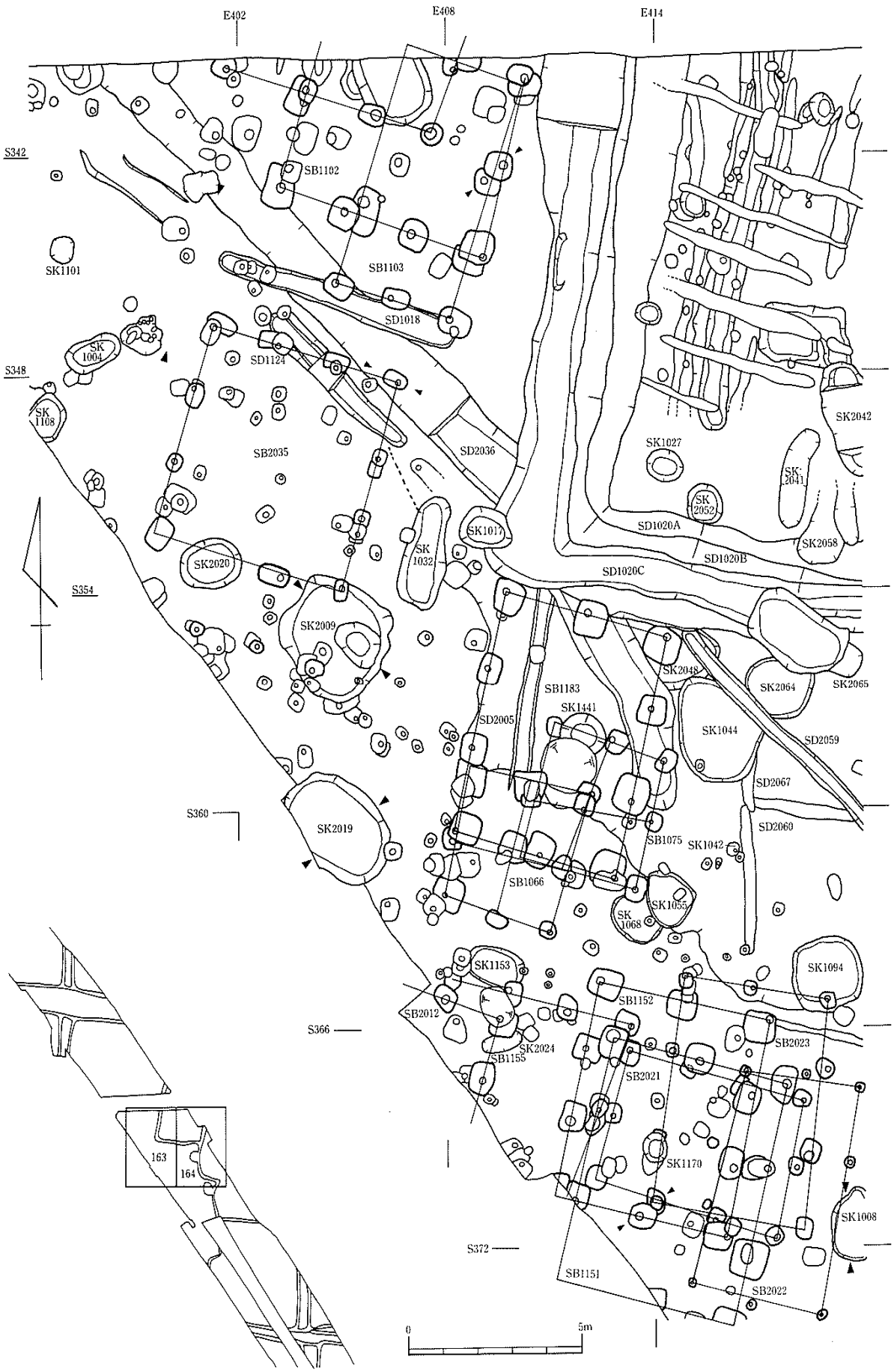
遺物は出土していない。



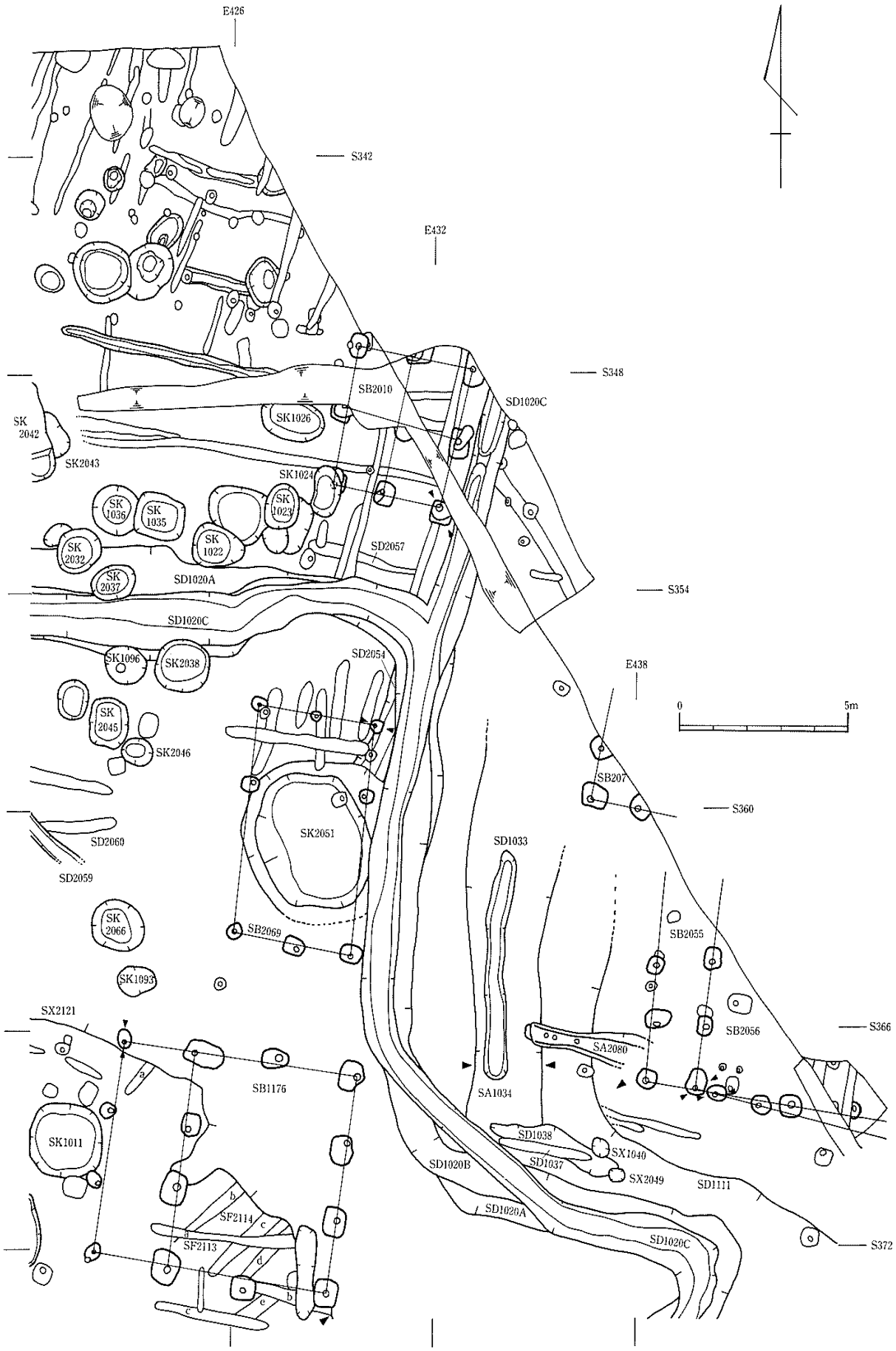
第161図　南１西２区分割図(1)



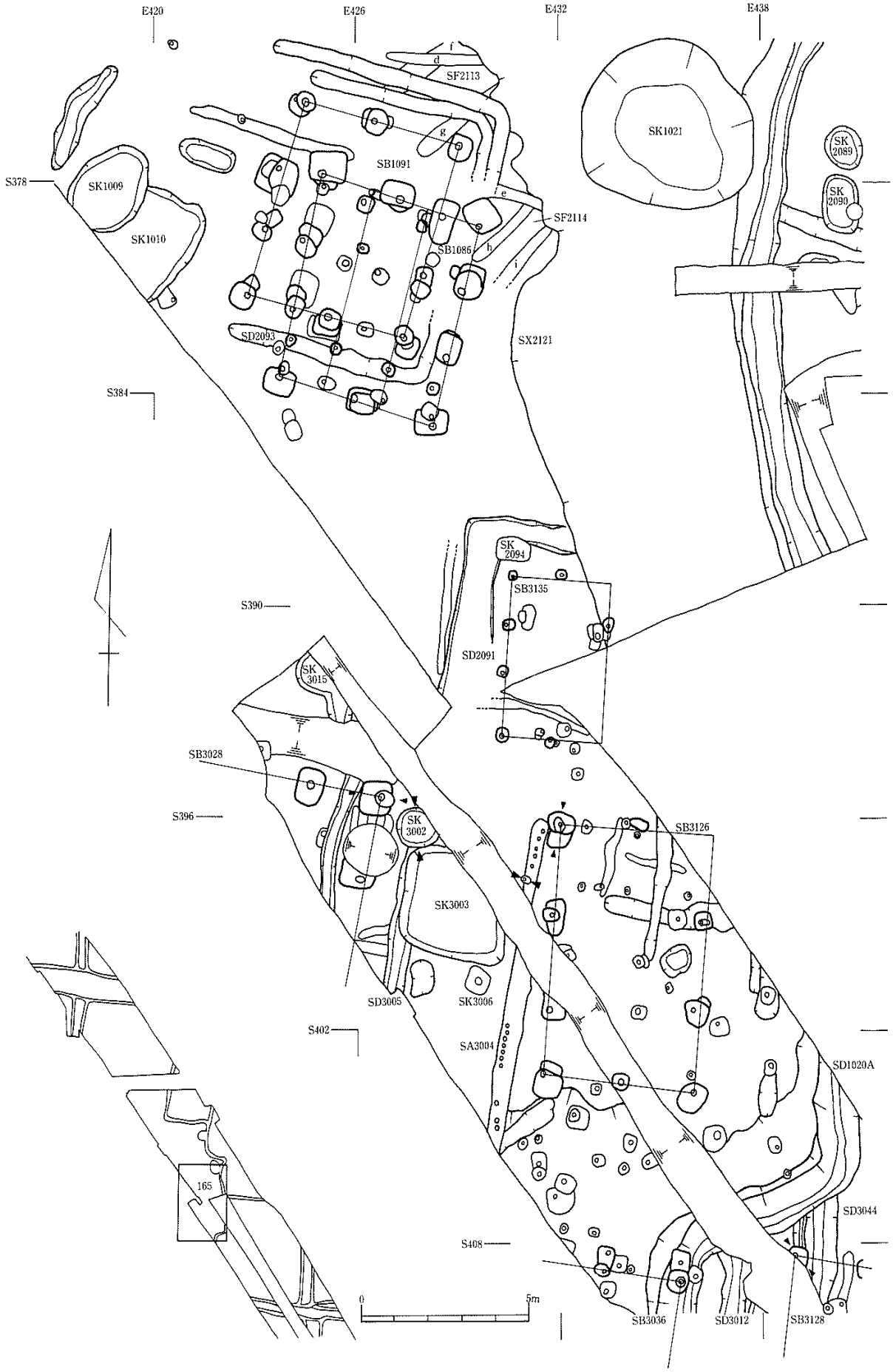
第162図　南１西２区分割図(2)



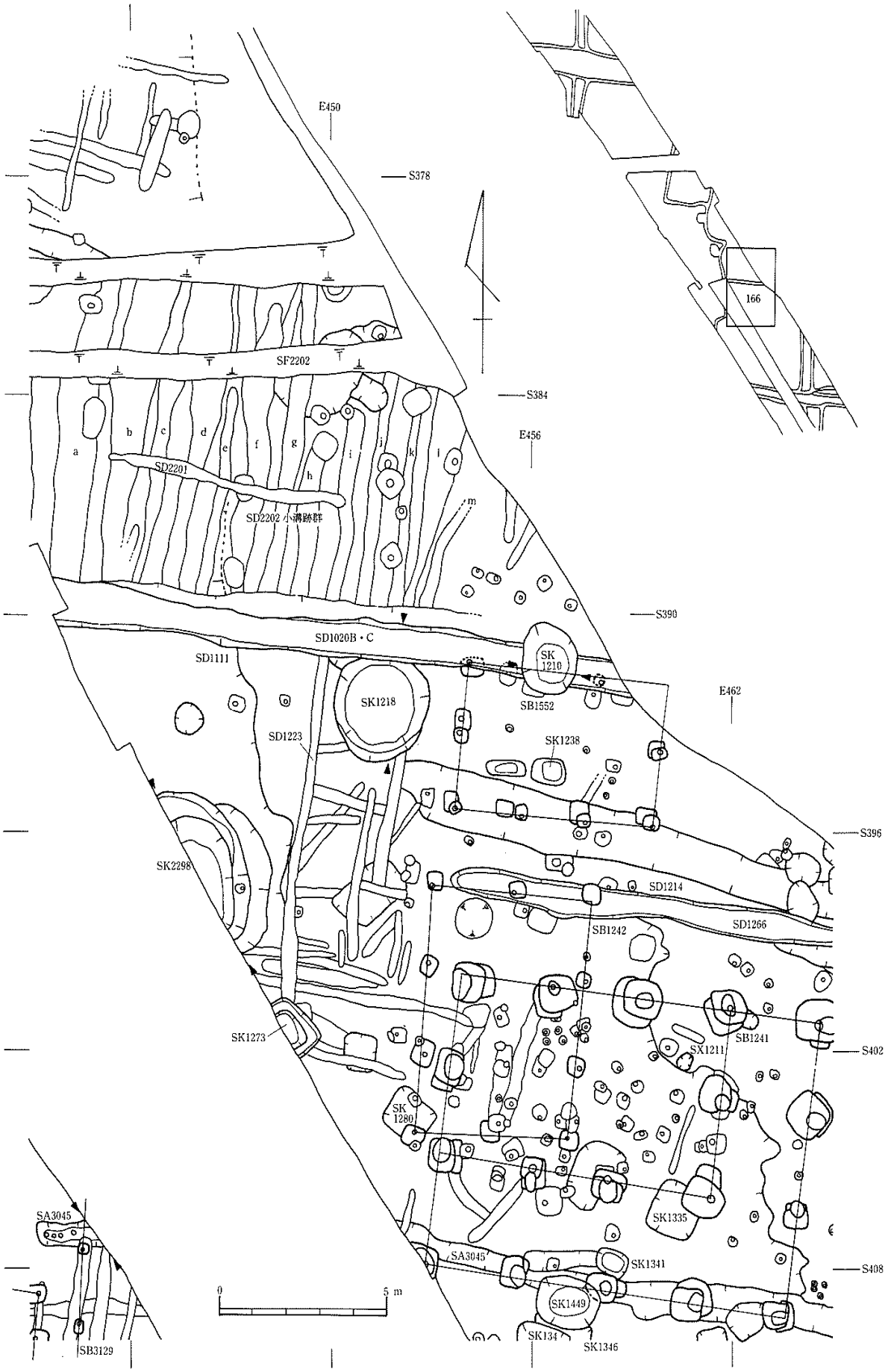
第163図　南１西２区分割図(3)



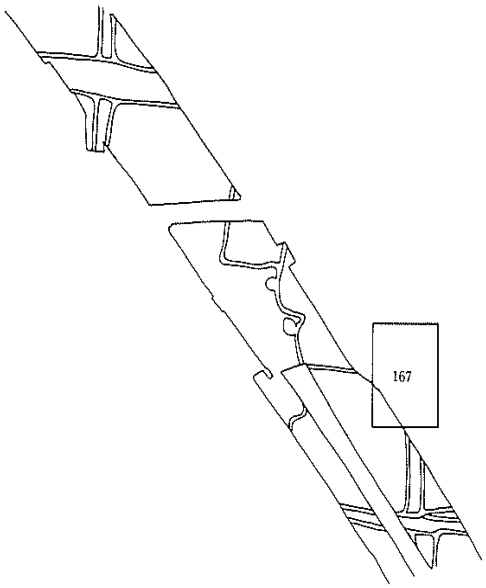
第164図　南１西２区分割図(4)

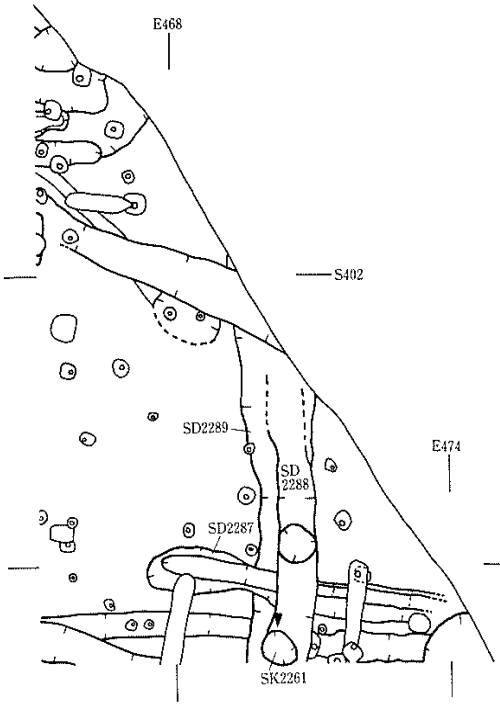


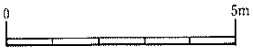
第165図　南１西２区分割図(5)



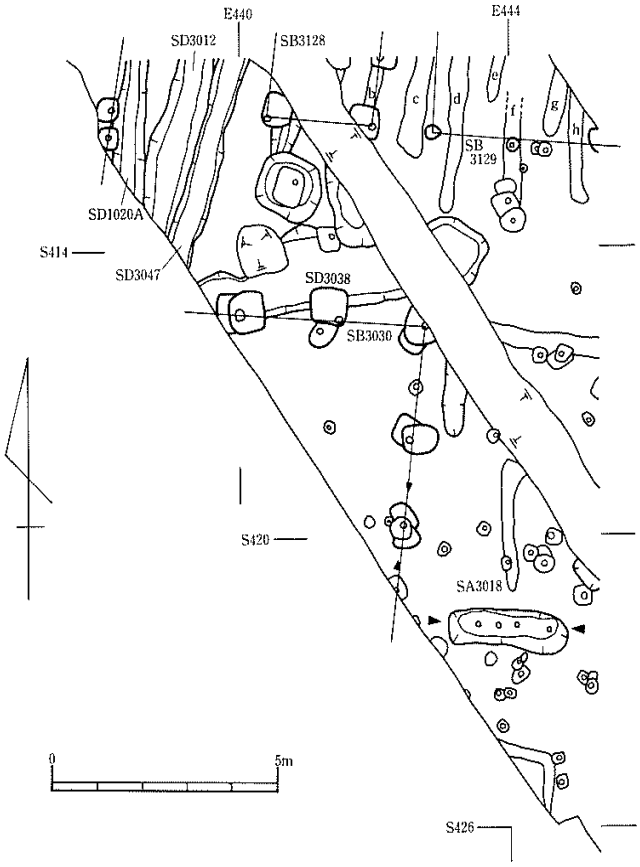
第166図　南１西２区分割図(6)

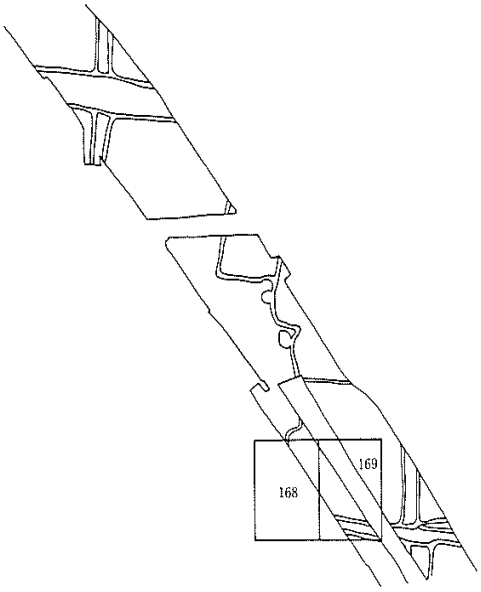




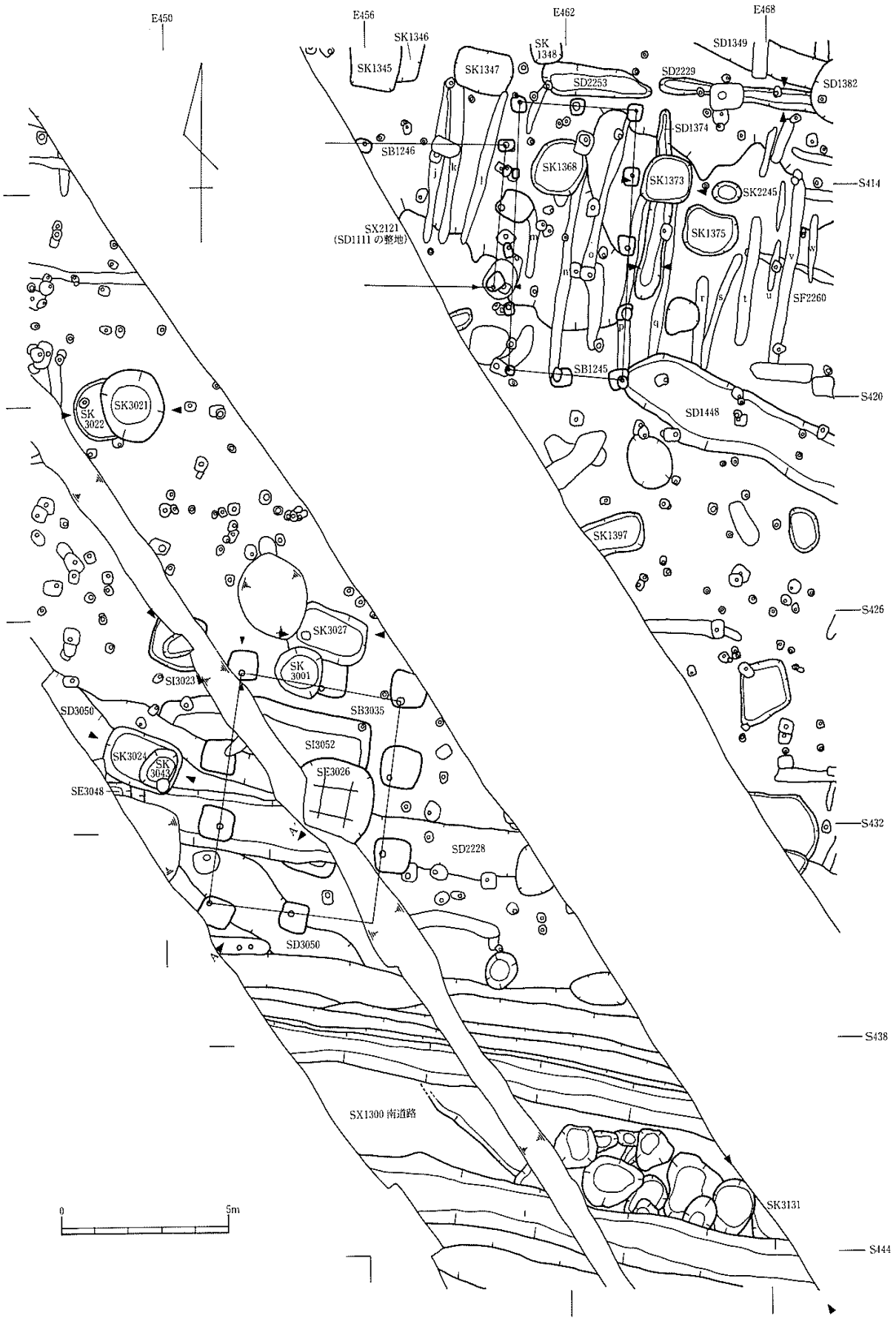


第167図　南１西２区分割図(7)

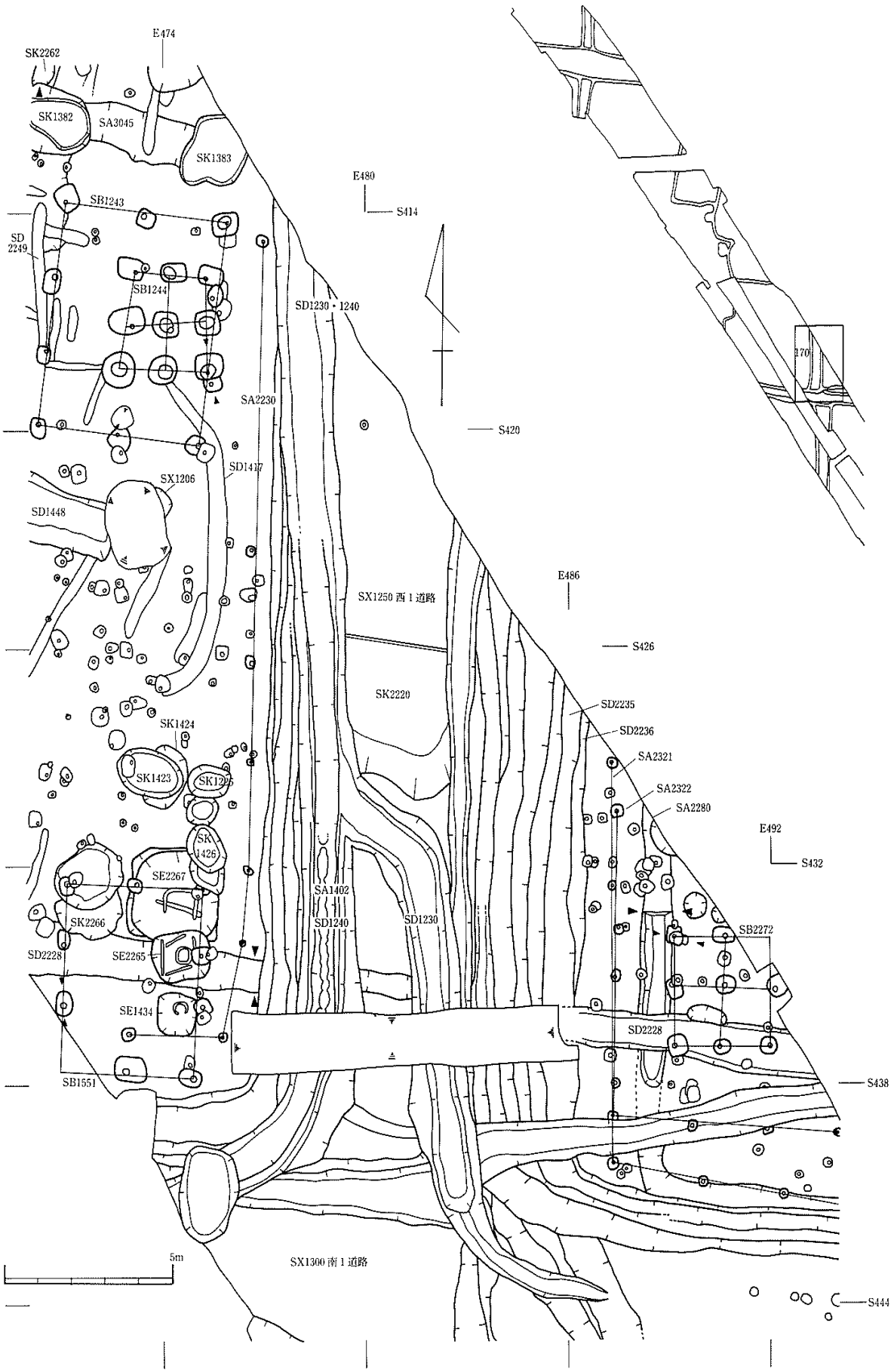




第168図　南１西２区分割図(8)



第169図　南１西２区分割図(9)



第170図　南1西1・2区分割図

第13表　南１西２区掘立柱建物跡一覧表（その１）

遺構名	棟方向	規模（間）（長軸×短軸）	総長（m）	方向（°）	備　　考	本文（頁）	図版番号 分割図	図版番号 個別図
SB 14	南北棟	3×2	4.67×3.96	N-13-E	礎板あり。	161	161	
SB 15	東西棟	2×2	4.29×3.62	E-14-S		162	161	
SB 16	南北棟	3×2	(5.4)×(4.0)	(N-18-E)		164	162	124
SB 17	南北棟	4以上×2以上	不明	N-13-E		164	162	124
SB 18	東西棟	3×2	(4.7)×(4.1)	(E-10-S)		164	162	124
SB 25	東西棟	3×2	4.46×3.73	E-17-S	総柱。	165	162	124
SB 91	東西棟	2×2	3.87×3.25	E-17-S	総柱。	164	161	
SB 111	南北棟	3×2	4.39×(4.0)	N-19-E		161	161	
SB112A	東西棟	2×2	不明	E-11-S	総柱。礎板あり。	162	161	
SB112B			3.81×2.93					
SB 136	南北棟	3×2	4.72×3.02	N-15-E		161	161	
SB 163	南北棟	3×2	4.61×3.73	N-19-E		165	162	124
SB 168	南北棟	3×2	5.54×3.71	N-14-E	礎板あり。	165	162	124
SB 169	南北棟	3×2	5.39×4.10	N-12-E		165	162	124
SB 170	東西棟	2×2	3.51×2.93	E-8-S		166	162	124
SB 175	南北棟	3以上×2	不明×(4.2)	(N-20-E)		166		124
SB 176	東西棟	2×2	(4.1)×(3.4)	(E-18-S)	礎板あり。	167	162	
SB 177	南北棟	3以上×2	不明×(4.0)	N-22-E	礎板あり。	166	162	124
SB 178	東西棟？	3？×2	不明×(3.7)	(E-7-S)		162	161・162	
SB 179	南北棟	3×2	6.07×4.75	N-18-E		164	162	124
SB 197	東西棟	3×2	4.18×3.42	E-7-S		160	161	
SB 198	南北棟	3×2	4.71×3.67	(N-14-E)	礎板あり。	160	161	
SB 201	—	2×2	4.21×4.02	N-7-E	総柱。	160	161	
SB 202	東西棟	3×2	5.55×(4.2)	E-8-S	→抜取り。	159	161	
SB 209	南北棟	3×2	4.75×(3.42)	N-4-E		160	161	
SB 215	—	2×2	4.96×(4.73)	N-8-E	総柱→切取り。	161	161	
SB1066	南北棟	2×2	3.94×3.21	N-18-E	総柱？礎板あり。	169	163	131
SB1075	南北棟	2×2	3.60×(3.3)	N-14-E	総柱。礎板あり。→抜取り。	168	163	131
SB1086A	南北棟	3×2	不明	N-13-E	床束あり。	173	165	138
SB1086B			5.79×4.78					
SB1091A	南北棟	3×2	不明	N-17-E		173	165	138
SB1091B			5.66×4.84					
SB1102	東西棟	3×2	6.10×5.20	E-19-S	礎板あり。	167	163	
SB1103	南北棟	3×2	(5.89)×3.46	(E-18-S)		167	163	
SB1151	南北棟	3×2	6.78×5.18	E-13-S	→抜取り。	170	163	131
SB1152	南北棟	3×2	6.04×5.10	N-12-E	礎板あり。→抜取り。	169	163	131
SB1155	南北棟？	3以上×2以上	不明	E-16-S		170	163	131
SB1176	南北棟	3×3	7.02×6.03	N-8-E	片廂（西廂）→切取り。	172	164	
SB1183	南北棟	3×2	6.78×4.81	N-13-E	→切取り。	168	163	131
SB1241A	東西棟	4×3	不明	(E-9-S)	二面廂（南・東廂）→抜取り or 切取り。	178	166	141
SB1241B			(10.9)×(8.2)					
SB1242	南北棟	3×2	6.83×4.58	N-5-E	礎板あり。	176	166	141
SB1243A	南北棟	3×2	不明	N-7-E	総柱→切取り。	179	170	
SB1243B			6.14×5.00					
SB1244	—	2×2	2.56×2.12	E-4-S	→抜取り or 切取り。	180	170	
SB1245	南北棟	4×2	7.61×3.48	N-3-E	→切取り。	179	169	141
SB1246	東西棟？	2以上×2	不明×4.17	N-3-E		179	169	141
SB1551	南北棟	3×2	5.19×4.05	N-3-E	礎板あり。	180	170	
SB1552A	東西棟	3×2	不明	E-5-S	礎板あり。	176	166	141
SB1552B			5.92×4.07					
SB2010	南北棟	2×2	3.87×3.23	N-13-E	総柱。礎板あり。→切取り。	172	164	
SB2011	不明	2以上×2以上	不明	不明				
SB2012	不明	2以上×2以上	不明	不明			163	
SB2021	東西棟	3×2	5.23×3.83	E-16-S	→抜取り。	170	163	131
SB2022	南北棟	3×2	6.31×3.85	N-10-E		172	163	
SB2023	南北棟	3×2	(6.39)×4.15	N-6-E		169	162	131

第14表　南１西２区掘立柱建物跡一覧表（その２）

遺構名	棟方向	規模（間）（長軸×短軸）	総長（m）	方向（°）	備　　考	本文（頁）	図版番号 分割図	図版番号 個別図
SB2035A	―	３×３	不明	N-16-E	４×３間(南廂)の可能性あり。→抜取り・切取り	168	163	131
SB2035B			5.85×5.54					
SB2055	南北棟？	３以上×３以上	不明	不明			164	
SB2056	不明	３以上×２以上	不明	不明			164	
SB2069	南北棟	３×２	6.23×3.53	N-７-E	礎板あり。	172	164	
SB2272	―	２×２	3.03×2.83	N-１-E	総柱→切取り。		170	
SB3028	不明	１以上×１以上	不明	不明	→切取り。		165	
SB3030A	不明	２以上×２以上	不明	(N-７-E)	礎板あり。	178	168	
SB3030B			不明					
SB3035	南北棟	３×２	6.49×4.83	N-８-E	→抜取り。	180	169	
SB3036A	不明	２以上×２以上	不明	(N-５-E)			165	
SB3036B			不明					
SB3126A	南北棟	３×２	不明	N-５-E	礎板あり。→切取り。	174	165	
SB3126B			7.08×4.48					
SB3128	南北棟	２×１	2.76×2.28	N-６-E	→切取り。	176	165・168	
SB3129	不明	２以上×２以上	不明	N-３-E			166	
SB3135	南北棟	３×２	4.43×（3.0）	N-４-E		174	165	

第15表　南1西1・2区土壙一覧表（その1）

遺構名	平面形	断面形	規模		備考	本文	図版番号	
			長軸×短軸（m）	深さ（cm）		（頁）	分割図	断面図
SK 7	円形？	不整形	不明	56			162	
SK 8	不整方形	不整形	2.5×1.8	60		190	162	154
SK 29	円形	不明	0.9～1.0	10			162	
SK 38	楕円形	不明	1.2×0.7	不明			162	
SK 45	円形	皿状	0.6～0.8	13		190	162	
SK 46	楕円形	皿状	1.4×0.9	22			162	
SK 48	楕円形	皿状	0.9×0.5	31			162	
SK 53	隅丸方形	皿状	1.6	17		188	162	154
SK 54	不整方形	皿状	1.8～2.2	22	灰白ブロック含。		162	
SK 55	隅丸方形	不明	1.1	不明			162	
SK 56	円形	不明	1.0	不明			162	
SK 58	円形	不明	1.2	不明				
SK 60	円形	皿状	0.5～0.6	10	遺物多。	190	162	154
SK 63	隅丸長方形	皿状	5.0×2.5	25	灰白粒含。	190	162	154
SK 67	不整楕円形	皿状	1.8×1.3	23			162	
SK 68	不整方形	皿状	0.8～1.1	18			161	
SK 69	不整円形	擂鉢状	1.1	47			162	
SK 70	円形	皿状	1.6～1.8	16			162	
SK 72	不整円形	逆台形	1.4	30		188	162	154
SK 73	不整方形	皿状	1.2～1.4	35	灰白ブロック含。	188	162	154
SK 74	不整方形	皿状	1.4×1.0	35	灰白ブロック多。	188	162	154
SK 77	隅丸方形	皿状	1.1～1.2	15	遺物多。		161	
SK 78	円形	皿状	1.1	18			161	
SK 79	楕円形	皿状	1.9×1.4	20		188	161	154
SK 80	隅丸長方形	皿状	1.1～1.4	12			161	
SK 82	不整円形	皿状	1.2～1.4	21			161	
SK 83	不整形	皿状	3.5×1.8	25			161	
SK 87	不整円形	不明	0.6	不明			162	
SK 95	楕円形	逆台形	0.6～1.2	24			162	
SK 104	円形	皿状	0.7	8			162	
SK 109	長方形？	不明	1.3×0.7	不明			162	
SK 116	長方形	逆台形	2.4×1.0	28	→埋め戻し。		162	
SK 118	円形	皿状	0.9	3			162	
SK 120	不整楕円形	不整形	1.1×0.6	27			162	
SK 121	楕円形	皿状	1.2×2.0	15			162	
SK1004	楕円形	皿状	1.6×0.9	39			163	
SK1008	楕円形	皿状	2.0×1.2	35		191	163	154
SK1009	楕円形	皿状	2.5×2.0	12	土器多。	191	165	
SK1010	隅丸方形	皿状	2.5	10	土器多。	191	165	
SK1011	隅丸方形	皿状	2.0～2.2	13			164	
SK1017	楕円形	不整形	1.5×1.2	34	灰白ブロック多。		163	
SK1022	不整円形	皿状	1.5～1.2	10			164	
SK1023	円形	皿状	1.0～1.2	20			164	
SK1024	楕円形	不整形	1.4×0.8	23			164	
SK1026	楕円形	皿状	1.9×1.1	13			164	
SK1027	円形	逆台形	0.9～1.1	44			163	
SK1032	楕円形	皿状	4.0×1.2	36			163	
SK1035	隅丸方形	皿状	1.2～1.4	16			164	
SK1036	円形	逆台形	1.4	29			164	
SK1041	円形？	皿状	1.3	9				
SK1044	不整方形	皿状	2.4～2.7	15			163	
SK1055	不整方形	不明	1.3～1.7	17			163	
SK1068	円形？	不明	1.6	不明			163	
SK1093	楕円形	不明	1.2×0.8	不明			164	
SK1094	隅丸方形	皿状	1.9～2.1	16			163	
SK1096	円形	逆台形	1.1～1.2	29			164	
SK1101	隅丸方形	皿状	2.1～2.2	10			163	
SK1108	不整方形？	皿状	1.1	20			163	

第16表　南１西１・２区土壙一覧表（その２）

遺構名	平面形	断面形	規模		備考	本文	図版番号	
			長軸×短軸（m）	深さ（cm）		（頁）	分割図	断面図
SK1153	楕円形	皿状	1.6×1.1	24			163	
SK1170	不整円形	不明	0.8～1.1	33			163	
SK1210	不整円形	逆台形	1.6～2.0	60	灰白粒含。	192	166	155
SK1218	円形	逆台形	3.0	60		192	166	155
SK1226	楕円形	皿状	1.3×0.9	25		194	170	
SK1238	円形	皿状	1.0×0.7	17			166	
SK1273	方形？	皿状	1.6	7			166	
SK1280	方形	不明	1.2～1.4	不明			166	
SK1335	方形	不明	1.4～1.5	不明			166	
SK1341	隅丸方形	不明	0.7～0.9	14			166	
SK1345	方形	不明	1.5	不明			169	
SK1346	方形	不明	1.7				166・169	
SK1347	隅丸長方形	不明	1.7×1.2	20	灰白粒含。		169	
SK1348	方形	不明	0.9	17	灰白粒多。		169	
SK1368	円形	皿状	1.5～1.7	17	灰白粒含。		169	
SK1373	方形	逆台形	1.4	22	灰白粒含。		169	
SK1375	不整円形	皿状	1.4～1.0	22	灰白粒含。		169	
SK1382	楕円形	皿状	2.4×1.8	22	灰白粒含。		170	
SK1383	不整円形	不明	2.0	不明	灰白粒含。		170	
SK1397	隅丸長方形	不明	1.6以上×1.1	13			169	
SK1423	楕円形	皿状	2.0×1.3	26	遺物多。		170	
SK1424	楕円形	皿状	1.7×1.2	33			170	
SK1426	楕円形	逆台形	1.4×1.0	32			170	
SK1449	楕円形	皿状	3.5×2.5	34			166	
SK2009	不整円形	皿状	3.0～3.5	35	遺物多。	190	163	154
SK2019	楕円形	不明	3.5×2.5	35	遺物多。	191	163	154
SK2020	楕円形	皿状	1.8×1.3	34			163	
SK2024	楕円形	不明	1.2×0.5	不明			163	
SK2032	ほぼ円形	皿状	1.2～1.3	16			164	
SK2037	楕円形	皿状	1.0～1.3	5			164	
SK2038	円形	皿状	1.5～1.7	22			164	
SK2041	楕円形	不明	2.8×0.8	33			163	
SK2042	楕円形	不明	3.2×1.4	不明			163	
SK2043	不明	皿状	不明	20			164	
SK2045	隅丸方形	皿状	1.1～1.3	20			164	
SK2046	円形	皿状	0.7～0.9	30			164	
SK2048	不明	皿状	不明	5			163	
SK2052	円形	皿状	1.1～1.0	10			163	
SK2058	楕円形	皿状	2.0以上	17			163	
SK2064	円形	不明	0.9～1.0	10			163	
SK2066	円形	逆台形	約1.5	35			164	
SK2089	円形	逆台形	1.1～1.2	42			165	
SK2090	楕円形	皿状	1.6×1.1	30			165	
SK2220	不明	皿状？	不明	37	→埋め戻し（SX1250）。		170	
SK2245	楕円形	皿状	0.8×0.6	21			169	
SK2261	円形	摺鉢状	0.7	56	灰白粒含。	192	167	155
SK2262	不明	皿状	0.6以上	23	灰白粒含。		170	
SK2266	不整円形	皿状	2.0	15	土錘一括出土。	194	170	
SK3001	円形	逆台形	1.4	72		194	169	
SK3002	円形	皿状	1.2	15		191	165	155
SK3003	方形	皿状	3.0～3.2	28			165	
SK3006	不整円形	皿状	0.7～1.0	7			165	
SK3015	不明	不明	1.3以上	15			165	
SK3021	円形	摺鉢状	2.0	85		192	169	155
SK3022	円形	皿状	1.8	4			169	
SK3023	隅丸方形	不明	1.5	100	→埋め戻し。		169	
SK3024	隅丸長方形	皿状	2.3×1.5	25	→埋め戻し。	194	169	155
SK3027	隅丸長方形	逆台形	2.3×1.4	60	→埋め戻し。	192	169	155
SK3043	円形	逆台形	1.0～1.1	43			169	155

第17表　南1西2区溝跡一覧表

遺構名	規模			方向（°）	断面形	備考	本文	図版番号	
	上端幅（m）	下端幅（m）	深さ（cm）				（頁）	分割図	断面図
SD 49	0.2～0.4	不明	不明	E-24-S	不明		202	162	
SD 52	0.2～0.4	不明	不明	N-13-E	不明			162	
SD 61	0.3～0.6	0.1～0.4	10	N-14-E	「U」字形			162	
SD 101	0.6～0.8	0.7	10	E-19-S	「U」字形		201	162	
SD 108	0.3～0.6	0.2～0.4	10	N-9-E	「U」字形			162	
SD 146	0.4～0.5	不明	5～10	E-13-S	「U」字形			161	
SD 147	2.2～3.2	1.2～1.8	10	E-8-S	「U」字形		201	161・162	
SD 164	0.2～0.4	0.1～0.2	10	E-30-S	「U」字形		201	162	
SD 218	0.4～0.7	0.2～0.3	15	E-30-S	「U」字形		202	162	
SD1018	0.5～0.8	0.4～0.7	15	E-19-S	「U」字形		202	163	
SD1033	2.0	1.8	38	N-2-E	逆台形			164	
SD1037	0.2～0.3	0.2～0.3	8～13	E-10-S	「U」字形			164	
SD1038	0.6	0.2～0.4	5～15	E-18-S	「U」字形			164	
SD1124	0.5～0.9	0.3	27	E-44-S	「U」字形			163	
SD1204	0.3～0.6	0.1～0.5	5	E-16-S	「U」字形				
SD1214	1.0～1.6	0.9～1.3	25	E-14-S	不明			166	
SD1266	0.6～1.0	0.5～0.8	不明	E-8-S	不明			166	
SD1374	0.3～0.8	0.1～0.4	8～39	N-7-E	「U」字形	灰白粒含。	203	169	160
SD1448	1.5～2.1	0.9～1.5	16	E-24-S	「U」字形			170	
SD2005	0.5	0.3	22	N-9-E	「U」字形			163	
SD2036	1.5	1.0	30	E-50-S	「U」字形		202	163	
SD2059	0.5	0.3	5～15	E-43-S	「U」字形			163	
SD2091	0.6～1.5	0.5～0.9	25	N-6-E-7-S	逆台形	L字の溝。	202	165	
SD2093	0.4～0.5	0.1～0.4	22	E-17-S	「U」字形	→埋め戻し。		165	
SD2201	0.2～0.4	0.1～0.2	10～15	E-11-S	「U」字形			166	
SD2228	1.5	0.7～1.0	30	E-8-S	「U」字形	→SX1300・1400	203	169	160
SD2229	0.4～0.9	0.3～0.6	15	E-6-S	逆台形	灰白粒含。	203	169	160
SD2253	0.8	0.5	20	E-7-S	「U」字形	SD2229と一連？		169	
SD2287	0.7～1.5	不明	25	E-10-S	「U」字形			167	
SD2288	0.8	0.4	18	N-3-E	「U」字形			167	
SD2289	1.3	0.5	27	N-3-E	「U」字形			167	
SD3005	0.6	0.3	16	N-11-E	「U」字形			165	
SD3012	0.7～1.0	0.3～0.6	30	N-16-E	「U」字形			168	
SD3044A	0.5	0.1	15	N-10-E	「U」字形		203	165	
SD3044B	0.9	0.3	14～33	N-10-E	「U」字形				
SD3047A	0.9～1.0	0.4～0.6	17～29	N-15-E	逆台形		203	168	
SD3047B	0.6～0.7	0.4～0.5	9～18	N-18-E	「U」字形				
SD3050A	1.5～1.6	0.8～1.3	20～45	E-42-S	逆台形	→SX1300	204	169・229	160
SD3050B	26	15	31	E-42-S	「U」字形				
SD3050C	1.8	1	11～21	E-42-S	「U」字形				

6．南１西１区

南をＳＸ1400 南 1 道路、西をＳＸ1250 西 1 道路に面した区画で、今回の調査区はその南西隅の部分にあたる。総柱建物跡 1 棟、材木塀跡 1 条、柱列 2 条、溝跡 2 条、土壙などを検出しているが、調査面積が狭く区画内の具体的な状況については不明である。

(1)掘立柱建物跡

【ＳＢ2272 掘立柱建物跡】（第170図）

南北 2 間、東西 2 間の総柱建物跡である。柱穴は地山面で 8 ヶ所検出し、すべての柱穴で柱痕跡を確認している。ＳＤ2228・2280 溝跡と重複し、これらより新しい。

平面規模は西側柱列で総長 3.03m、柱間寸法は北より 1.31m・1.70m。南側柱列で総長 2.83m、柱間寸法は西より 1.37m・1.45mである。方向は西側柱列でみると、北で東に 1 度偏している。柱穴は方形で一辺が 36～55cm、深さは 20～45cm。柱痕跡は径 10～20cm の円形で、1 ヶ所で柱の切り取りがみられる。柱穴埋土には灰白色火山灰粒が少量混入する。

遺物は出土していない。

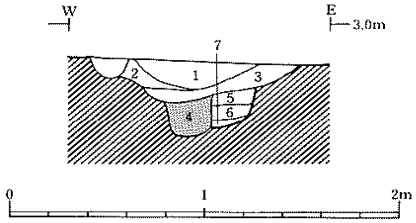
(2)材木塀跡・柱列

ａ．材木塀跡

【ＳＡ2280 材木塀跡】（第170図）

ＳＸ1400 南 1 道路およびＳＸ1250 西 1 道路に沿ってＬ字形に巡る材木塀跡で、地山面で検出した。

ＳＸ1400・1250、ＳＢ2272 掘立柱建物跡、ＳＤ2228・2235・2236 溝跡などと重複し、これらより古い。



No	土色	土性	備考
1	黒褐 7.5YR2/2	シルト	［抜取り溝堆積土］炭化物若干含。
2	黒褐 10YR3/1	シルト	［抜取り溝堆積土］地山砂・炭化物含。
3	黒 7.5YR2/1	シルト	［抜取り溝堆積土］炭化物含。
4	黒褐 10YR3/1	シルト	［抜取り溝堆積土］地山ブロック多。
5	黒 10YR2/1	シルト	［掘り方埋土］地山ブロック含。
6	黒 10YR1.7/1	シルト	［掘り方埋土］
7	褐灰 10YR4/1	シルト	［掘り方埋土］地山ブロック多。

第171図　南１西１区 SA2280塀跡断面図

掘り方は南北約 10m、東西約 7mまで検出し、北・東側はそれぞれ調査区外に延びる。上端幅約 1.0m、底面幅 0.6m、深さは 40cm 前後で、断面形は「Ｕ」字状を呈する。布掘り状掘り方を持つが柱はすべて抜き取られている。方向は南北方向が北で約 1 度東に偏している。東西方向はコーナー付近にあたり、しかも後続のＳＤ2235 およびＳＸ1400Ａ～Ｃの北側溝に壊されているため正確に計測することはできないが、南北に直交もしくはＳＸ1400Ａ～Ｃの北側溝に平行するものとみられる。

遺物は抜取り溝からロクロ調整の土師器と須恵器が数片出土しているのみである。

ｂ．柱列

【ＳＡ2321 柱列】（第170図）

ＳＸ1400Ａ～Ｃ北側溝およびＳＸ1250 東側溝沿ってＬ字形に巡る柱列である。地山面で南北 4 間、東西 3 間分を検出し、7 ヶ所で柱痕跡を確認した。ＳＡ2280 材木塀跡、ＳＡ2322 柱列と重複し、ＳＡ2280 よりも新しいが、ＳＡ2232 との新旧関係は不明である。

長さは南北 10.11m、東西 7.71mまで検出し、柱間寸法は南北が北より 2.54m・2.51m・2.82m・2.18

m、東西が西より 2.66m･2.42m･2.58mである。方向は南北が北で 1 度東に 1 度偏しており、東西が東で10 度南に偏している。柱穴は一辺（径）19～34cm の隅丸方形や円形で深さは 25～34cm、柱痕跡は径 13cm 前後の円形である。

遺物は出土していない。

【ＳＡ2322 柱列】（第170 図）

ＳＡ2321 柱列と同様にＬ字形に巡る柱列である。地山面で南北 3 間、東西 3 間分を検出し、6 ヶ所で柱痕跡を確認した。ＳＸ1400Ｄ～Ｆ北側溝と重複し、これより古い。

長さは南北 8.31m、東西 6.67mまで検出し、柱間寸法は南北が北より 3.18m･5.07m(2 間分)、東西が西より 2.36m･2.17m･2.10mである。方向は南北が北で 1 度東に 1 度偏しており、東西が東で 4 度南に偏している。柱穴は一辺(径)22～38cm の隅丸方形や円形で深さは 20～45cm、柱痕跡は径 11～14cm の円形である。

遺物は出土していない。

(3)溝跡

【ＳＤ2235 溝跡】（第170 図）

ＳＸ1400 南 1 道路およびＳＸ1250 西 1 道路に沿ってＬ字形に巡る溝跡で、地山面で検出した。ＳＸ1400・1250、ＳＡ2280 材木塀跡、ＳＤ2236 溝跡などと重複し、これらより新しい。

検出長は南北約 12m、東西約 9m で北・東側は調査区外に延びる。上端幅約 1.0m、底面幅は約 0.4mである。深さは約 60cm で、断面形は「Ｕ」字状を呈する。方向はＳＸ1400･1250 に壊され正確に計測することはできないが、南北方向がほぼ真北で、東西がこれに直交もしくはＳＸ1400Ａ～Ｃ北側溝に平行しているものとみられる。堆積土は地山砂および地山ブロックが混入する黒褐色土で人為的に埋め戻されている。

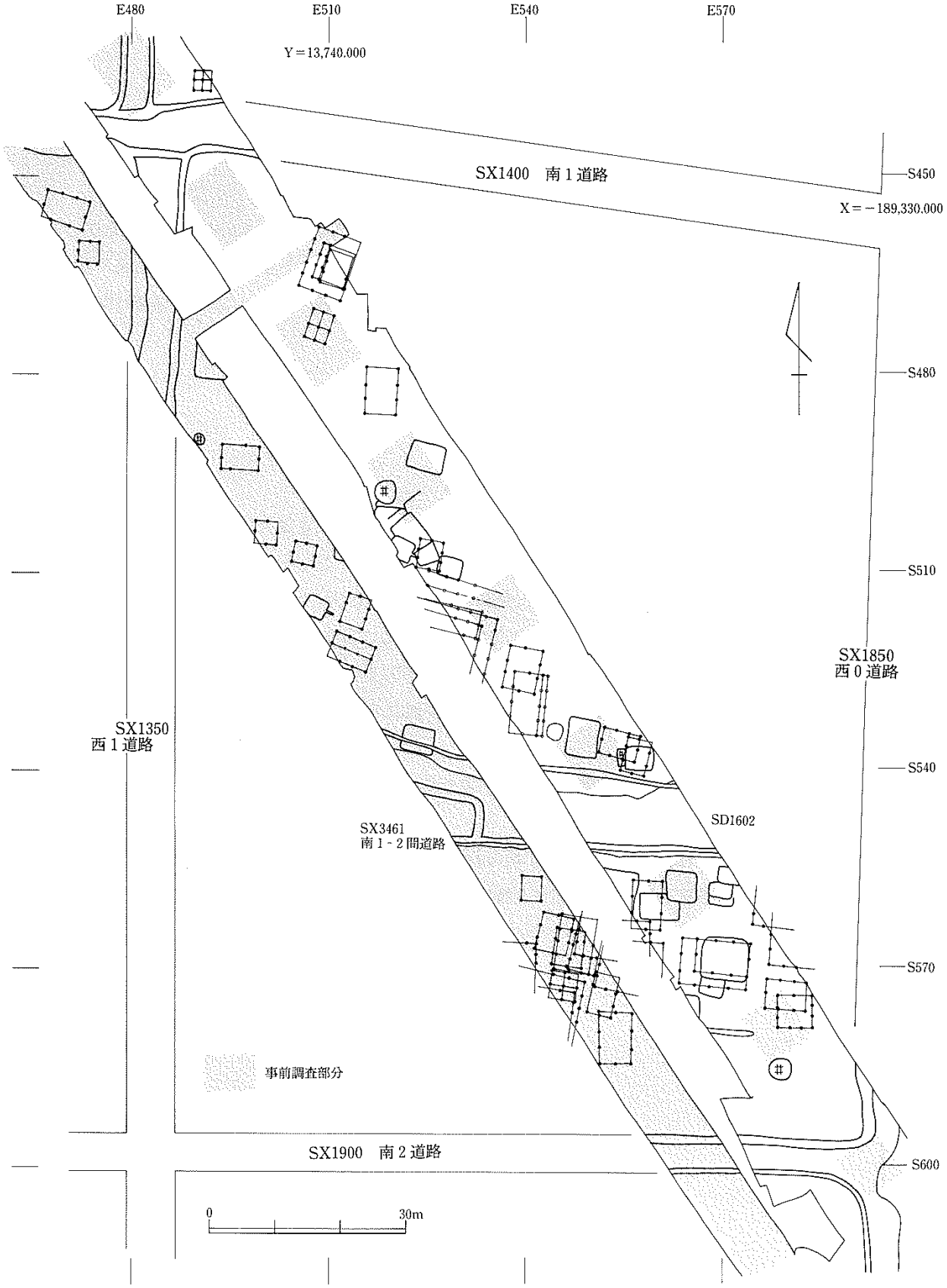
遺物は非ロクロ調整とロクロ調整の土師器、須恵器が出土しており、中でも須恵器が比較的多い。

【ＳＤ2236 溝跡】（第170 図）

ＳＤ2235 よりも古い南北方向の溝跡で、地山面で検出した。ＳＤ2235 およびＳＸ1250 東側溝に壊され規模等については不明であるが、残存する溝の東肩で見た方向はほぼ真北を示している。

遺物は調整不明の土師器、須恵器などが少量出土している。

7. 南2西1区



第172図　南2西1区遺構全体図

北をＳＸ1400南１道路、南をＳＸ1900西２道路、西をＳＸ1350西１道路、東をＳＸ1850西０道路に面した区画で、台形状を呈する。規模は東西約126m、南北が東辺で約140m、西辺で約150m程と推定される。区画内は調査区のやや南寄りを東西に流れるＳＤ1602河川跡および河川埋没後の上面に造成されたＳＸ3461南1-2間道路によって南北に二分される。

今回の調査は区画の北西部から南東部にかけて行ったもので、区画内からは東西道路跡、掘立柱建物跡、竪穴住居跡、井戸跡、土器埋設遺構、竪穴遺構、土壙、材木塀跡、溝跡、小溝状遺構群、水田跡、河川跡などを多数検出した。とくに、ＳＤ1602およびＳＸ3461以南で比較的多くの遺構が集中してみられ、土地利用のあり方にも“小溝状遺構群→水田跡→竪穴住居跡・掘立柱建物跡”といった変化が認められた。一方、ＳＤ1602およびＳＸ3461以北については掘立柱建物跡や竪穴住居跡、小溝状遺構群などが重複して分布しているものの、水田跡は検出されておらず、南半部とは土地利用のあり方や変遷に違いが認められる。

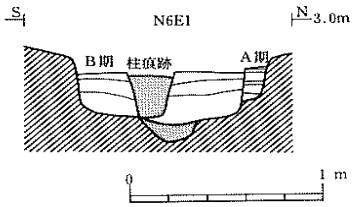
遺物は土師器、須恵器、赤焼土器を中心に数多く出土している。とくに、ＳＤ2000河川跡からは膨大な量の土器をはじめ、木製品や金属製品、土製品、石製品、骨角製品、動植物遺体など多種多様のものが出土している。これらの中には人面墨書土器や呪符土器をはじめとする墨書土器や木製形代、ト骨などの祭祀に関わる遺物が多くみられる。

(1)掘立柱建物跡

43棟（北半部20、南半部23）検出した。このうち規模や構造が明らかなのは25棟で、廂付建物跡3棟、総柱建物跡2棟、桁行3間・梁行2間程の小規模な掘立柱建物跡15棟（東西5、南北10）などがある。建物の方向はいずれも北で東に偏しているが、建物相互でばらつきが認められ、とくに北半部で振れの幅が大きい傾向にある。

【ＳＢ1553掘立柱建物跡】（第173･174･218図）

調査区北西に位置し、ＳＢ1556掘立柱建物跡と柱筋を揃える南北5間、東西3間の南北棟で、ほぼ同位置で一度建て替えられている（Ａ→Ｂ）。柱穴は地山面で検出し、Ｂの12ヶ所で柱痕跡が認められた。ＳＢ1554・1555掘立柱建物跡と重複し、それらより古い。



第173図　SB1553柱穴断面図

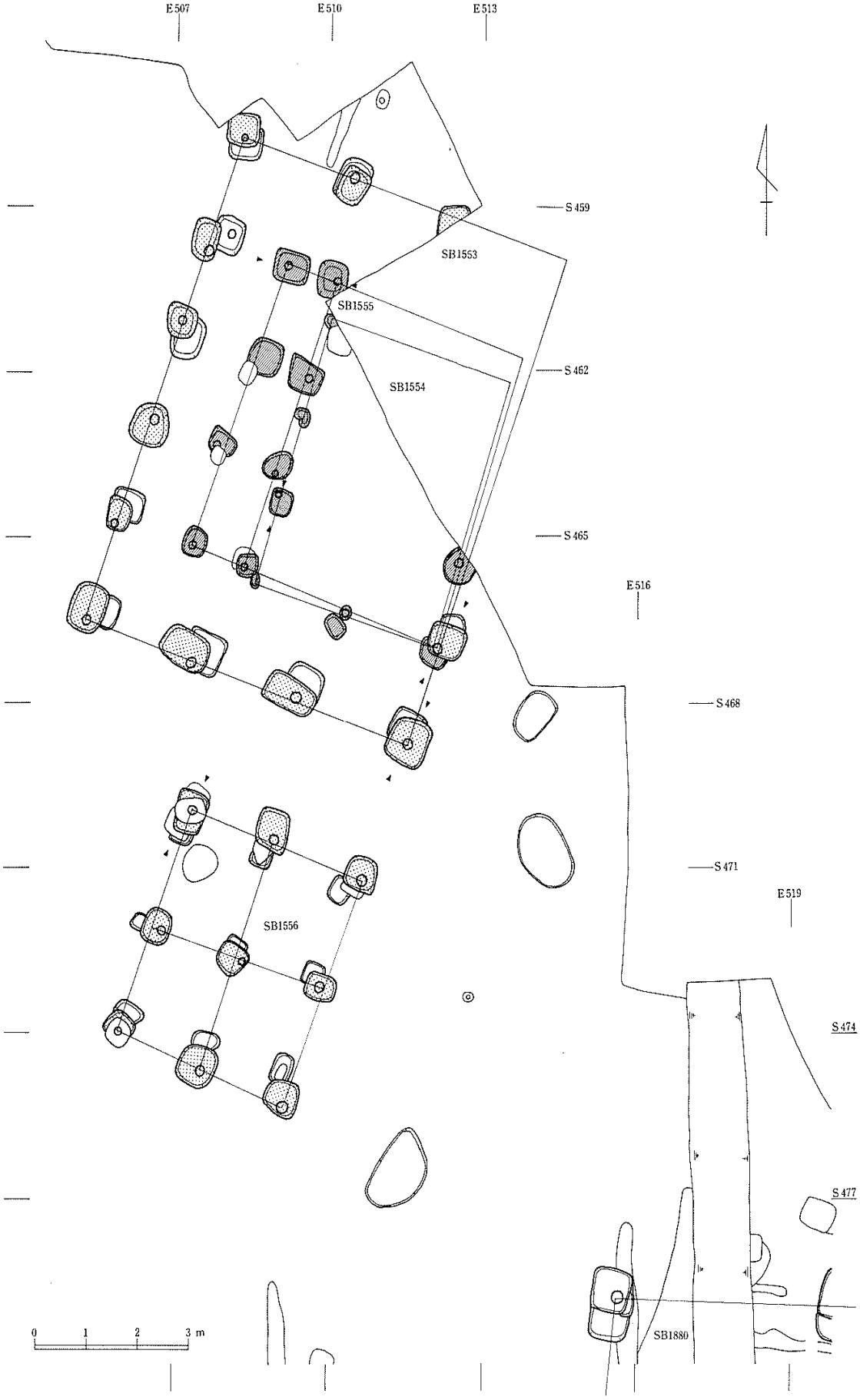
Ａは柱穴を9ヶ所検出し、柱穴規模は一辺が57～78cmの方形で、深さ20～43cmである。平面規模など、その他の詳細については不明である。

Ｂは柱穴を12ヶ所検出し、すべての柱穴で柱痕跡を確認している。平面規模は桁行が西側柱列で総長9.26m、柱間寸法は北より2.16m･1.35m･1.88m･2.02m･1.84m。梁行は南妻で総長6.63m、柱間寸法は2.19m･2.14m･2.29mである。方向は西側柱列でみると、北で約18度東に偏している。柱穴は一辺が45～93cmの方形で、深さは36～53cm。柱痕跡は径15～23cmの円形である。

遺物は出土していない。

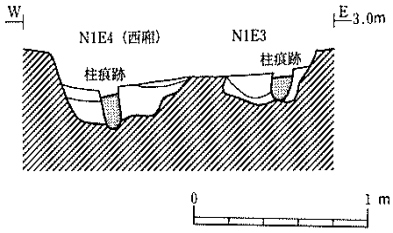
【ＳＢ1555掘立柱建物跡】（第174･175･218図）

調査区北西に位置する南北3間、東西3間の西廂付の南北棟である。柱穴は地山面で身舎6ヶ所、廂4ヶ所を検出し、身舎5ヶ所、廂3ヶ所で柱痕跡を確認している。ＳＢ1553･1554掘立柱建物跡と重



第174図　南２西１区北西部建物跡平面図

複し、それらより新しい。

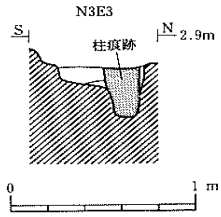


第175図　SB1555柱穴断面図

平面規模は桁行が西入側柱列で総長 5.47m、柱間寸法は北より 1.82m・1.85m・1.79m。梁行は南妻で総長約 5.0m、柱間寸法は等間とすると約 2.0m、廂の出は 1.09mである。方向は西入側柱列でみると、北で約 18 度東に偏している。柱穴は身舎・廂ともに一辺が 41～70cm の方形で、深さは 28～50cm である。柱痕跡は径 15cm 前後の円形で 2 ヶ所で柱の切取りがみられる。

遺物は出土していない。

【ＳＢ1554 掘立柱建物跡】（第174･176･218 図）



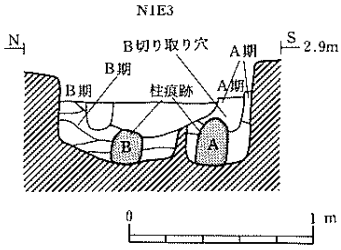
第176図　SB1554柱穴断面図

調査区北西に位置する南北 3 間、東西 2 間の南北棟である。柱穴は地山面で 4 ヶ所検出した。そのほかに柱痕跡のみが検出されたものが 3 ヶ所あり、柱痕跡は計 6 ヶ所を確認している。ＳＢ1553･1555 掘立柱建物跡と重複し、ＳＢ1553 よりも新しく、ＳＢ1555 より古い。

平面規模は桁行が西側柱列で総長約 5.0m、柱間寸法は約 1.7m。梁行は南妻で総長約 3.8m、柱間寸法は約 1.9mである。方向は西側柱列でみると、北で約17度東に偏している。柱穴は一辺が 43～50cm の方形で、深さは最も残りが良いもので 24cm。柱痕跡は径 16cm 前後の円形で、焼土混じりの黒褐色土が堆積している。

遺物は出土していない。

【ＳＢ1556 掘立柱建物跡】（第174･177･218 図）



第177図　SB1556柱穴断面図

調査区北西に位置し、ＳＢ1553 掘立柱建物跡と柱筋を揃える南北 2 間、東西 2 間の総柱建物跡で、ほぼ同位置で一度建て替えられている（Ａ→Ｂ）。柱穴は地山面で検出し、重複は認められない。

ＡはＢに壊されているため平面規模など詳細は不明である。

Ｂは 8 ヶ所で柱痕跡を確認しており、平面規模が東側柱列で総長 4.38m、柱間寸法は北より 2.08m・2.30m。北側柱列で総長 3.58m、柱間寸法は西より 1.70m･1.88m である。方向は東側柱列でみると、北で約 21 度東に偏している。柱穴は一辺が 48～81cm の方形で、深さは 47～70cm。柱痕跡は径 15～22cm の円形で柱の切取りが 1 ヶ所みられる。

遺物はＢの柱穴から非ロクロ調整とロクロ調整の土師器が少量出土している。

【ＳＢ1880 掘立柱建物跡】（第174･218･220 図）

調査区北西に位置する南北 3 間、東西 2 間の南北棟で掘り上げを行っていないため明確ではないが 1 ないし 2 度建て替えられている。柱穴は地山面で検出し、ＳＫ1889 土壙と重複するが、それより古い。また約 2.1m南側には柱筋を揃えた柱穴列を検出しているがＳＢ1880 にともなうものであるか、あるいはＳＢ1880 に壊されている別の建物跡の一部であるかは不明である。

古い時期の柱穴については、平面規模などの詳細は不明である。

最も新しい時期のものについては柱穴を 8 ヶ所検出し、すべての柱穴で柱痕跡を確認している。平

面規模は桁行が西側柱列で総長 7.04m、柱間寸法は北より 2.55m・2.05m・2.42m、梁行は南妻で総長 4.87m、柱間寸法は等間とすると約 2.4mである。方向は西側柱列でみると、北で約 5 度東に偏している。柱穴は一辺が 48～84cm の方形で、柱痕跡は径 13～21cm の円形である。

【ＳＢ3221 掘立柱建物跡】（第219図）

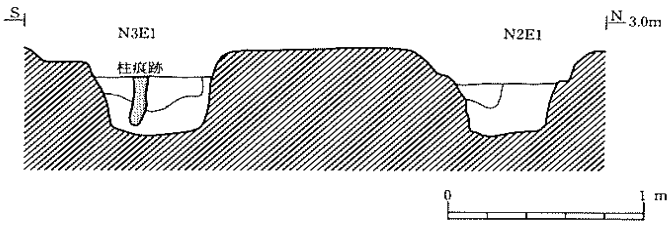
調査区北西に位置する東西 3 間、南北 2 間の東西棟である。柱穴は地山面で 7 ヶ所検出し、6 ヶ所で柱痕跡を確認している。重複は認められない。

平面規模は桁行が南側柱列で総長 5.72m、柱間寸法は等間とすると約 1.9m。梁行は東妻で総長 3.60m、柱間寸法は北より 1.95m・1.65mである。方向は南側柱列でみると、東で約 1 度南に偏している。柱穴は一辺が 38～64cm の方形で、深さは 13～44cm、柱痕跡は径 14～17cm の円形である。

遺物は柱穴から非ロクロ調整の土師器甕が数片出土しているのみである。

【ＳＢ3211 掘立柱建物跡】（第178・219図）

調査区中央のやや北西寄りに位置する南北 2 間、東西 2 間の建物跡である。柱穴は地山面で 6 ヶ所検出したが、抜取りによって柱痕跡は認められなかった。重複は認められない。



第178図　SB3211 柱穴断面図

平面規模は西側柱列で総長推定約 3.4m、柱間寸法は約 1.7m、北側柱列で総長 3.3m、柱間寸法は約 1.7mである。方向は西側柱列でみると、北で約 5 度東に偏している。柱穴は一辺が 38～47cm の方形で、深さは 53～63cm。またすべての柱穴で柱の抜取りがみられる。

遺物は柱穴から平瓦の破片が 1 片出土したのみである。

【ＳＢ3212 掘立柱建物跡】（第219図）

調査区中央のやや北西寄りに位置する南北 2 間、東西 2 間の建物跡である。柱穴は地山面で検出し、3 ヶ所で柱痕跡を確認している。小溝よりも新しい。

平面規模は北側柱列で総長約 3.5m、柱間寸法は 1.75m、東側柱列で総長約 3.1m、柱間寸法は等間とすると約 1.6mである。方向は西側柱列でみると、北で約 11 度東に偏している。柱穴は一辺が 38～46cm の方形で、深さは 35～41cm である。柱痕跡は径 15～18cm の円形で、3 ヶ所で柱の抜取りがみられる。

遺物は出土していない。

【ＳＢ1512 掘立柱建物跡】（第220図）

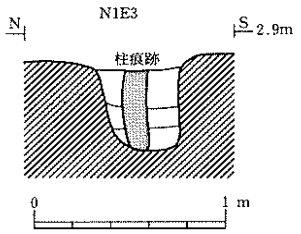
調査区中央のやや北寄りに位置する南北 3 間、東西 2 間の南北棟である。柱穴は地山面で検出し、2 ヶ所で柱痕跡を確認している。ＳＩ1513・1514・1515・1543 竪穴住居跡やＳＡ1863 柱列と重複し、ＳＩ1513・1514・1515・1543 より新しく、ＳＡ1863 より古い。掘り上げは行っていない。

平面規模は桁行が総長約 4.3m、柱間寸法は等間とすると約 1.4m。梁行は総長約 3.6m、柱間寸法は等間とすると約 1.8mである。方向は西側柱列でみると、北で約 9 度東に偏している。柱穴は一辺が 53～80cm の方形で、柱痕跡は径 18～21cm の円形である。また 9 ヶ所で柱の抜取りや切取りがみられる。

【ＳＢ3215 掘立柱建物跡】（第179・220・221図）

調査区ほぼ中央に位置し、ＳＢ3216 掘立柱建物跡と柱筋を揃える南北 3 間、東西 2 間の南北棟で、ほぼ同位置で一度建て替えられている（Ａ→Ｂ）。柱穴は地山面で検出し、重複は認められない。

Ａは柱穴を 5 ヶ所検出し、1 ヶ所で柱痕跡を確認しているが、そのほかの平面規模などの詳細は、Ｂに壊されているため不明である。



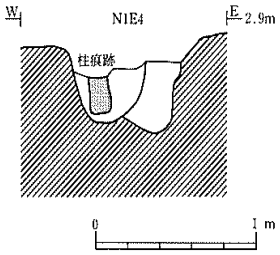
第179図　SB3215 柱穴断面図

Ｂは柱穴を 8 ヶ所検出し、5 ヶ所で柱痕跡を確認している。平面規模は桁行が西側柱列で総長 4.8m、柱間寸法は約 1.65m。梁行は南妻で総長約 3.6m、柱間寸法は等間とすると約 1.8m である。方向は西側柱列でみると、北で 19 度東に偏している。柱穴は一辺が 36～81cm の隅丸方形で、深さは 27～53cm。柱痕跡は径 14～18cm の円形である。

遺物は出土していない。

【ＳＢ3216 掘立柱建物跡】（第180･221 図）

調査区ほぼ中央に位置し、ＳＢ3215 掘立柱建物跡と柱筋を揃える東西 3 間、南北 2 間の床束をもつ東西棟である。柱穴は地山面で側柱穴 9 ヶ所、床束 2 ヶ所を検出し、側柱穴 6 ヶ所で柱痕跡を確認している。ＳＤ3217 溝跡と重複し、それよりも新しい。



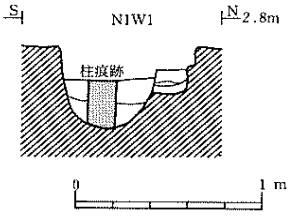
第180図　SB3216柱穴断面図

平面規模は桁行が北側柱列で総長 6.47m、柱間寸法は等間とすると約 2.2m。梁行は東妻で総長約3.8m、柱間寸法は1.9m である。床束は棟通り下に2個の柱穴を配したもので、側柱穴と柱筋を揃えている。建物方向は北側柱列でみると、東で約 22 度南に偏している。側柱穴は一辺が 49～78cm の方形で、深さは 43～55cm、柱痕跡は径 12cm 前後の円形である。床束は柱穴が径 21～41cm の円形で、深さ 3cm である。柱痕跡は確認できなかった。

遺物は出土していない。

【ＳＢ1536 掘立柱建物跡】（第180･222 図）

調査区ほぼ中央に位置する南北 3 間、東西 2 間の南北棟で、ほぼ同位置で建て替えられている（Ａ→Ｂ）。柱穴は地山面で検出し、ＳＢ1495 掘立柱建物跡やＳＤ1538・1539・1891 溝跡と重複し、ＳＤ1538・1539 より新しく、ＳＢ1495、ＳＤ1891 より古い。



第181図　SB1536柱穴断面図

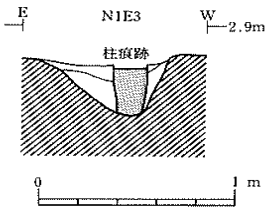
Ａは柱穴を 8 ヶ所検出し、3 ヶ所で柱痕跡を確認している。桁行柱間寸法は北より 2.18m･2.16m であり、柱穴は一辺が 45～80cm の方形で、深さ 30～39cm、柱痕跡は径 15～18cm の円形である。平面規模などその他の詳細については不明である。

Ｂは柱穴を 10 ヶ所検出し、7 ヶ所で柱痕跡を確認している。平面規模は桁行が西側柱列で総長 6.23m、柱間寸法は北より 2.17m･1.49m･2.56m。梁行は北妻で総長 4.91m、柱間寸法は西より 2.38m・2.51m である。方向は西側柱列でみると、北で約13 度東に偏している。柱穴は一辺が 35～60cm の方形で、深さ 24～57、柱痕跡は径 16～20cm の円形である。

遺物はＢの柱穴からロクロ調整の土師器および赤焼土器が少量出土している。

【ＳＢ1616 掘立柱建物跡】（第182･223 図）

調査区中央やや南東寄りに位置する東西３間、南北２間の東西棟である。柱穴は地山面で検出し、すべての柱穴で柱痕跡を確認している。ＳＢ1617掘立柱建物跡やＳＩ1738竪穴住居跡、ＳＥ1739井戸跡と重複し、それらより新しい。



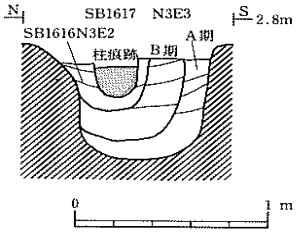
第182図　SB1616柱穴断面図

平面規模は桁行が北側柱列で総長 5.56m、柱間寸法は西より 1.66m・2.07m・1.83m。梁行は西妻で総長 3.74m、柱間寸法は北より 1.86m・1.87mである。方向は北側柱列でみると、東で約16度南に偏している。柱穴は一辺が 34～62cm の隅丸方形で、深さは 16～34cm、柱痕跡は径 15～24cm の円形である。

遺物は柱穴から非ロクロ調整の土師器および須恵器、製塩土器、鉄鎌が少量出土している。

【ＳＢ1617 掘立柱建物跡】（第183･223 図）

調査区中央やや南東寄りに位置する南北３間、東西２間の南北棟で、ほぼ同位置で一度建て替えられている（Ａ→Ｂ）。柱穴は地山面で検出し、ＳＢ1616 掘立柱建物跡やＳＩ1738 竪穴住居跡、ＳＥ1739 井戸跡と重複し、ＳＩ1738、ＳＥ1739 より新しく、ＳＢ1616 より古い。



第183図　SB1617柱穴断面図

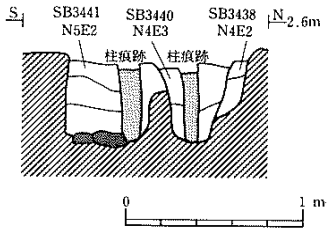
Ａは柱穴を８ヶ所検出し、２ヶ所で柱痕跡を確認している。柱穴規模は一辺が 34～80cm の方形で、深さは 26～70cm。その他平面規模などは不明である。

Ｂは柱穴を９ヶ所検出し、7ヶ所で柱痕跡を確認している。平面規模は桁行総長約 5.5m（西側柱列）、柱間寸法は北より 1.34m・約 2.2m・約 1.9m、梁行は南妻で総長約 3.8m、柱間寸法は等間とすると約 1.9mである。方向は西側柱列でみると、北で約12度東に偏している。柱穴は一辺が 20～65cm の方形で、深さは 26～60cm。柱痕跡は径 10～17cm の円形である。また１ヶ所で柱の抜取りがみられる。

遺物はＡの柱穴から須恵器、Ｂの柱穴から調整不明の土師器が破片で数片出土している。

【ＳＢ3441 掘立柱建物跡】（第184･185･224 図）

調査区南東のやや西寄りに位置する南北４間以上、東西２間の南北棟である。柱穴は地山面で９ヶ所確認し、８ヶ所で柱痕跡を確認している。ＳＢ3438･3439･3440･3447 掘立柱建物跡と重複しＳＢ3438･3440・3447 より古い。ＳＢ3439 との新旧関係は不明である。



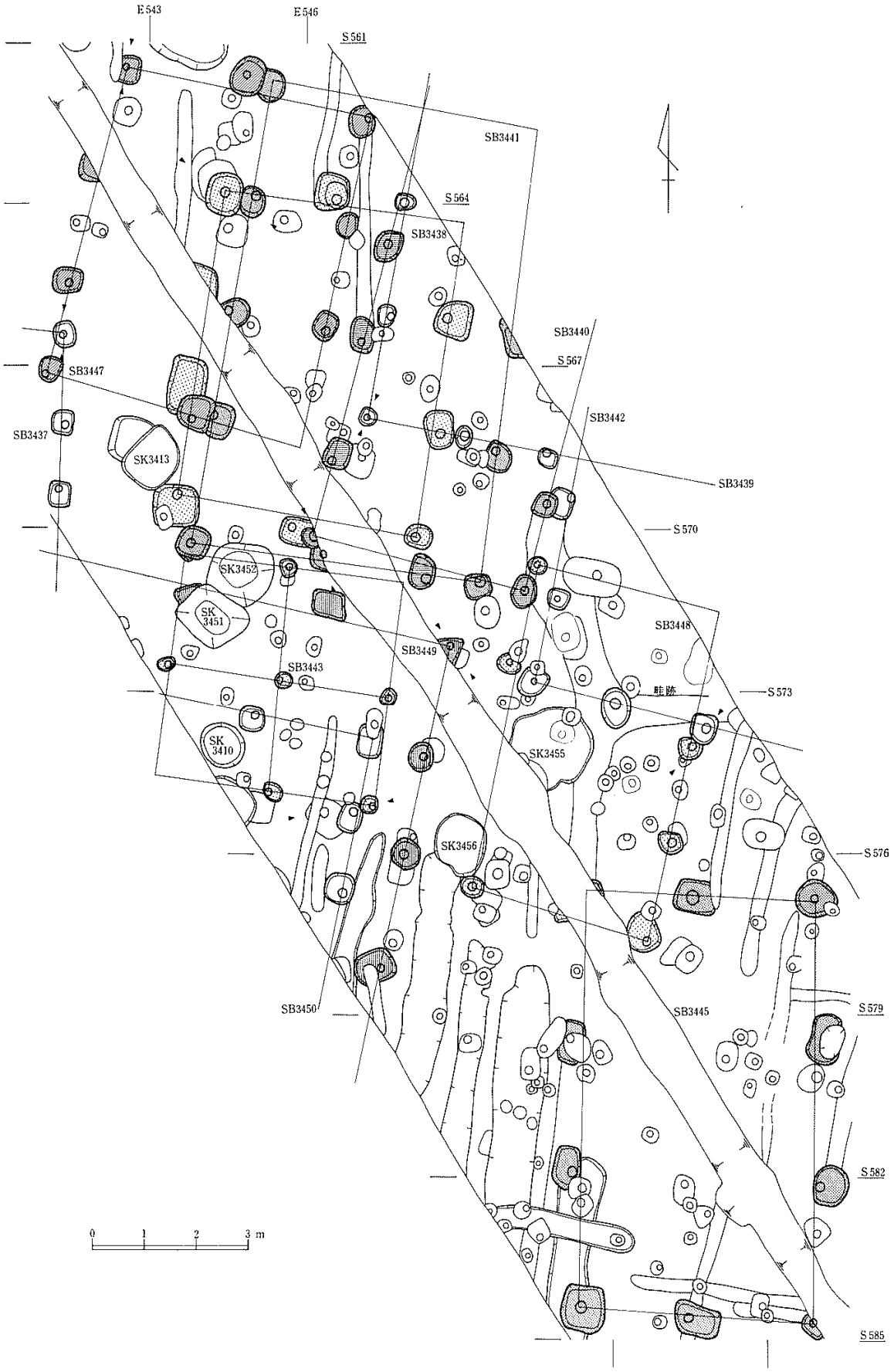
第184図　SB3441・3440柱穴断面図

平面規模は桁行の柱間寸法が南より 2.40m・1.93m・2.19m・約 2.0m。梁行は南妻で総長 5.62m、柱間寸法は西より 2.56m・3.04mである。方向は西側柱列でみると、北で約11度東に偏している。柱穴は一辺が 49～64cm の方形で、深さは 39～55cm、そのうち４個の底面に丸材を用いた礎板が据えられていた。柱痕跡は径 15cm 前後の円形である。柱穴埋土には灰白色火山灰が混入する。

遺物は柱穴から調整不明の土師器甕、須恵器坏が数片出土しているのみである。土師器坏の中には墨書土器も含まれる。

【ＳＢ3440 掘立柱建物跡】（第184･185･224 図）

調査区南東のやや西寄りに位置する南北３間以上、東西２間の南北棟である。柱穴は地山面で７ヶ



第185図　南２西１区南東部建物跡平面図

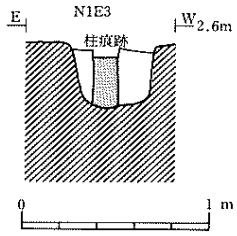
所検出し、すべての柱穴で柱痕跡を確認している。ＳＢ3438・3439・3441・3442・3448 掘立柱建物跡と重複しＳＢ3438・3441・3442 より新しい。ＳＢ3439・3448 との新旧関係は不明である。

柱間寸法は西側柱列で南より 1.42m・2.28m・1.84m、梁行は南妻で総長 4.19m、柱間寸法は西より 2.31m・1.91mである。方向は西側柱列でみると、北で約14度東に偏している。柱穴は一辺が 37～63㎝の不整方形で、深さは 26～44㎝、柱痕跡は径 14～19㎝の円形である。

遺物は柱穴からロクロ調整の土師器坏・甕、須恵器坏・甕が少量出土している。

【ＳＢ3447 掘立柱建物跡】（第185・186・224 図）

調査区南東のやや西寄りに位置する南北３間、東西２間の南北棟である。柱穴は地山面で９ヶ所検出し、８ヶ所で柱痕跡を確認している。ＳＢ3437・3438・3441 掘立柱建物跡と重複し、ＳＢ3438・3441 より新しい。ＳＢ3437 との新旧関係は不明である。



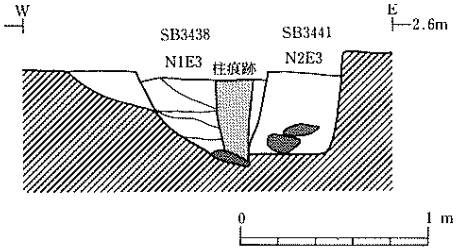
第186図　SB3447柱穴断面図

平面規模は桁行が西側柱列で総長 5.87m、柱間寸法は北より 4.11m（2 間分）・1.73m。梁行は北妻で総長 4.73m、柱間寸法は西より 2.29m・2.46mである。方向は西側柱列でみると、北で約15度東に偏している。柱穴は一辺が 42～70㎝の方形で、深さは 29～46㎝、そのうち 1 個の底面に礎板が据えられていた。柱痕跡は径 11～18㎝の円形である。

遺物は柱穴からロクロ調整の土師器坏・甕、須恵器坏・甕が少量出土している。土師器坏には墨書土器もふくまれる。

【ＳＢ3438 掘立柱建物跡】（第185・187・224 図）

調査区南東のやや西寄りに位置する南北３間、東西２間の南北棟である。柱穴は地山面で９ヶ所検出し、７ヶ所で柱痕跡を確認しており、そのうち１ヶ所で柱材が遺存していた。ＳＢ3439・3440・3441・3447 掘立柱建物跡と重複しＳＢ3440・3447 より古く、ＳＢ3441 より新しい。ＳＢ3439 との新旧関係は不明である。



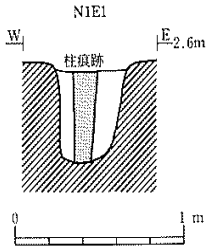
第187図　SB3438・3441柱穴断面図

平面規模は桁行が西側柱列で総長 5.64m、柱間寸法は等間とすると約 1.9m。梁行は南妻で総長 4.63m、柱間寸法は西から 2.26m・2.37mである。方向は西側柱列でみると、北で約10度東に偏している。柱穴は一辺が 41～110㎝の方形で、深さは 30～54㎝、そのうち 1 個の底面に礎板が据えられていた。柱痕跡は径 18～20㎝の円形で、1 ヶ所で柱の切取りがみられる。柱穴埋土には灰白色火山灰が混入する。

遺物は柱穴からロクロ調整の土師器坏、須恵器坏・甕が少量出土している。

【ＳＢ3437 掘立柱建物跡】（第185・188・224 図）

調査区南東のやや西寄りに位置する南北 2 間以上、東西 1 間以上の建物跡である。柱穴は地山面で 4 ヶ所検出し、すべての柱穴で柱痕跡を確認している。ＳＢ3447 掘立柱建物跡と重複するが、新旧関係は不明である。



第188図　SB3437柱穴断面図

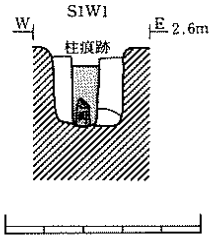
柱間寸法は東側柱列で北より 1.67m・1.21m、北側柱列で 1.41mである。方

向は東側柱列でみると、北で約3度東に偏している。柱穴は一辺が42～70cmの方形で、深さは19～52cm、柱痕跡は径13～17cmの円形である。

遺物は出土していない。

【ＳＢ3439掘立柱建物跡】（第185･189･224図）

調査区南東のやや西寄りに位置する南北2間以上、東西2間以上の建物跡である。柱穴は地山面で5ヶ所検出し、すべての柱穴で柱痕跡を確認しており、そのうち1ヶ所で柱材が遺存していた。ＳＢ3438･3440･3441掘立柱建物跡と重複するが、新旧関係は不明である。



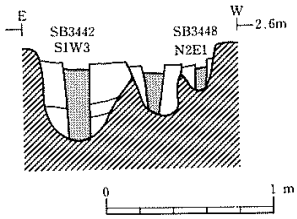
第189図　SB3439柱穴断面図

柱間寸法は西側柱列で南より1.93m･2.06m、南側柱列で西より1.91m･1.60mである。方向は西側柱列でみると、北で約10度東に偏している。柱穴は一辺が26～41cmの方形で、深さは29～38cm、柱痕跡は径14cm前後の円形である。

遺物は柱穴から調整不明の土師器甕、須恵器坏・甕が数片出土しているのみである。

【ＳＢ3442掘立柱建物跡】（第185･190･224図）

調査区南東のやや西寄りに位置する南北2間以上、東西2間以上の建物跡である。柱穴は地山面で5ヶ所検出し、すべての柱穴で柱痕跡を確認している。ＳＢ3440･3448掘立柱建物跡と重複し、これらより古い。ＳＢ3448との新旧関係は不明である。



第190図　SB3442・3448柱穴断面図

柱間寸法は西側柱列で南より1.56m･1.88m、南側柱列で西より1.59m･1.79mである。方向は西側柱列でみると、北で約11度東に偏している。柱穴は一辺が49～77cmの方形で、深さは26～58cm、柱痕跡は径14～21cmの円形である。

遺物は柱穴からロクロ調整の土師器坏・甕、須恵器坏・甕が少量出土している。

【ＳＢ3448掘立柱建物跡】（第185･224図）

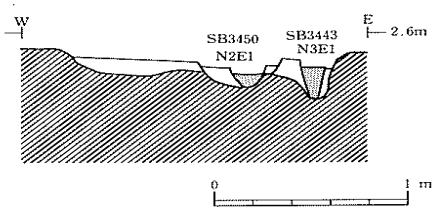
調査区南東のやや西寄りに位置する南北3間、東西2間の南北棟である。柱穴は地山面で7ヶ所検出し、6ヶ所で柱痕跡を確認している。ＳＢ3440・3442・3445掘立柱建物跡と重複しＳＢ3442より新しい。ＳＢ3440・3445との新旧関係は不明である。

平面規模は桁行が西側柱列で総長6.07m、柱間寸法は北より2.63m･3.45m（2間分）。梁行は南妻で総長3.52m、柱間寸法は等間とすると約1.8mである。方向は西側柱列でみると、北で約11度東に偏している。柱穴は一辺が25～76cmの不整方形で、深さは19～55cm、柱痕跡は径11～16cmの円形である。柱穴埋土には焼土粒が混入する。

遺物は柱穴からロクロ調整の土師器坏・甕、須恵器甕が少量出土している。

【ＳＢ3443掘立柱建物跡】（第185･191･224図）

調査区南東のやや西寄りに位置する東西2間、南北2間の総柱建物跡である。柱穴は地山面で7ヶ所検出し、6ヶ所で柱痕跡を確認している。ＳＢ3441･3449･3450掘立柱建物跡と重複しＳＢ3441･3450より古い。ＳＢ3449との新旧関係は不明。



第191図　SB3443・3450柱穴断面図

である。

平面規模は東西の総長が中央柱列で4.27m、柱間寸法は西より2.14m・2.12m。南北の総長が中央柱列で4.17m、柱間寸法は北より2.10m・2.07mである。方向は中央の東西柱列でみると、東で約8度南に偏しており、南北柱列でみると、北で約5度東に偏している。柱穴は一辺が26～39cmの方形で、深さは26～33cm、柱痕跡は径12cm前後の円形である。

遺物は柱穴から須恵器甕が1片出土しているのみである。

【ＳＢ3450掘立柱建物跡】（第185・224図）

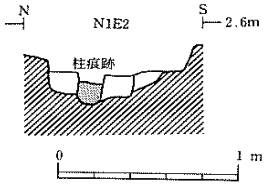
調査区南東のやや西寄りに位置する南北2間以上、東西1間以上の建物跡である。柱穴は地山面で5ヶ所検出し、3ヶ所で柱痕跡を確認している。ＳＢ3443・3449掘立柱建物跡と重複しＳＢ3443よりも新しい。ＳＢ3449との新旧関係は不明である。

柱間寸法は東側柱列で約1.5m、北側柱列で約2.1mである。方向は東側柱列でみると、北で10度前後東に偏している。柱穴は一辺が43～59cmの方形で、深さは29～36cm、柱痕跡は径12～17cmの円形である。

遺物は柱穴からロクロ調整の土師器甕、須恵器坏・甕が5片出土しているのみである。

【ＳＢ3449掘立柱建物跡】（第185・192・224図）

調査区南東のやや西寄りに位置する南北2間以上、東西2間以上の建物跡である。柱穴は地山面で5ヶ所検出し、4ヶ所で柱痕跡を確認している。ＳＢ3443・3450掘立柱建物跡と重複するが、新旧関係は不明である。



第192図　SB3449柱穴断面図

平面規模は桁行柱間寸法が北より2.10m・1.84m・2.13m（東側柱列）であり、梁行は北妻で総長約4.8m、柱間寸法は等間とすると約2.4mである。方向は東側柱列でみると、北で約13度東に偏している。柱穴は一辺が49～62cmの方形で、深さは4～49cm、柱痕跡は径13～16cmの円形である。

遺物は柱穴からロクロ調整の土師器坏・甕、須恵器坏・甕、砥石が少量出土している。須恵器坏には漆が付着したものもある。

【ＳＢ3445掘立柱建物跡】（第185・224・225図）

調査区南東のやや西寄りに位置する南北3間、東西2間の南北棟である。柱穴は地山面で検出し、8ヶ所で柱痕跡を確認している。そのうち1ヶ所で柱材が遺存していた。ＳＢ3448掘立柱建物跡などと重複するが、新旧関係は不明である。

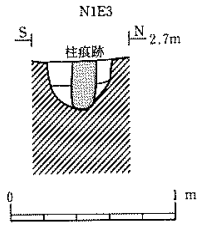
平面規模は桁行が西側柱列で総長約7.6m、柱間寸法は北より約2.6m・2.51m・2.50m。梁行は北妻で総長約4.7m、柱間寸法は西より約2.4m・2.34mである。方向は東側柱列でみると、北で約1度東に偏している。柱穴は一辺が40～80cmの不整方形で、深さは19～60cmである。そのうち1個の底面に礎盤が据えられていた。柱痕跡は径13～24cmの円形である。

遺物は柱穴からロクロ調整の土師器坏が3片出土しているのみである。

【ＳＢ1873掘立柱建物跡】（第193・225図）

調査区南東に位置する南北3間、東西2間の南北棟である。柱穴は地山面で9ヶ所検出し、すべて

の柱穴で柱痕跡を確認している。ＳＢ1496掘立柱建物跡やＳＩ1491･1635竪穴住居跡と重複し、ＳＩ1491･1635より新しい。ＳＢ1496との新旧関係は不明である。

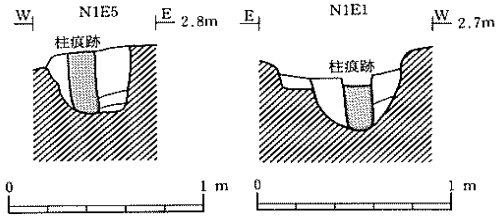


第193図　SB1873柱穴断面図

平面規模は桁行が東側柱列で総長 7.47m、柱間寸法は北より 2.41m･2.60m･2.47m。梁行は北妻で総長 4.58m、柱間寸法は西より 2.34m･2.24mである。方向は東側柱列でみると、北で約 4 度東に偏している。柱穴は一辺が 26～39cm の方形で、深さは 18～29cm、柱痕跡は径 10～15cm の円形である。柱穴や柱痕跡埋土には灰白色火山灰粒が混入する。

遺物は柱穴からロクロ調整の土師器数片が出土しているのみである。

【ＳＢ1864掘立柱建物跡】（第194･196･225図）



第194図　SB1864柱穴断面図

調査区南東に位置する東西 4 間、南北 3 間の南および西廂付の東西棟で、ほぼ同位置で一度建て替えられている（Ａ→Ｂ）。柱穴は地山面で検出し、ＳＩ1932･1935 竪穴住居跡と重複するが、それらより新しい。

Ａは柱穴を身舎 8 ヶ所、廂 4 ヶ所を検出し、廂 1 ヶ所で柱痕跡を確認したが、Ｂに壊されているため平面規模などの詳細は不明である。

Ｂはすべての柱穴を検出し、身舎 10 ヶ所、廂 7 ヶ所で柱痕跡を確認している。平面規模は桁行総長 10.48m（北側柱列）、柱間寸法は東より 2.61m･2.71m･2.81m、廂の出は 2.31m。梁行は西妻で総長 7.08m、柱間寸法は北より 2.57m･2.39m、廂の出は 2.11mである。方向は北側柱列でみると、東で約 5 度南に偏している。柱穴は身舎が一辺が 40～70cm の方形で、深さは 22～46cm、廂が一辺が 32～44cm の隅丸方形で、深さは 12～38cm である。そのうち 1 個の底面に礎板が据えられていた。柱痕跡は身舎が径 14～19cm、廂が径約 14cm の円形である。

遺物はＢの柱穴からロクロ調整の土師器および須恵器、赤焼土器が少量出土している。

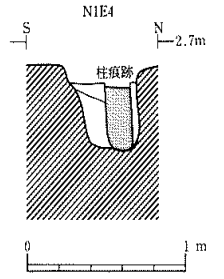
【ＳＢ1931掘立柱建物跡】（第226図）

調査区南東に位置し、ＳＢ1690掘立柱建物跡と柱筋を揃える南北 2 間以上、東西 1 間以上の建物跡である。柱穴は地山面で 5 ヶ所検出し、すべての柱穴で柱痕跡を確認している。重複は認められない。

柱間寸法は西側柱列で南より 2.36m･2.25m、南側柱列で 2.23mである。方向は西側柱列でみると、北で約 3 度東に偏している。柱穴は一辺が 34～52cm の方形で、深さは約 32cm、柱痕跡は径 17cm 前後の円形である。

遺物は出土していない。

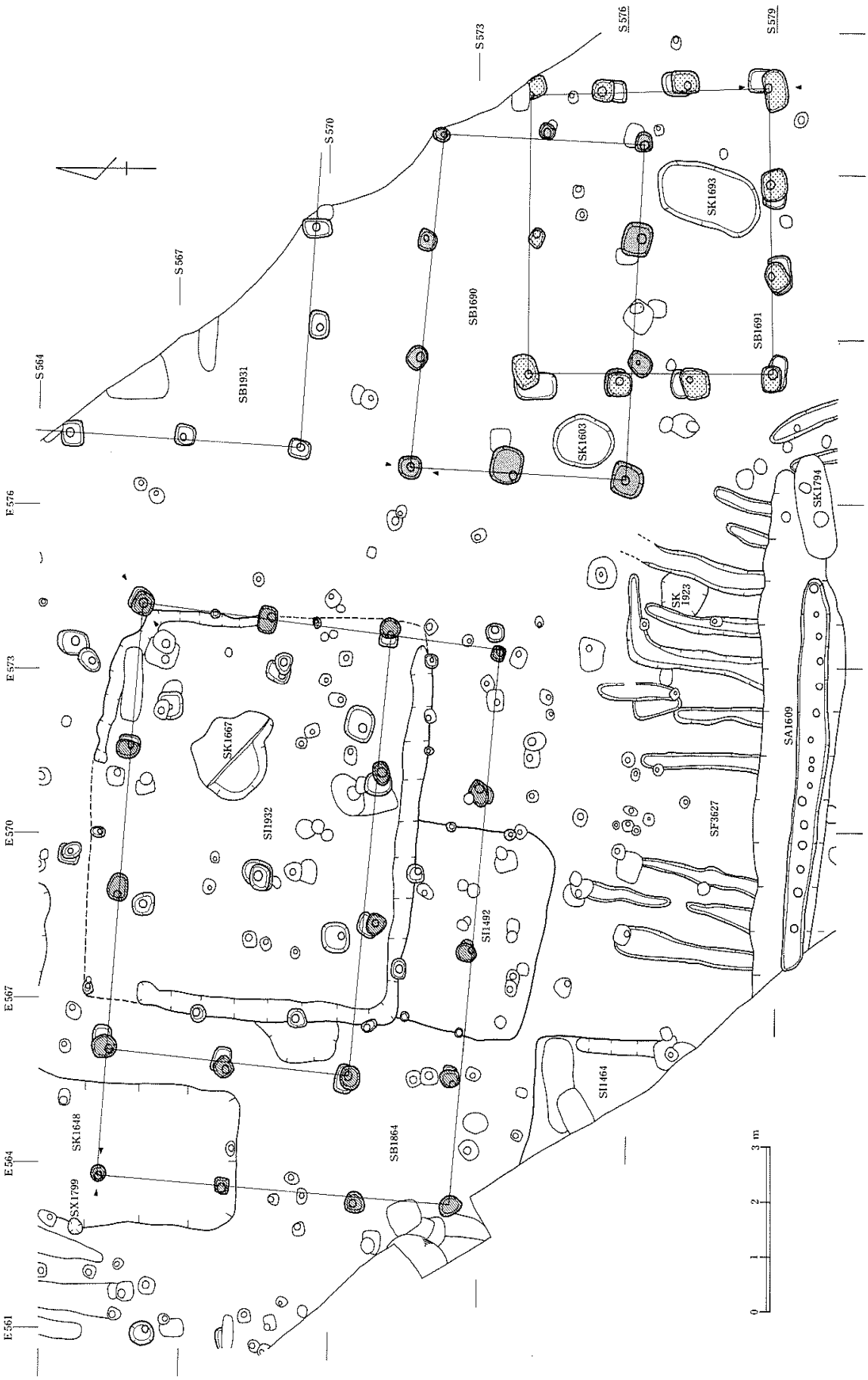
【ＳＢ1690掘立柱建物跡】（第195･196･226図）



第195図　SB1690柱穴断面図

調査区南東隅に位置し、ＳＢ1931掘立柱建物跡と柱筋を揃える東西 3 間、南北 2 間の東西棟である。柱穴は地山面で検出し、すべての柱穴で柱痕跡を確認している。ＳＢ1691掘立柱建物跡と重複するが、新旧関係は不明である。

平面規模は桁行が北側柱列で総長 6.02m、柱列寸法は西より 2.01m･2.16m･1.90m。梁行は西妻で総長 4.30m、柱間寸法は 2.04m･2.27mである。方



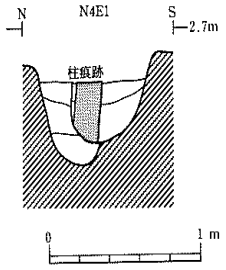
第196図　南２西１区中央部建物跡平面図

向は北側柱列でみると、東で約6度南に偏している。柱穴は一辺が30～68cmの方形で、深さは15～48cm、柱痕跡は径11～18cmの円形である。

遺物は柱痕跡から赤焼土器、柱穴からロクロ調整の土師器および須恵器、赤焼土器が少量出土している。

【ＳＢ1691掘立柱建物跡】（第196･197･226図）

調査区南東隅に位置する南北3間、東西が南側柱列が3間、北側柱列が2間の建物跡で、ほぼ同位置で一度建て替えられている（Ａ→Ｂ）。柱穴は地山面で検出し、ＳＢ1690掘立柱建物跡と重複するが、新旧関係は不明である。



第197図　SB1691柱穴断面図

Ａは柱穴を10ヶ所検出したが、Ｂに壊されているため平面規模など詳細は不明である。

Ｂは柱穴を10ヶ所検出し、すべての柱穴で柱痕跡を確認している。平面規模は南側柱列で総長5.23ｍ、柱間寸法は西より1.79ｍ･1.67ｍ･1.73ｍ、北側柱列で総長5.12ｍ、柱間寸法は2.56ｍ等間、西側柱列で総長4.89ｍ、柱間寸法は1.84ｍ･1.40ｍ･1.66ｍである。方向は南側柱列でみると、東で約1度南に偏している。柱穴は一辺が38～76cmの方形で、深さは22～51cm、柱痕跡は径11～22cmの円形である。

遺物は柱穴から調整不明の土師器甕が数片出土しているのみである。

(2)竪穴住居跡

23軒検出した。これらは主に調査区南東側と中央やや北寄りにまとまっており、5軒重複して検出しているものもある。建物跡と重複するものにいては、いずれも建物跡より古い。平面形は一辺約3～7ｍの隅丸方形のものと長辺3～6ｍ･短辺2～5ｍの隅丸長方形のものがある。方向は建物跡と同様の傾向が認められるが、重複関係において古いものの中にはこれらとは異なり、北で東に大きく偏するものもみられる。残存状況は概して床面近くまで削平を受けているものが多く、遺物についても小破片がほとんどで、時期を特定できるものは少ない。このうち比較的残存状況の良い16軒について説明する。

【ＳＩ3206掘立柱建物跡】（第217図）

調査区北西、ＳＸ1350道路跡の東脇に位置し、北東部分は調査区外に延びている。地山面で検出し、ほぼ同位置で1度建て替えられている（ＳＩ3206Ａ→Ｂ）。他の遺構との重複は認められない。

Ａは掘り方埋土を床面としており、不整円形で長軸約96cm、短軸約74cm、深さ約16cmの土壙を住居南側で検出している。その他の詳細はＳＩ3206Ｂによって壊されており不明である。

Ｂは平面形は南辺5.0ｍ以上･西辺4.7ｍ以上で、方向は西辺で北で約5度東に偏している。壁は溝壁で約7cm残存しており、床は黒褐色砂質土を貼って床面としている。

柱穴は主柱穴を3ヶ所検出した。一辺34～48cmの隅丸方形で、深さは20～34cmである。柱痕跡はいずれも柱穴でも確認しており、径13～18cmの円形である。柱間隔は東西で約3.5ｍ、南北で約2.3ｍ

である。

周溝は西辺、南辺で認められた。上端幅 26～36cm、下端幅約 8～22cm で床面からの深さは 17～22cm である。断面形は「U」字状を呈する。

カマドは検出していないが、南東部に炭や焼土を多く含む層が認められた。

住居内堆積土は１層で、自然堆積とみられる。

遺物はＢ床面から非ロクロ調整の土師器甕や瓦、掘り方埋土および貼床、貯蔵穴、住居内堆積土からはそれぞれ非ロクロ調整の土師器坏・甕および須恵器坏・甕、瓦などが出土している。Ｂ床面出土の土師器甕は体部外面にハケメ調整が施されており、貼床出土の土師器坏は丸底と平底があり、どちらも無段である。またＡ掘り方埋土出土の土師器坏は口縁部が内湾する有段丸底坏である。

【ＳＩ1508 竪穴住居跡】（第198･220 図）

調査区ほぼ中央のやや北寄りに位置し、地山面で検出した。東辺は撹乱により壊されている。

平面形は北辺約 5.3ｍ・西辺約 4.2ｍの隅丸長方形を呈し、方向は西辺でみると、北で約18度東に偏している。壁は 10～17cm 残存し、床は中央部は地山、周辺は掘り方埋土を床面としている。

柱穴は主柱穴を４ヶ所（Ｐ1～4）、壁柱穴を７ヶ所（Ｐ5～11）検出した。主柱穴は床面の対角線上で検出し、それぞれ 2 回の重複を確認している。規模は径 22cm～30cm の円形、一辺 50cm の方形、長径 39cm･短径 27cm の楕円形など多様で、深さも 6～44cm とばらつきがある。柱痕跡は 4 ヶ所確認しており、径 12～16cm の円形で、柱間隔は新しい柱で東西約 2.0ｍ、南北約 1.9ｍである。壁柱穴は住居跡の四隅と北辺を除く各辺で１ヶ所ずつ検出している。長径 20～32cm･短径 22～25cm の楕円形で、深さは 6～40cm である。柱痕跡は径 8～13cm の円形で、柱間隔は南辺をみると、西から 2.7ｍ･2.6ｍである。

周溝は撹乱に壊されている東辺を除き、各辺で検出している。上端幅 8～25cm、下端幅 4～14cm、床面からの深さ 3～16cm で、断面形は「U」字状を呈する。

カマドは認められない。

その他に住居東側でＰ12 を検出した。平面形は長径約 91cm･短径約 56cm の楕円形で、深さ約 41cm である。壁は緩やかに立ち上がり、断面形は摺鉢状を呈する。

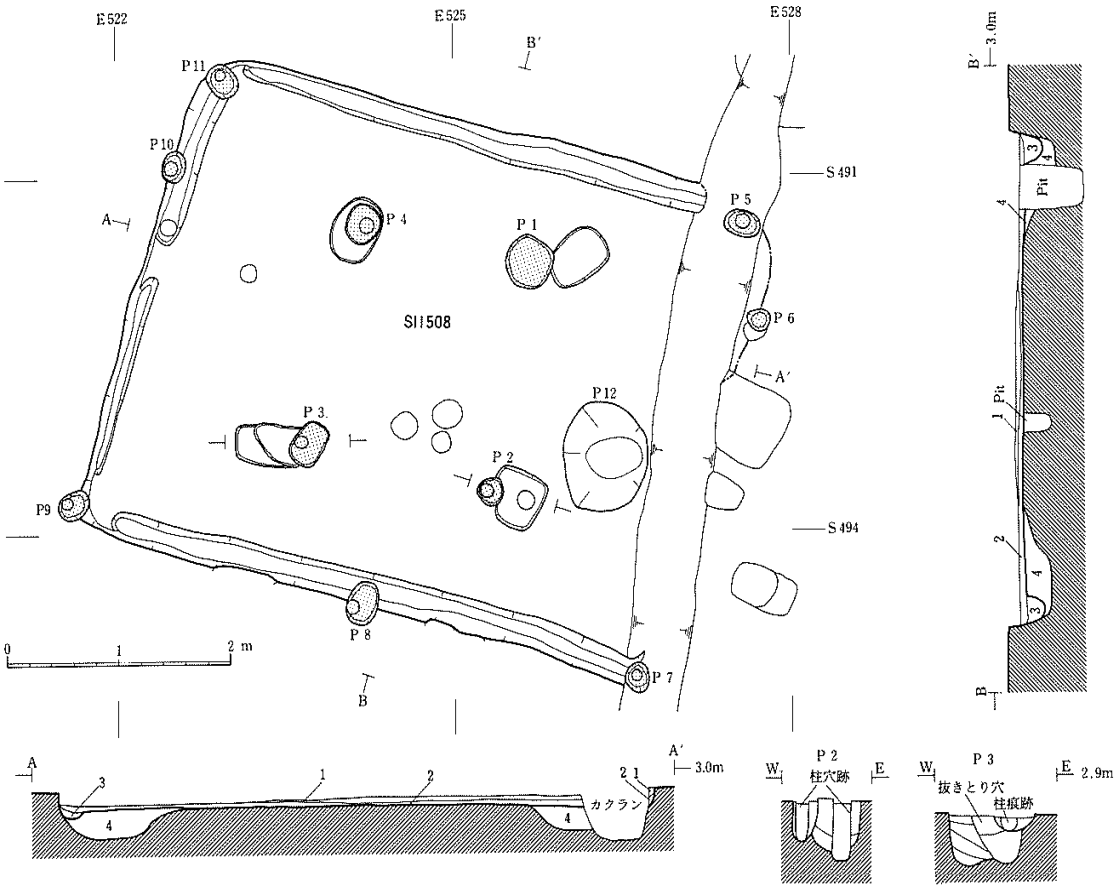
住居内堆積土は２層に細分され、いずれも自然堆積である。

遺物は床面、周溝内堆積土、掘り方埋土、住居内堆積土から非ロクロ調整土師器甕とロクロ調整土師器坏および須恵器坏・甕などがそれぞれ出土している。坏類の底部調整は、床面出土の土師器坏はロクロ調整で手持ちヘラケズリが施されており、住居内堆積土出土の土師器坏も同じく手持ちヘラケズリ調整が主体である。

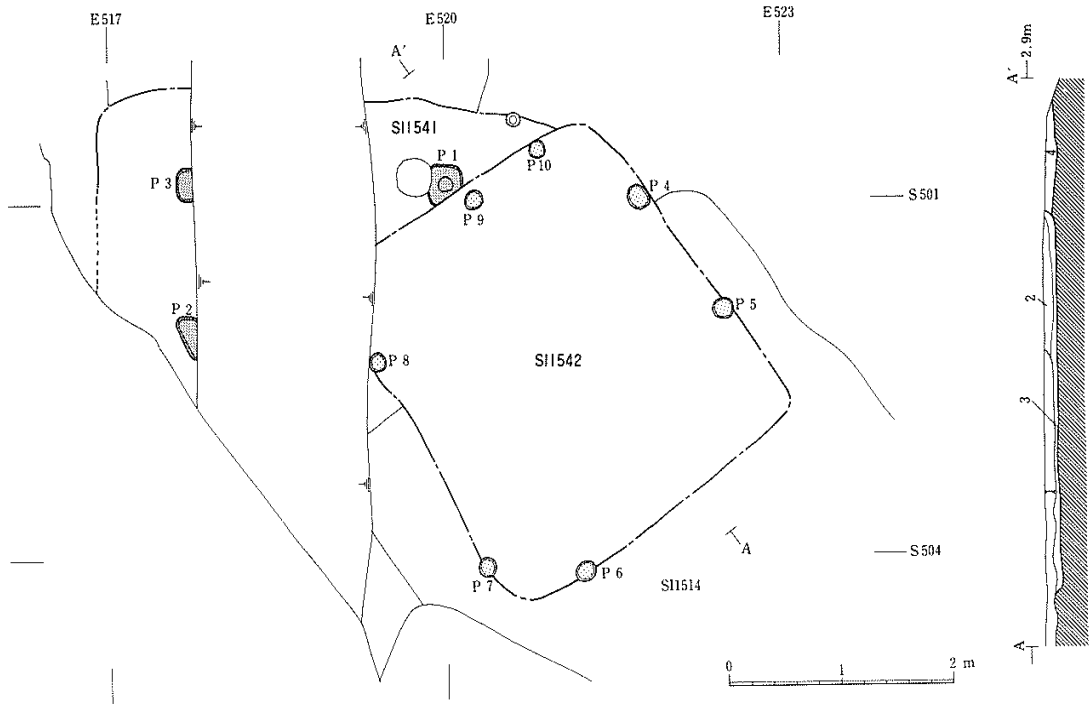
【ＳＩ1541 竪穴住居跡】（第198･220 図）

調査区中央やや北寄りに位置し地山面で検出した。ＳＩ1542 竪穴住居跡と重複し、これより古い。撹乱やＳＩ1542 によって壊されており、また床面も削平され、北辺周辺の掘り方埋土のみが残存する。

規模は北辺で約４ｍを計るが、平面形については不明である。方位は北辺でみると東で約５度南に偏している。



No	土色	土性	備考	No	土色	土性	備考
1	オリーブ黒 5Y3/1	砂質シルト	[住居内堆積土] 地山粒含。炭化物多。	3	褐灰 7.5YR4/1	砂質シルト	[周溝内埋土] 地山粒多。
2	暗灰黄 2.5Y4/2	砂質シルト	[住居内堆積土] 地山粒含。	4	黒褐 2.5Y3/2	粘質シルト	[掘り方埋土] 地山粒若干含。



No	土色	土性	備考		No	土色	土性	備考	
1	黒褐 2.5Y3/1	シルト	SI1514	[住居内堆積土]地山ブロック・灰白粒含。	3	暗灰黄 2.5Y4/2	シルト	SI1542	[掘り方埋土] 地山砂多。
2	黒褐 2.5Y3/2	シルト	SI1542	[掘り方埋土] 地山粒含。	4	灰黄褐 10YR4/2	シルト	SI1541	[掘り方埋土] 地山砂ブロック多。

第198図　SI1508、1541・1542住居跡

柱穴は主柱穴を 3 ヶ所(Ｐ1～3)で検出している。一辺約 30cm の方形で、深さは約 35cm、柱痕跡は 1 ヶ所のみ確認しており、径約 10cm の円形である。

カマドは確認できなかった。

遺物は掘り方埋土から調整不明の土師器が出土している。

【ＳＩ1542 竪穴住居跡】(第198･220 図)

調査区中央やや北寄りに位置し、地山面で検出した。ＳＩ1514・1541・1563 竪穴住居跡やＳＫ1561 土壙などと重複し、ＳＩ1514、ＳＫ1561 より古く、ＳＩ1541･1563 より新しい。床面は削平されており、堀方埋土と壁柱穴のみが残存する。

平面形は東辺約 3.3m、南辺約 3.0mの隅丸方形を呈し、方位は東辺で東で約57 度南に偏している。

壁柱穴は 7 個(Ｐ4～10)検出した。径 14～20cm の円形で、深さは残りが悪く 3cm 前後である。柱痕跡は認められなかった。

カマドは確認できなかった。

遺物は掘り方埋土から両面黒色処理の土師器坏が出土している。

【ＳＩ1514 竪穴住居跡】(第199･220 図)

調査区中央やや北寄りに位置し、地山面で検出した。ＳＢ1512 掘立柱建物跡やＳＩ1513･1542･1543 竪穴住居跡、ＳＫ1561 土壙などと重複し、ＳＢ1512、ＳＩ1543、ＳＫ1561 より古く、ＳＩ1513・1542 より新しい。

平面形は東辺約 5.3m・北辺 4.1mの隅丸長方形を呈し、方向は東辺でみると東で約53 度南に偏している。壁は約 6cm 残存し、床は地山を床面としている。

主柱穴やカマドなどは認められない。

住居内堆積土は 1 層で人為的埋土である。

遺物は床面からロクロ調整の土師器、堆積土からロクロ調整の土師器や須恵器などが出土している。

【ＳＩ1543 竪穴住居跡】(第199･220 図)

調査区中央やや北寄りに位置し、地山面で検出した。南西隅は調査区外に延びる。ＳＢ1512 掘立柱建物跡やＳＩ1514 竪穴住居跡と重複しＳＢ1512 より古く、ＳＩ1514 より新しい。

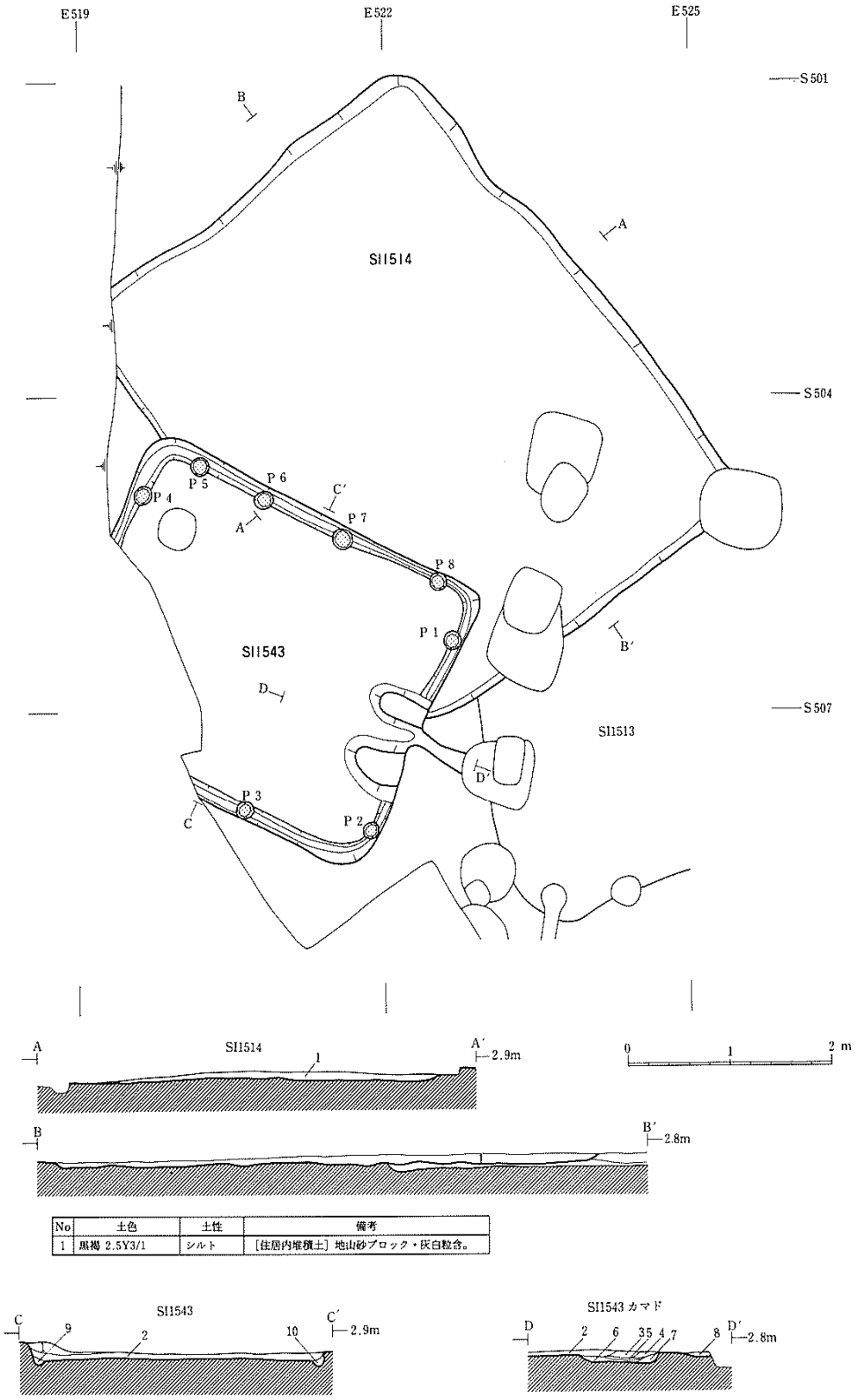
平面形は北辺約 3.6m、東辺約 3.0mの隅丸方形を呈し、方向は北辺でみると東で約27 度南に偏している。壁は最も残りの良い南壁で約 16cm 残存し、床は地山を床面としている。

柱穴は 8 個（Ｐ1～8）の壁柱穴を検出した。径 15～18cm の円形で、深さは 3～6cm である。柱間隔は北辺で 4 個配しており、西より 0.72m・0.87m・1.03mである。

周溝は各辺で認められた。上端幅 8～21cm、下端幅 3～12cm、床面からの深さは約 5cm で、断面形は「Ｕ」字状を呈する。

カマドは東壁中央部に付設されている。側壁は砂混じりの粘土によって構築され、燃焼部は最大幅約 34cm、奥行き約 48cm である。底面は浅く掘り窪められており、火熱によって赤色化している。煙道は先端部をＳＢ1512 の柱穴に切られ、残存長約 54cm、上端幅 12～18cm、深さ約 4cm の溝状に残る。

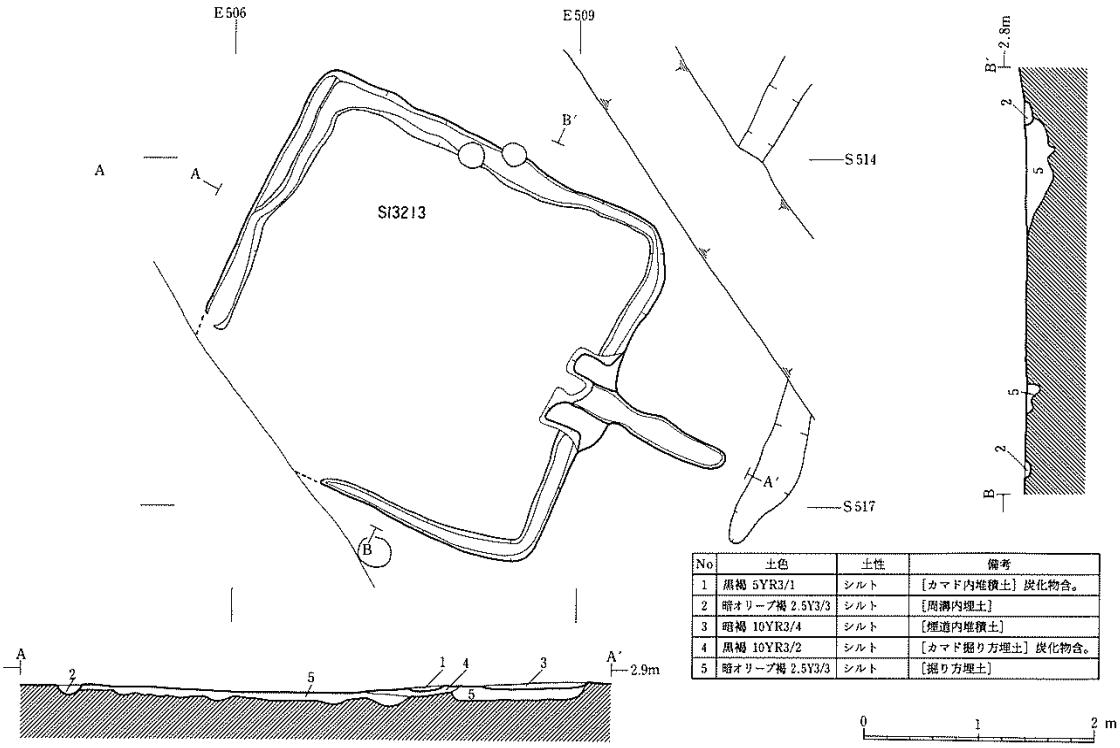
住居内堆積土は 2 層に細分され、いずれも自然堆積である。



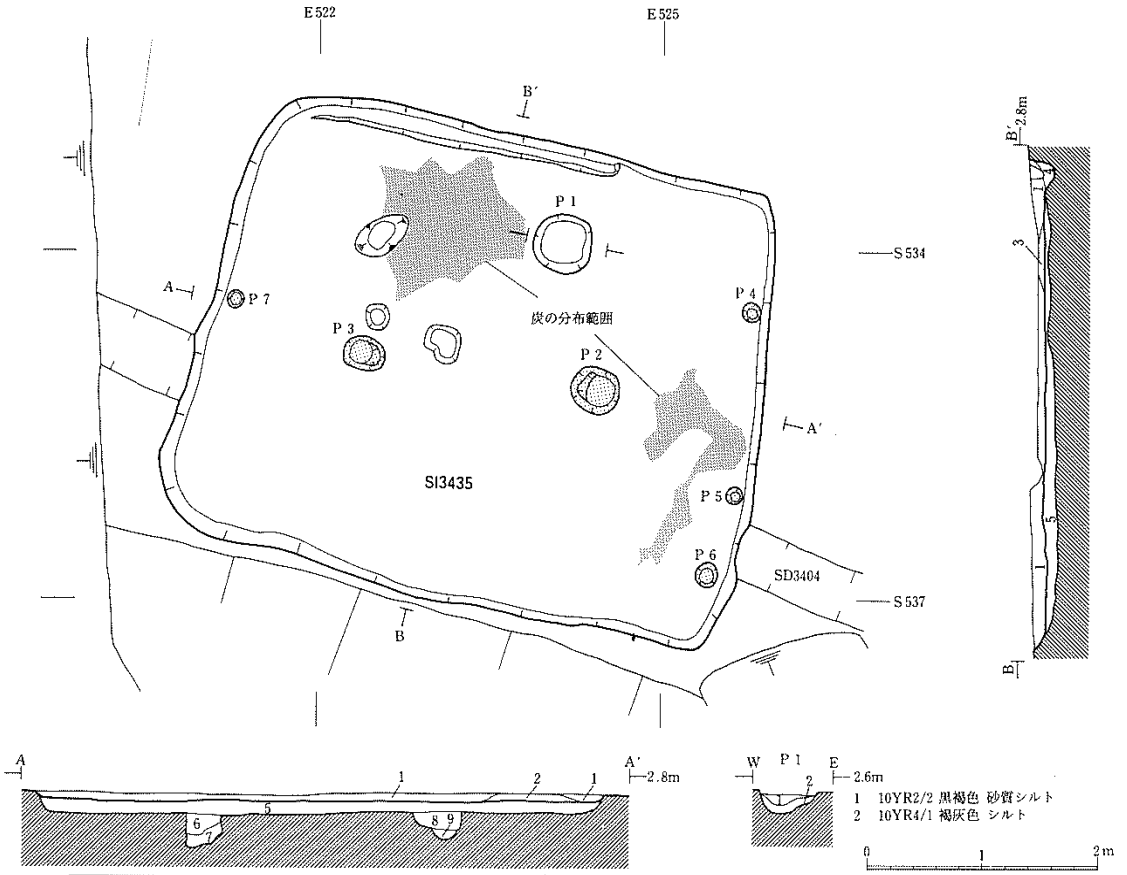
No	土色	土性	備考
1	黒褐 2.5Y3/1	シルト	[住居内堆積土] 地山砂ブロック・灰白粒含。

No	土色	土性	備考	No	土色	土性	備考
1	灰黄褐 10YR4/2	シルト	[住居内堆積土] 壁際に地山砂ブロック多。	6	黒褐 10YR3/2	シルト	[カマド内堆積土]焼土・炭化物含。下層に焼面。
2	黒褐 10YR3/2	シルト	[住居内堆積土] 地山粒・炭化物若干含。	7	にぶい黄褐 10YR4/3	シルト	[カマド内堆積土]炭化物多。白色粘土ブロック含。
3	灰黄褐 10YR4/2	粘土	[カマド内堆積土] 灰・炭化物・焼土ブロック多。	8	にぶい黄褐 10YR4/3	シルト	[煙道内堆積土]炭化物多。白色粘土ブロック含。
4	にぶい黄褐 10YR4/3	シルト	[カマド内堆積土] 焼土ブロック(大)・炭化物・灰含。	9	灰黄褐 10YR4/2	粘質シルト	[周溝内堆積土]全体に炭化物・焼土多。
5	黒褐 10YR2/2	粘質シルト	[カマド内堆積土] 炭化物・焼土多。	10	黒褐 10YR3/1	粘質シルト	[周溝内堆積土]

第199図　SI1514・1543住居跡



No	土色	土性	備考
1	黒褐 5YR3/1	シルト	［カマド内堆積土］炭化物含。
2	暗オリーブ褐 2.5Y3/3	シルト	［周溝内埋土］
3	暗褐 10YR3/4	シルト	［煙道内堆積土］
4	黒褐 10YR3/2	シルト	［カマド掘り方埋土］炭化物含。
5	暗オリーブ褐 2.5Y3/3	シルト	［掘り方埋土］



No	土色	土性	備考	No	土色	土性	備考
1	灰黄褐 10YR4/2	砂質シルト	［住居内堆積土］地山粒多。	6	暗灰黄 2.5Y4/2	砂質シルト	［柱穴埋土］地山ブロック多。
2	黒褐 10YR3/2	砂質シルト	［住居内堆積土］炭化物多。焼土ブロック含。	7	暗オリーブ褐 2.5Y3/3	砂	［柱穴埋土］地山ブロック若干含。
3	黒褐 10YR2/2	砂質シルト	［住居内堆積土］地山ブロック・炭化物・焼土含。	8	黒褐 2.5Y3/2	砂質シルト	［柱穴埋土］地山ブロック多。
4	黒褐 10YR3/2	砂質シルト	［周溝内堆積土］炭化物若干含。ややグライ化。	9	灰 5Y4/1	砂質シルト	［柱穴埋土］砂多。
5	黒褐 10YR3/2	砂質シルト	［掘り方埋土］地山ブロック多。炭化物若干含。				

第200図　SI3213・3435住居跡

遺物は床面からロクロ調整の土師器坏・甕および須恵器坏、住居内堆積土からは非ロクロ調整とロクロ調整の土師器坏・甕、須恵器坏・甕、製塩土器などが出土している。床面出土の須恵器坏は底部に回転ヘラケズリ調整が施されている。堆積土出土のロクロ調整の土師器坏は底部調整は手持ちヘラケズリ調整がほとんどで、その他には内外面にヘラミガキ調整と黒色処理が施されるものも出土している。

【ＳＩ3213 竪穴住居跡】（第200･219 図）

調査区中央西寄りに位置し、南西隅は調査区外に延びる。地山面で検出し、重複は認められない。

平面形は北辺 3.5･東辺 3.2ｍの隅丸方形を呈し、方向は北辺で東で約25度南に偏している。床は掘り方埋土を床面としており、削平により壁は残存せず、かろうじて床面が残存している。

柱穴は検出されなかった。

周溝は各辺で認められた。上端幅 11～29cm、下端幅 6～21cm で、床面からの深さは約 8cm である。断面形は「Ｕ」字状を呈する。

カマドは東壁中央部に付設されている。側壁は粘土によって構築され、燃焼部は最大幅 23cm、奥行き 28cm である。底面は浅く掘り窪められ、焼土や炭化物がフロック状に堆積している。煙道は長さ約 132cm、幅約 22cm、深さ約 5cm の溝状に残存する。

遺物は周溝内堆積土や掘り方埋土から調整不明の土師器甕が若干出土している。

【ＳＩ3435 竪穴住居跡】（第200･221 図）

調査区中央やや南寄りに位置し、地山面で検出した。ＳＤ1618 溝跡と重複し、これより古い。

平面形は南辺約 5.3ｍ･北辺約 4.6ｍ･西辺約 4.1ｍの隅丸長方形を呈する。方向は南辺で東で約12度南に偏している。壁は北壁で 13cm 残存し、床は掘り方埋土を床面としている。柱穴は主柱穴 2 ヶ所、壁柱穴 4 ヶ所を検出した。主柱穴は床面の中軸線上で検出した。径 29～41cm の円形で深さは 24～30cm、柱痕跡は検出されなかった。柱間隔は約 2.1ｍである。壁柱穴は柱痕跡のみが検出され、径 15～20cm の円形である。

周溝は北辺で認められた。上端幅 19～24cm、下端幅 6～12cm で、床面からの深さは約 10cm である。断面形は「Ｕ」字状を呈する。

カマドは認められず、住居内北側と東側の 2 ヶ所で炭化物や焼土を多く含む層が確認された。

住居内堆積土は 1 層で、自然堆積とみられる。

遺物は床面からロクロ調整の土師器高台坏・蓋・甕、須恵器坏・甕、掘り方埋土や住居内堆積土からロクロ調整の土師器坏・甕、須恵器坏・甕、灰釉陶器段皿などが出土している。住居内堆積土には、その他に極少量の赤焼土器坏も含まれる。床面出土の土師器高台坏・蓋には内外面にヘラミガキ調整と黒色処理が施されており、住居内堆積土出土の須恵器坏はヘラ切り無調整で、内外面に漆が付着し、底部には「七」？のヘラ書きがある。

【ＳＩ1615 竪穴住居跡】（第201･222 図）

調査区中央やや南東寄りに位置し、地山面で検出した。ＳＢ1616 掘立柱建物跡やＳＤ1775 溝跡と重複し、これらより古い。

平面形は東辺5.6m、北辺約4.7mの隅丸長方形を呈し、方向は東辺でみると北で約9度東に偏している。床面は削平により、南辺周辺のやや低くなっている部分でしか確認できなかったが、掘り方埋土を床面としている。

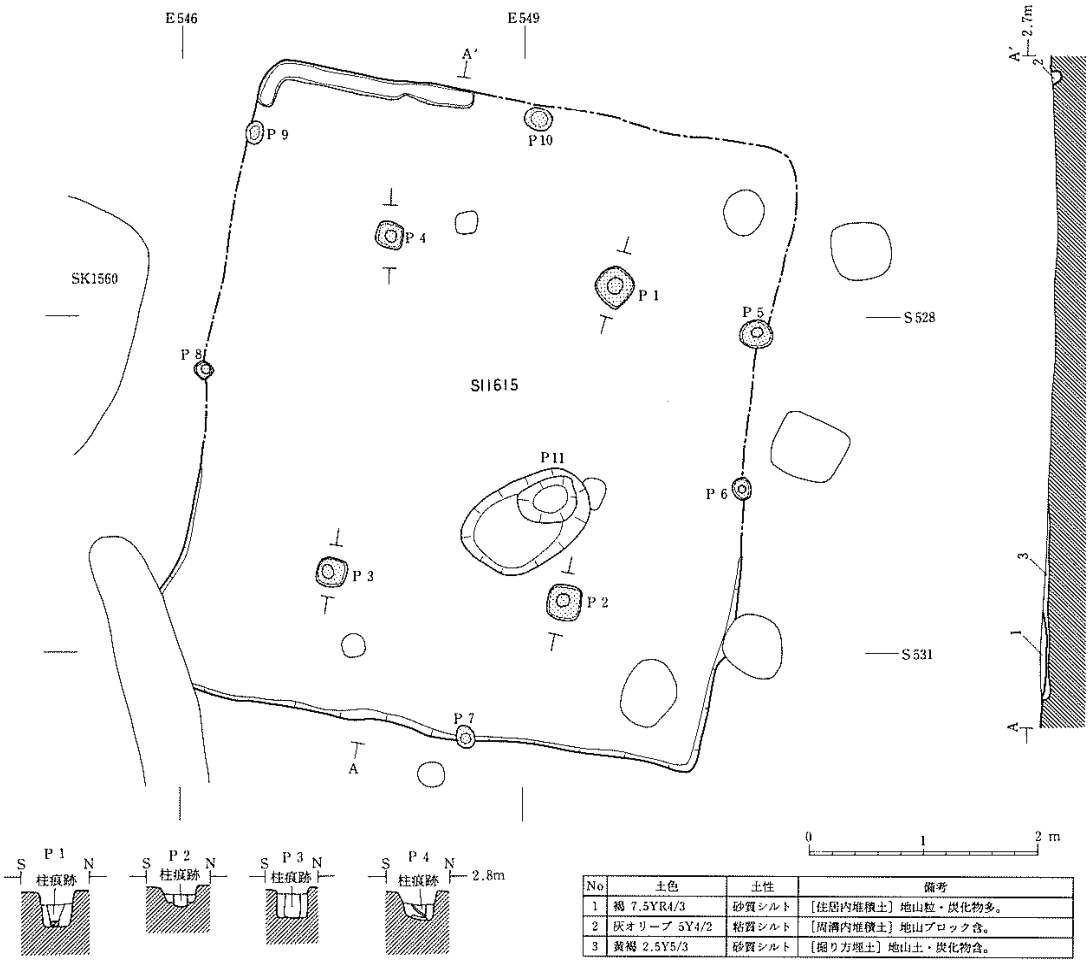
柱穴は主柱穴を4ヶ所(P1～4)と壁柱穴を6ヶ所(P5～10)検出した。主柱穴は住居平面形の対角線上で検出し、一辺20～34cmの隅丸方形で、深さは15～32cm残存しており、北側の柱穴2個には礎板が据えられていた。すべての柱穴で柱痕跡を確認しており、径6～14cmの円形である。柱間隔は東西で約2.0m、南北で約2.9mである。壁柱穴は西・東辺で各2個、南・北辺で各1個を検出している。径15～28cmの円形で、深さは4～15cmである。柱痕跡はすべての柱穴で確認しており、径7～13cmの円形である。

周溝は北東隅で認められた。上端幅12～16cm、下端幅8～12cmで、深さ約9cmが残存し、断面形は「U」字状を呈する。

カマドは確認できなかった。

その他に住居中央やや南東側でP11を検出している。平面形は隅丸方形で長軸110cm・短軸76cm、東側がやや深くなっており、深さ約19cmである。

住居内堆積土は1層で、自然堆積である。



No	土色	土性	備考
1	褐 7.5YR4/3	砂質シルト	[住居内堆積土] 地山粒・炭化物多。
2	灰オリーブ 5Y4/2	粘質シルト	[周溝内堆積土] 地山ブロック含。
3	黄褐 2.5Y5/3	砂質シルト	[掘り方埋土] 地山土・炭化物含。

第201図　SI1615住居跡

遺物は堆積土からロクロ調整の土師器坏・甕、須恵器甕などが出土している。土師器坏には底部に手持ちヘラケズリ調整が施されている。

【ＳＩ1738 竪穴住居跡】（第202･223図）

調査区中央やや南東寄りに位置し、地山面で検出した。ＳＢ1616･1617 やＳＥ1739 と重複しＳＢ1616･1617 より古く、ＳＥ1739 より新しい。

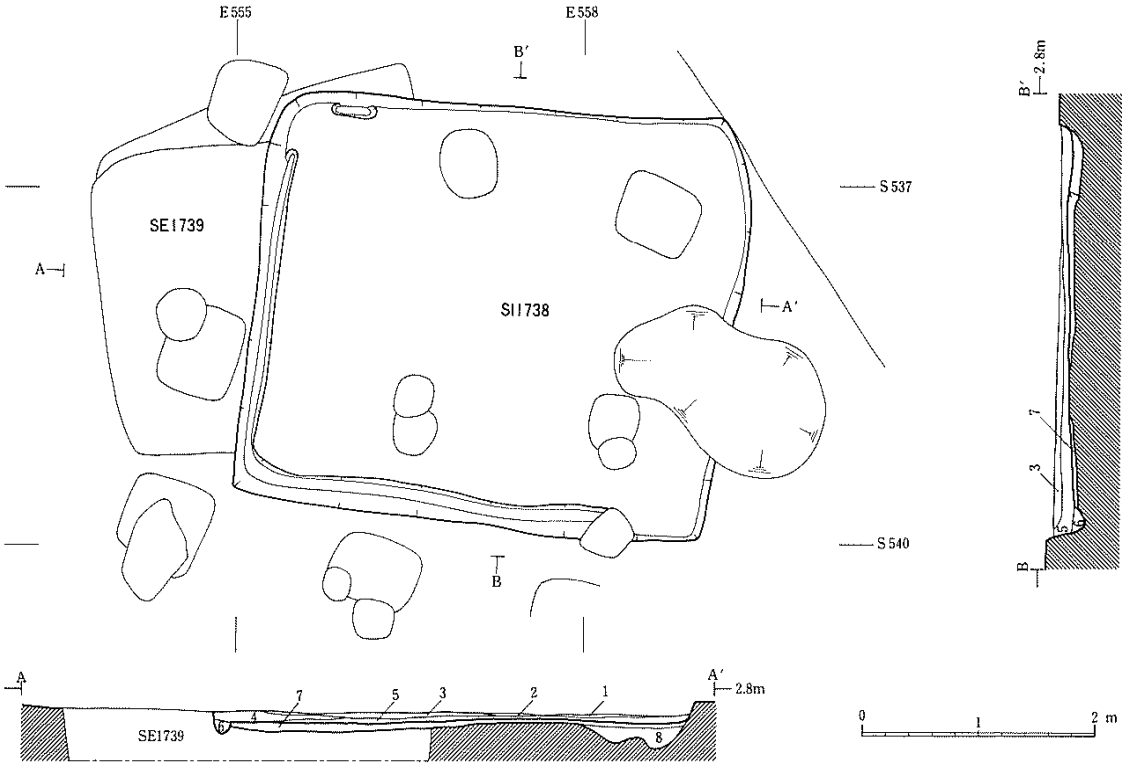
平面形は南辺 4.1ｍ・東辺約 3.5ｍの隅丸方形を呈し、方向は南辺で東で約10度南に偏している。壁は最も残りの良い南壁で約 22cm 残存しており、床は掘り方埋土を床面としている。

周溝は南辺、西辺で認められた。上端幅 10～24cm、下端幅 5～8cm で床面からの深さ 4～6cm である。断面形は「Ｕ」字状を呈する。

その他の施設は検出されなかった。

住居内堆積土は５層に細分され、いずれも自然堆積とみられる。

遺物は床面や掘り方埋土、住居内堆積土から、それぞれロクロ調整の土師器および須恵器が出土し



No	土色	土性	備考	No	土色	土性	備考
1	灰黄褐 10YR5/2	砂質シルト	［住居内堆積土］地山粒・炭化物含。	5	褐灰 10YR4/1	砂質シルト	［住居内堆積土］地山ブロック・炭化物含。
2	黒褐 10YR2/2	砂質シルト	［住居内堆積土］炭化物層。	6	黒褐 2.5Y3/2	砂質シルト	［周溝内堆積土］炭化物含。
3	暗褐 10YR3/3	砂質シルト	［住居内堆積土］炭化物含。	7	黒褐 10YR3/1	砂質シルト	［掘り方埋土］地山ブロック・粗砂多。
4	灰黄褐 10YR4/2	砂質シルト	［住居内堆積土］炭化物・焼土含。	8	黒褐 10YR3/1	砂質シルト	［掘り方埋土］地山ブロック・粗砂含。

第202図　SI1738住居跡

ている。底部調整のわかるものについては掘り方埋土、住居内堆積土出土の土師器坏は手持ちヘラケズリ調整が比較的多く、床面出土の須恵器坏はヘラ切り無調整である。

【ＳＩ1639 竪穴住居跡】（第203･225図）

調査区南東に位置し地山面で検出した。ＳＩ1635 竪穴住居跡と重複し、これより新しい。

平面形は一辺約4.6ｍの隅丸方形を呈し、方向は東辺で北で約4度東に偏している。壁は東壁で約8cm残存し、床は地山を床面としている。

柱穴は主柱穴を2ヶ所（Ｐ2･3)、壁柱穴を11ヶ所（Ｐ4～15）検出した。主柱穴は住居跡平面形の東西中軸線のやや北側で検出した。一辺 37～48cm の方形で、深さは 55～64cm、柱痕跡はいずれの柱穴でも確認しており、径 13～20cm の円形で、柱間隔は約 2.1ｍである。壁柱穴は各辺で2ないし4個確認しており、径 17～26cm の円形で深さは 16～39cm である。柱痕跡は9ヶ所で確認し、径 6～16cm の円形である。

周溝は所々途切れるものの、各辺で認められた。上端幅 12～30cm、下端幅 5～16cm、床面からの深さ 2～7cm で、断面形は「Ｕ」字状を呈する。

カマドは東壁やや南寄りに付設されている。側壁は砂混じりの粘土によって構築され、両側壁中には粘土を貼付けるための芯材として用いた石が据えられていた。燃焼部は最大幅68cm、奥行き95cmで底面は浅く掘り窪められており、焼土や炭が堆積している。煙道は検出されなかった。

貯蔵穴は住居南東隅で検出された。2回の重複があり、新しい方の平面形は楕円形で長軸 78cm･短軸 61cm、深さ 31cm である。

住居内堆積土は1層で、人為的埋土とみられる。

遺物は床面、カマド内堆積土、住居内堆積土からそれぞれロクロ調整の土師器坏、非ロクロ調整の土師器甕や須恵器などが出土している。床面出土の土師器坏の底部調整は回転糸切り無調整である。

【ＳＩ1635 竪穴住居跡】（第203･225図）

調査区南東に位置し、地山面で検出した。ＳＢ1873 掘立柱建物跡やＳＩ1639 竪穴住居跡と重複し、それらより古い。

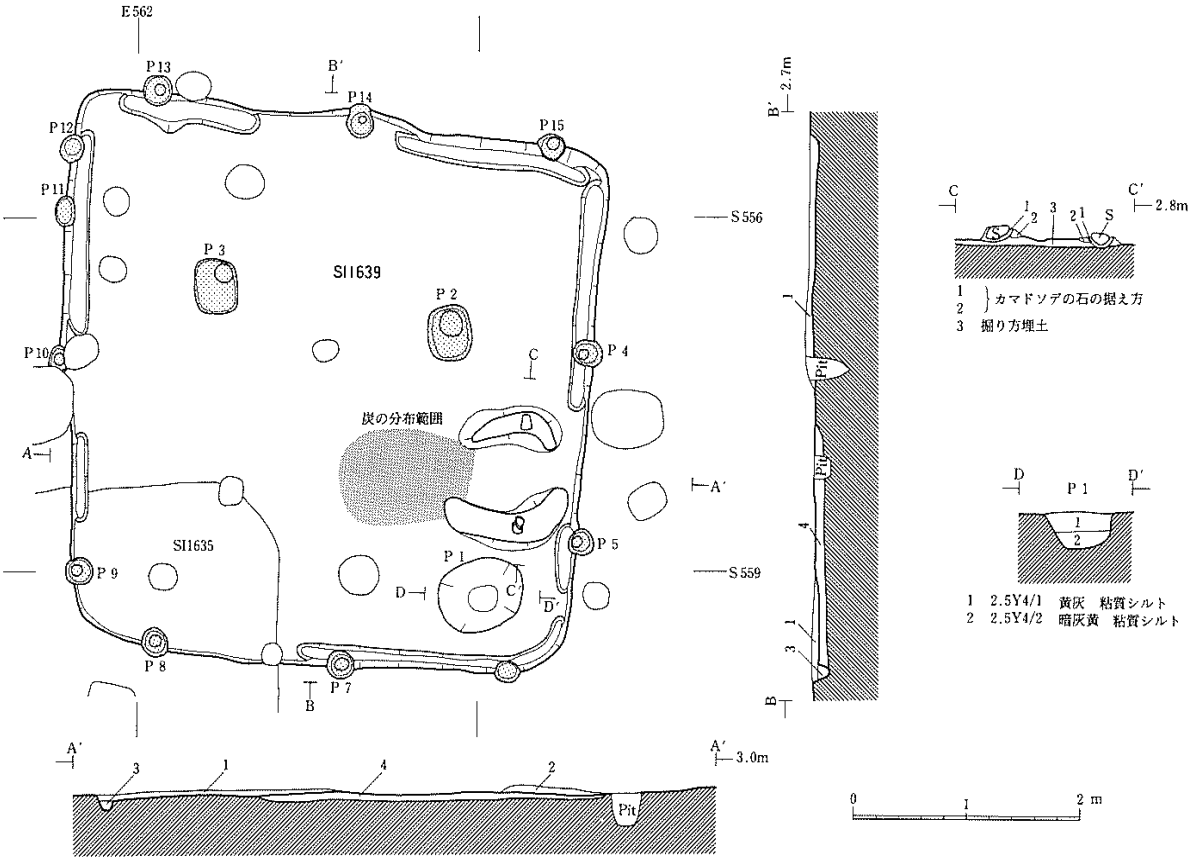
平面形は南辺約 6.0ｍ・西辺約 4.0ｍの隅丸長方形を呈し、方向は南辺でみると、東で約1度南に偏している。壁は北壁で約7cm残存し、床は掘り方埋土を床面としている。

柱穴は主柱穴を2ヶ所、壁柱穴を8ヶ所検出した。主柱穴は住居跡平面形の東西中軸線上の位置で検出した。一辺約 45cm の方形で、深さは 83cm 前後である。いずれの柱穴でも柱痕跡を確認しており、径約 15cm の円形で、柱間隔は約 2.5ｍである。壁柱穴は東辺の1個を除き、各辺で3個ずつ検出している。径 14～26cm の円形で、深さは約 12～38cm、柱痕跡は8ヶ所で確認しており、径 6～12cm の円形である。

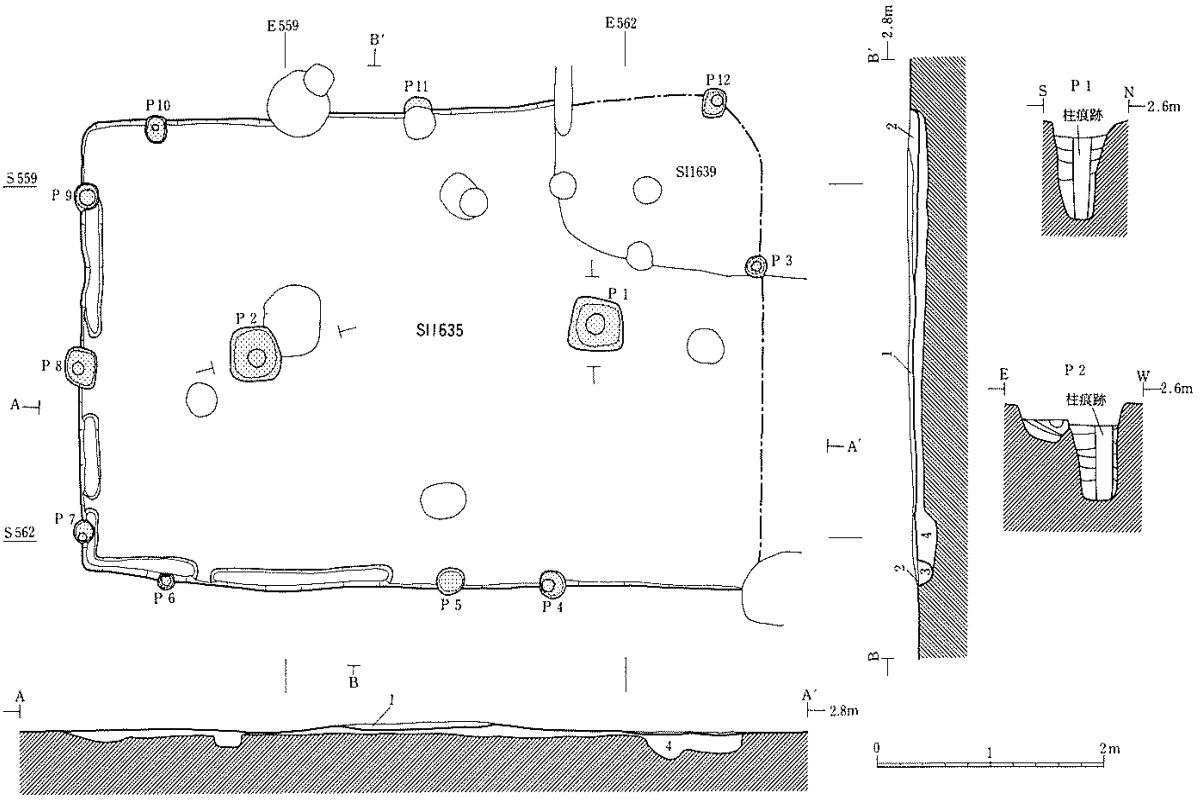
周溝は西辺と南辺西側で認められたが所々で途切れている。上端幅 15～18cm、下端幅 4～12cm、床面からの深さ 2～3cm で、断面形は「Ｕ」字状を呈する。

カマドは認められない。

住居内堆積土は2層に細分され、いずれも自然堆積である。



No	土色	土性	備考	No	土色	土性	備考
1	暗灰黄 2.5Y4/2	シルト	［住居内堆積土］地山ブロック多。	3	褐 10YR4/4	砂質シルト	［周溝内堆積土］炭化物含。
2	にぶい褐 10YR4/2	シルト	［カマド内堆積土］炭化物含。	4	暗灰黄 2.5Y4/2	砂質シルト	［掘り方埋土］炭化物若干含。



No	土色	土性	備考	No	土色	土性	備考
1	黄灰 2.5Y4/1	砂質シルト	［住居内堆積土］炭化物含。	3	黄灰 2.5Y5/1	砂質シルト	［周溝内堆積土］炭化物含。
2	黄灰 2.5Y5/1	砂質シルト	［住居内堆積土］炭化物若干含。	4	暗灰黄 2.5Y4/2	砂質シルト	［掘り方埋土］地山ブロック多。炭化物若干含。

第203図　SI1635・1639住居跡

遺物は床面や掘り方埋土からロクロ調整の土師器および須恵器、堆積土からロクロ調整の土師器および須恵器、赤焼土器などが出土している。床面出土の土師器坏は底部に手持ちヘラケズリ調整が施されている。

【ＳＩ1735 竪穴住居跡】（第204･225図）

調査区南東に位置し、地山面で検出した。ＳＩ1737 竪穴住居跡と重複し、これより新しい。

平面形は西辺 2.5m・南辺 3.5m以上の隅丸長方形を呈し、東側は調査区外にのびる。方向は西辺で北で約 4 度東に偏している。壁は西壁で約 8cm 残存し、床は掘り方埋土を床面としている。

周溝は西辺で認められた、上端幅 12～22cm、下端幅 8～16cm で、床面からの深さは 4～13cm である。断面形は「U」字状を呈する。

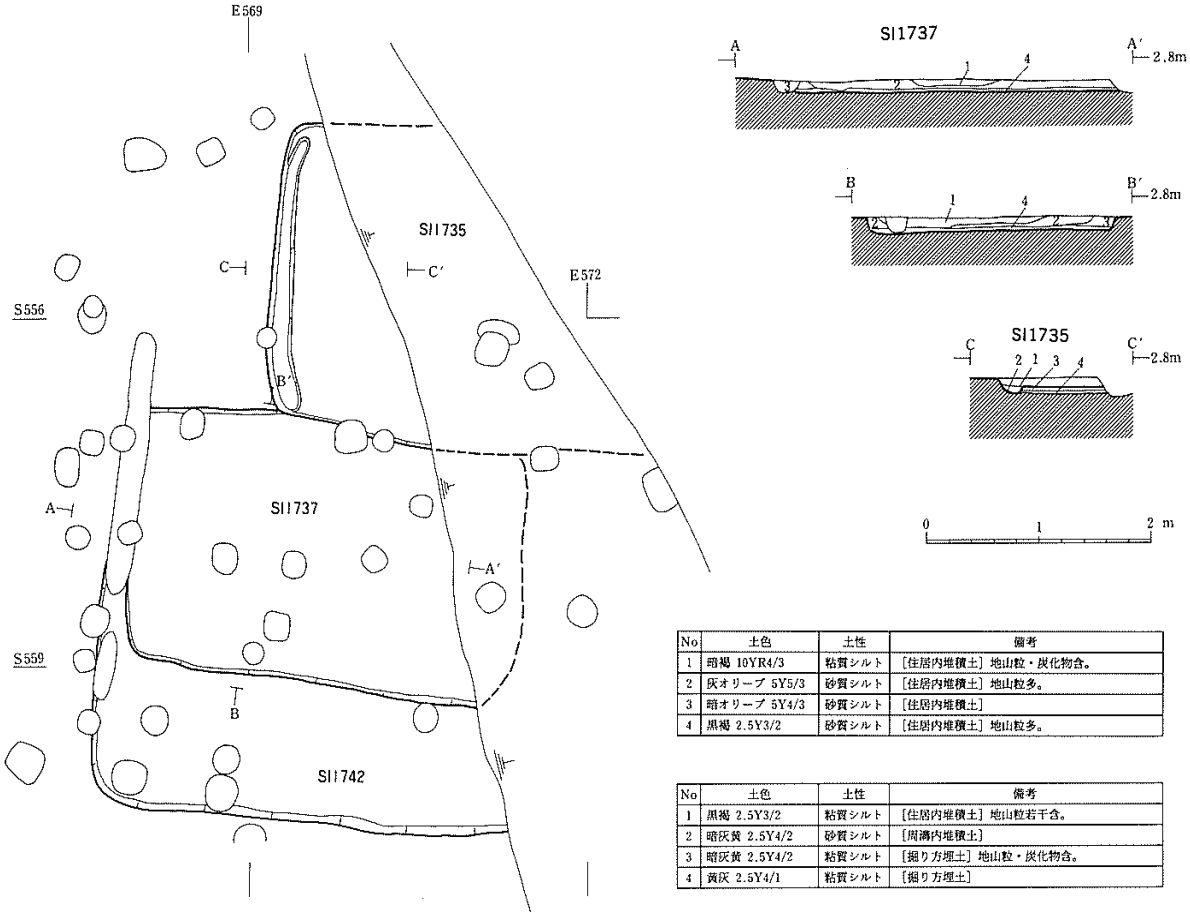
その他の施設は検出されなかった。

住居内堆積土は 1 層で、自然堆積とみられる。

遺物は出土していない。

【ＳＩ1737 竪穴住居跡】（第204･225図）

調査区南東に位置し、地山面で検出した。ＳＩ1735･1742 竪穴住居跡と重複し、ＳＩ1735 より古く、ＳＩ1742 より新しい。



No	土色	土性	備考
1	暗褐 10YR4/3	粘質シルト	［住居内堆積土］地山粒・炭化物含。
2	灰オリーブ 5Y5/3	砂質シルト	［住居内堆積土］地山粒多。
3	暗オリーブ 5Y4/3	砂質シルト	［住居内堆積土］
4	黒褐 2.5Y3/2	砂質シルト	［住居内堆積土］地山粒多。

No	土色	土性	備考
1	黒褐 2.5Y3/2	粘質シルト	［住居内堆積土］地山粒若干含。
2	暗灰黄 2.5Y4/2	砂質シルト	［周溝内堆積土］
3	暗灰黄 2.5Y4/2	粘質シルト	［掘り方埋土］地山粒・炭化物含。
4	黄灰 2.5Y4/1	粘質シルト	［掘り方埋土］

第204図　SI1735・1737・1742住居跡

平面形は南辺約 3.2m・西辺約 2.2mの隅丸長方形を呈し、方向は南辺で東で約 9 度南に偏している。壁は南壁で約 14cm 残存し、床は地山を床面としている。

その他の施設は検出されなかった。

住居内堆積土は 4 層に細分され、いずれも自然堆積とみられる。

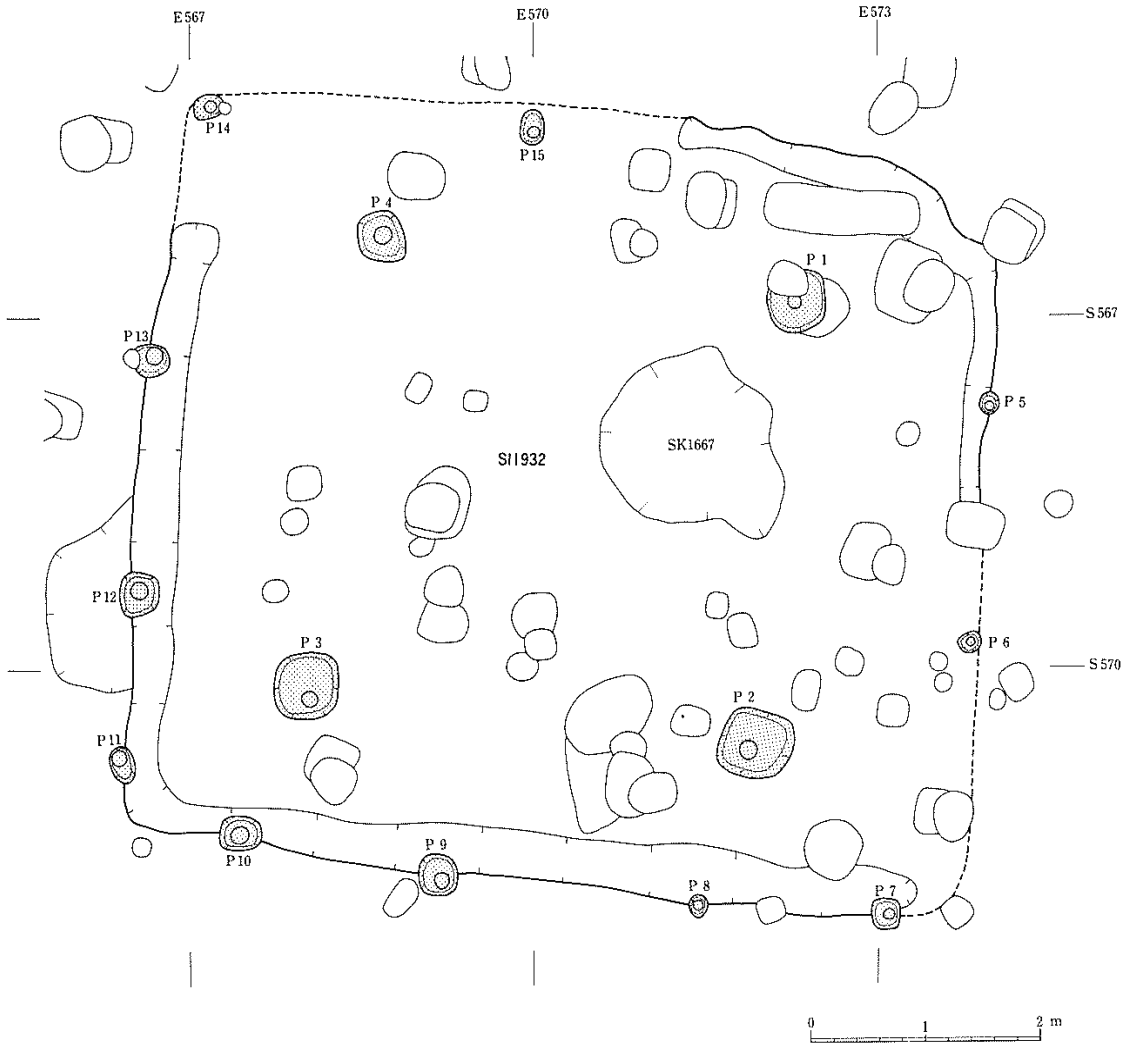
遺物は出土していない。

【ＳＩ1932 竪穴住居跡】（第205･225図）

調査区南東に位置し、地山面で検出した。ＳＢ1864 掘立柱建物跡、ＳＩ1492 竪穴住居跡と重複し、ＳＢ1864 より古く、ＳＩ1492 より新しい。床面はすべて削平されており、残存する周溝と掘り方埋土によって、平面形を確認した。

平面形は南辺約 7.2m・東辺約 6.6mの隅丸方形を呈し、方向は東辺で東で約 11 度南に偏している。掘り方埋土は南辺周辺にのみ残存する。

柱穴は主柱穴 4 ヶ所（Ｐ1～4)、壁柱穴 11 ヶ所（Ｐ5～15）を検出した。主柱穴は住居跡平面形の対角



第205図　SI1932住居跡

線上で検出した。一辺 40～53cm の方形で、深さは南東側の柱穴で約 54cm である。柱痕跡はすべての柱穴で確認しており、径 12～16cm の円形で、柱間隔は東西約 3.7m・南北約 3.9mである。壁柱穴は一辺 17～38cm の方形で、北辺で 1 個、東辺で 2 個、南・西辺で各 4 個を検出した。柱痕跡はすべての柱穴で確認しており、径 7～15cm の円形で、柱間隔は南辺で西から 3.5m・4.3m・3.3m、西辺で北から 4.6m・3.8m・2.8mである。周溝は西・南辺と北東隅で認められた。上端幅は 17～41cm で、下端幅や深さについては掘り上げを行っておらず不明である。

カマドは確認できなかった。

遺物は出土していない。

(3)井戸跡

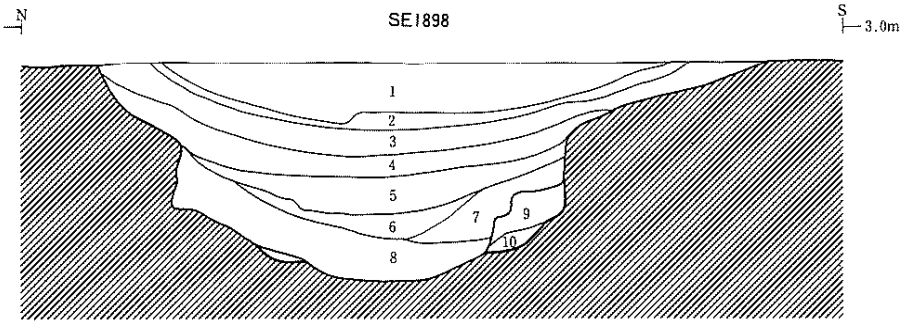
4 基検出した。これらはすべて井戸枠が認められず、構造の詳細は不明である。

【ＳＥ3207 井戸跡】（第206・219 図）

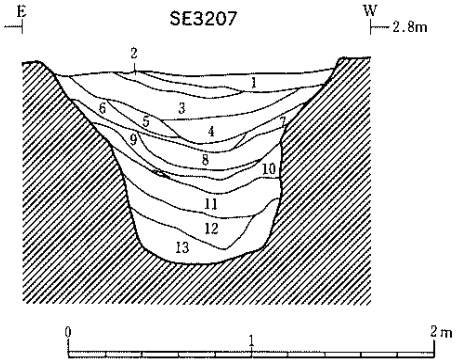
調査区中央のやや北西寄りに位置し、地山面で検出した。重複は認められない。

素掘りもしくは井戸枠を抜き取られた井戸と考えられる。平面形は径 1.6～1.7mの不整円形で、深さ約 1.1mである。

堆積土は 13 層に細分され、いずれも自然堆積である。



No	土色	土性	備考	No	土色	土性	備考
1	黒褐 10YR3/1	シルト	［抜取り穴堆積土］	6	灰 7.5Y4/1	粘土	［抜取り穴堆積土］炭化物若干含。
2	黒 N2/0	粘土	［抜取り穴堆積土］炭化物多。	7	灰 7.5Y4/1	砂質シルト	［抜取り穴堆積土］
3	灰 5Y4/1	シルト	［抜取り穴堆積土］	8	灰 7.5Y4/1	粘質シルト	［抜取り穴堆積土］地山砂ブロック若干含。
4	黄灰 2.5Y4/1	シルト	［抜取り穴堆積土］地山砂含。	9	灰 10Y4/1	粘質シルト	［掘り方埋土］地山砂ブロック多。
5	黄灰 2.5Y4/1	砂質シルト	［抜取り穴堆積土］地山砂ブロック若干含。	10	灰 7.5Y4/1	粘質シルト	［掘り方埋土］粗砂多。



No	土色	土性	備考
1	褐灰 10YR4/1	シルト	灰白粒・炭化物含。
2	黒 2.5Y2/1	シルト	炭化物多。
3	黒褐 10YR3/1	シルト	灰白粒・炭化物含。
4	黒 10YR2/1	シルト	炭化物・灰白粒含。
5	黒褐 2.5Y3/1	砂質シルト	砂多。
6	黒褐 10YR3/1	粘質シルト	
7	黒褐 2.5Y3/1	砂質シルト	地山砂ブロック・炭化物含。
8	黒 10YR2/1	粘質シルト	砂が互層をなす。炭化物・木片含。
9	黒褐 2.5Y3/1	砂質シルト	砂多。
10	黒褐 10YR3/1	粘質シルト	地山砂ブロック・木片含。
11	黒 2.5Y2/1	粘質シルト	
12	黒 10Y2/1	砂質シルト	砂多。
13	オリーブ黒 10Y3/1	砂質シルト	砂が互層をなす（ラミナ）。

第206図　SE3207・1898井戸跡断面図

遺物は堆積土からロクロ調整の土師器および須恵器、赤焼土器などが出土している。これらは赤焼土器が主体で小皿なども出土しており、土師器、須恵器はすべて小破片である。

【ＳＥ1898 井戸跡】（第206･220 図）

調査区中央のやや北寄りに位置し、地出面で検出した。ＳＩ1562 竪穴住居跡と重複し、それよりも新しい。中央部は南北にはしる撹乱溝で壊されている。

掘り方を掘り、井戸枠を据えた井戸跡と考えられるが、井戸枠はすべて抜き取られており、掘り方も底面付近のごく一部のみが残存する。

掘り方は平面形は不明､深さは約 1.1ｍで､掘り方埋土には地山の砂や粘土フロックが混入する灰色土が詰め込まれている。

抜取り穴堆積土は８層に細分され、いずれも自然堆積である。

遺物は出土していない。

【ＳＥ1739 井戸跡】（第207･223 図）

調査区中央のやや南東寄りに位置し、地山面で検出した。ほぼ同位置で一度掘り直されている（ＳＥ1739Ａ→Ｂ）。ＳＢ1616・1617 掘立柱建物跡やＳＩ1738 竪穴住居跡と重複しそれらより古い。

Ａは掘り方を掘り、井戸枠を据えた井戸跡と考えられるが、後続するＢによって壊されており掘り方のみが残存する。掘り方は一辺約 2.9ｍの方形で､深さ約 1.1ｍで、掘り方埋土には地山ブロックが混入する灰色～黒色の砂が詰め込まれており、第21 層上面には径10㎝ 前後の礫が敷かれている。

遺物は出土していない。

ＢはＡを壊し、ほぼ同じ位置につくり替えたものである。掘り方を掘り、井戸枠を据えた井戸跡と考えられるが､掘り方東側で径5㎝前後の打ち込み杭を９本検出した以外はすべて抜き取られている。掘り方は長軸約 3.1ｍ･短軸約 2.6ｍの長方形で深さは約 1.2ｍで､掘り方埋土には地山ブロックが混入する黄灰色～黒色土が詰め込まれている。抜取り穴堆積土は 12 層に細分され、いずれも自然堆積である。

遺物はＢの抜取り穴から非ロクロ調整の土師器および須恵器、瓦などが出土している。土師器のうち、坏には有段丸底坏も含まれる。

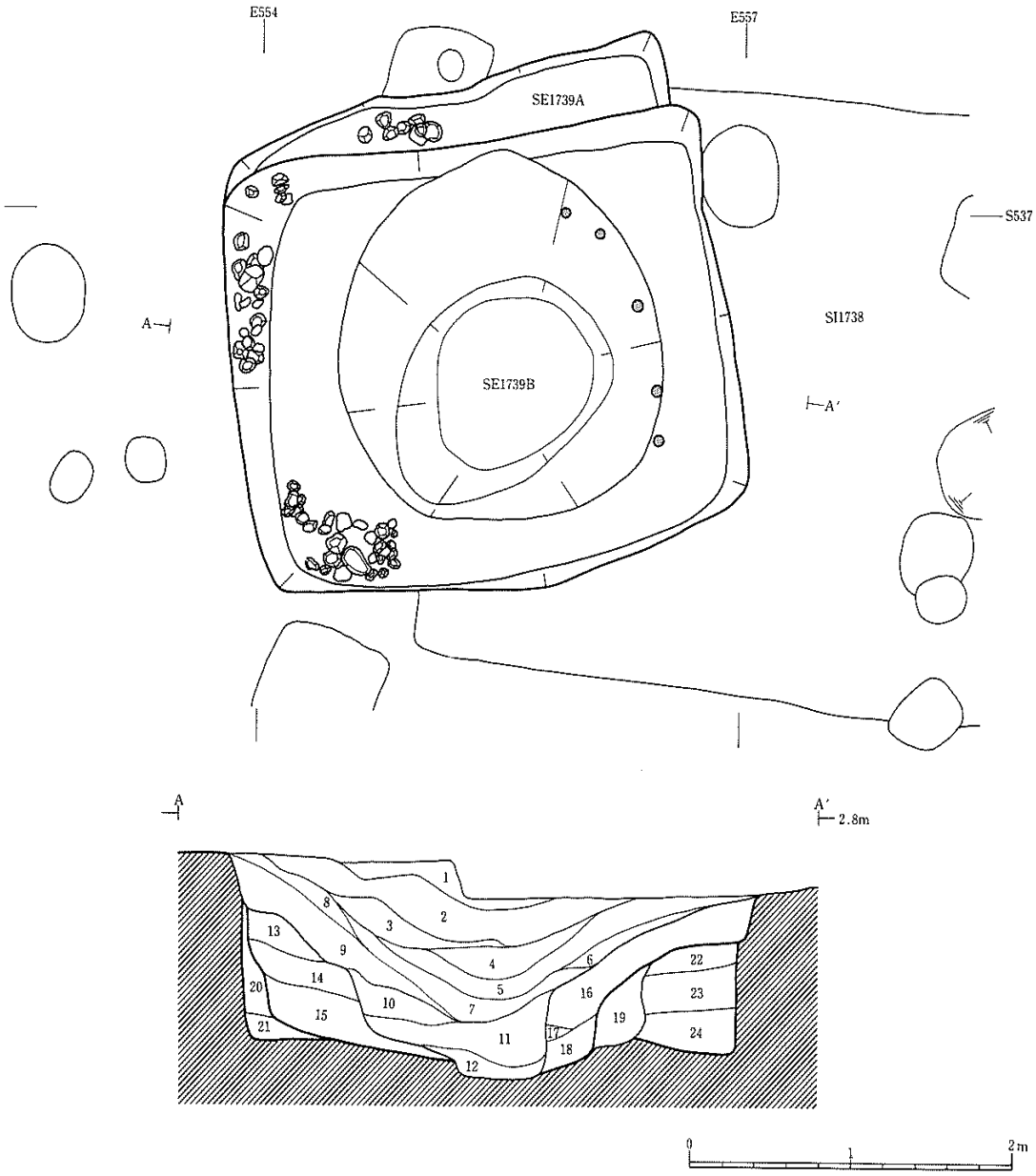
【ＳＥ1606 井戸跡】（第208･226 図）

調査区南東隅に位置し、地山面で検出した。ＳＦ3627 小溝状遺構群と重複し、それより新しい。

掘り方埋土や井戸枠はほとんど残存しないものの、底面が水脈である粗砂層に達しているにもかかわらず、最下部の壁が崩落したり、侵食を受けずに直立気味に立ち上がっていることから、井戸枠はすべて抜取られたものと考えられる。

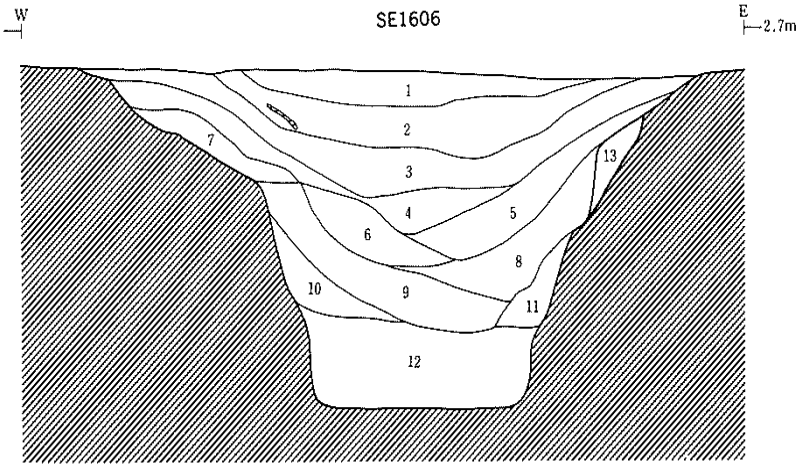
堆積土は井戸機能時の堆積土（12 層）と井戸枠抜取り後の自然堆積土（1～11 層）に分けられる。

遺物は主に井戸機能時の堆積土からロクロ調整の土師器および須恵器、赤焼土器、灰釉陶器、瓦、桧扇、斎串などが出土している。井戸機能時の堆積土出土の土師器や須恵器の坏は回転糸切り無調整が主体で、赤焼土器坏は口径 12.5㎝ 前後のものが多い。土師器坏には｢西曹司｣などの墨書土器も含まれる。

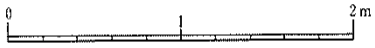


No	土色	土性	備考		No	土色	土性	備考	
1	暗灰黄 2.5Y4/2	砂質シルト	SE1739B	[抜取り穴堆積土]	13	黒 5Y2/1	砂質シルト	SE1739B	[掘り方埋土] 地山粒多。
2	黒褐 2.5Y3/2	粘質シルト		[抜取り穴堆積土] 炭化物非常に多。	14	黒 5Y2/1	砂質シルト		[掘り方埋土] 地山ブロック多。
3	暗灰黄 2.5Y4/2	砂質シルト		[抜取り穴堆積土]	15	黄灰 2.5Y5/1	砂質シルト		[掘り方埋土] 地山ブロック多。
4	オリーブ黒 5Y3/1	砂質シルト		[抜取り穴堆積土] 炭化物・木片含。	16	オリーブ黒 5Y3/1	砂質シルト		[掘り方埋土] 地山ブロック多。
5	黒褐 2.5Y3/1	粘質シルト		[抜取り穴堆積土] 地山ブロック含。	17	灰 5Y4/1	砂質シルト		[掘り方埋土] 地山粒多。
6	灰黄褐 10YR4/2	砂質シルト		[抜取り穴堆積土] 地山粒多。	18	オリーブ黒 10Y3/1	砂質シルト		[掘り方埋土]
7	オリーブ黒 5Y3/1	砂質シルト		[抜取り穴堆積土] 地山ブロック多。	19	灰 7.5Y5/1	砂質シルト	SE1739A	[抜取り穴堆積土] 地山ブロック多。
8	灰黄褐 10YR4/2	砂質シルト		[抜取り穴堆積土] 地山粒多。	20	オリーブ黒 10Y3/1	シルト		[掘り方埋土] 地山ブロック多。
9	オリーブ黒 5Y3/1	砂質シルト		[抜取り穴堆積土] 地山ブロック多。	21	灰 10Y4/1	砂		[掘り方埋土] 地山土・炭化物・礫含。
10	オリーブ黒 5Y3/1	砂質シルト		[抜取り穴堆積土] 地山ブロック多。	22	灰 7.5Y4/1	砂質シルト		[掘り方埋土] 粗砂多。
11	灰 5Y4/1	砂質シルト		[抜取り穴堆積土] 地山ブロック多。	23	灰 7.5Y4/1	砂質シルト		[掘り方埋土]
12	灰 7.5Y4/1	砂質シルト		[抜取り穴堆積土]	24	灰 7.5Y4/1	砂質シルト		[掘り方埋土] 地山ブロック(大)・粗砂多。

第207図　SE1739井戸跡



No	土色	土性	備考	No	土色	土性	備考
1	黒褐 10YR2/3	砂質シルト	［抜取り穴堆積土］	8	黒褐 2.5Y3/1	砂質シルト	［抜取り穴堆積土］炭化物若干含。
2	黒 10YR2/1	シルト	［抜取り穴堆積土］	9	黒 2.5Y2/1	砂質シルト	［抜取り穴堆積土］炭化物多。
3	黒 2.5Y2/1	粘質シルト	［抜取り穴堆積土］	10	黒 2.5Y2/1	砂質シルト	［抜取り穴堆積土］地山ブロック若干含。
4	黒褐 2.5Y3/1	砂質シルト	［抜取り穴堆積土］	11	オリーブ黒 5Y3/1	砂質シルト	［抜取り穴堆積土］地山ブロック若干含。
5	オリーブ黒 5Y3/1	粘質シルト	［抜取り穴堆積土］地山ブロック・炭化物含。	12	オリーブ黒 5Y3/1	砂	［抜取り穴堆積土］粗砂層。
6	オリーブ黒 5Y3/1	砂質シルト	［抜取り穴堆積土］炭化物多。	13	オリーブ黒 5Y2/2	粘土	［掘り方埋土］地山ブロック多。
7	オリーブ黒 5Y3/1	粘質シルト	［抜取り穴堆積土］地山ブロック・炭化物含。				



第208図　SE1606井戸跡

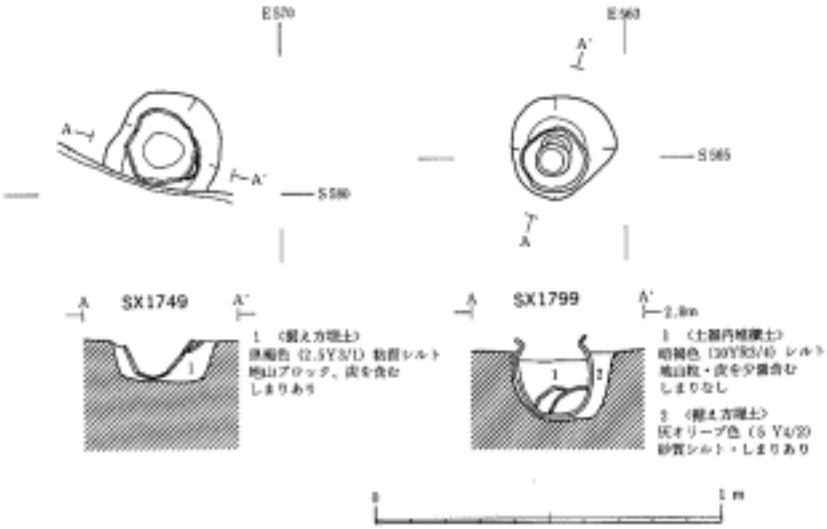
(4)土器埋設遺構

【ＳＸ1799 土器埋設遺構】

（第209･225 図）

調査区の南東部に位置し、地山面で検出した土器の埋設遺構である。ＳＤ1648 溝跡と重複し、それよりも新しい。

据え方は径 30cm 前後、深さ約 21cm の断面形が逆台形状をなす円形の小土壙で、ロクロ調整の土師器甕 1 個を正位に埋設している。甕の中には赤焼土器坏が 2 個、伏せた状態で置かれていた。埋土は少量の炭化物と地山ブロックが混入する灰オリーブ色砂質土である。



第209図　SX1749・1799土器埋設遺構

【ＳＸ1749 土器埋設遺構】（第209･225 図）

調査区の南東部に位置し、地山面で検出した土器の埋設遺構である。ＳＡ1609 塀跡の抜取り穴と重複しているが、残存状況が悪く新旧関係は不明である。据え方は径 35cm 前後、深さ約 12cm 断面形が逆台形状をなす円形の小土壙で、ロクロ調整の土師器甕 1 個を正位に埋設しているがその上半分は削平

によって失われている。埋土は少量の炭化物と地山ブロックが混入する黒褐色土である。

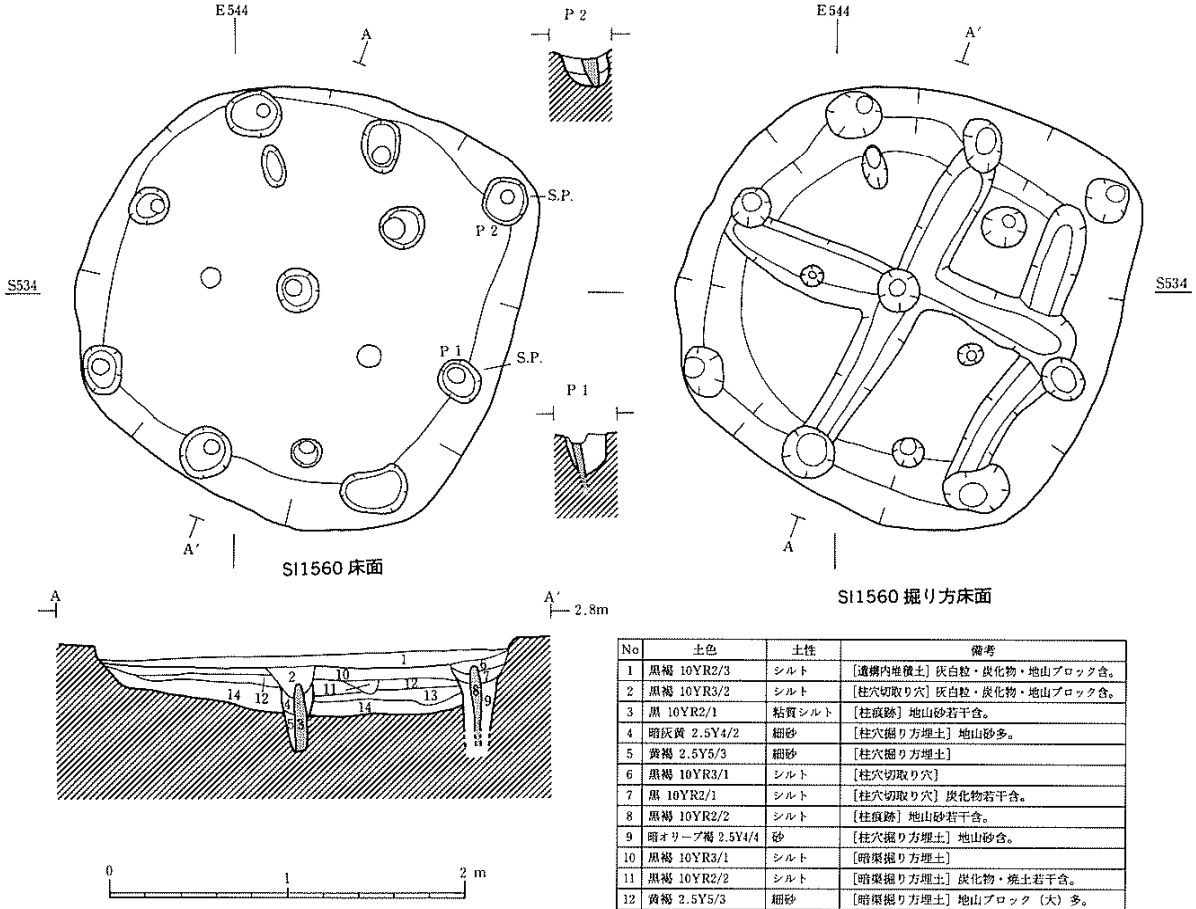
(5)竪穴遺構

【ＳＩ1560竪穴遺構】(第210･222図)

調査区中央のやや南東寄りに位置し、14個の柱穴と暗渠をともなう竪穴遺構である。地山面で検出し、重複は認められない。

平面形は一辺約2.4mの隅丸方形を呈する。壁は急に立ち上がり、北壁で約18cm残存する。床は掘り方埋土を床面としており、床面の深さは東側のＳＩ1615竪穴住居跡と比較すると20cm以上深くなっている。

柱穴は床面中央の柱穴を中心に四隅と各辺のほぼ中央の壁際で8個、さらに南北方向の中央柱列をはさんで東側に3個、西側に2個の計14個を検出した。本来は西側にも3個の柱穴が並んでいたと思われるが南側の1個は確認できなかった。柱はすべて中央に向かって傾斜しており、床面中央の柱でそれらを支持していたものと考えられる。規模は径21～32cmの円形で深さ21～49cm、柱痕跡は12ヶ



No	土色	土性	備考
1	黒褐 10YR2/3	シルト	[遺構内堆積土] 灰白粒・炭化物・地山ブロック含。
2	黒褐 10YR3/2	シルト	[柱穴切取り穴] 灰白粒・炭化物・地山ブロック含。
3	黒 10YR2/1	粘質シルト	[柱痕跡] 地山砂若干含。
4	暗灰黄 2.5Y4/2	細砂	[柱穴掘り方埋土] 地山砂多。
5	黄褐 2.5Y5/3	細砂	[柱穴掘り方埋土]
6	黒褐 10YR3/1	シルト	[柱穴切取り穴]
7	黒 10YR2/1	シルト	[柱穴切取り穴] 炭化物若干含。
8	黒褐 10YR2/2	シルト	[柱痕跡] 地山砂若干含。
9	暗オリーブ褐 2.5Y4/4	砂	[柱穴掘り方埋土] 地山砂含。
10	黒褐 10YR3/1	シルト	[暗渠掘り方埋土]
11	黒褐 10YR2/2	シルト	[暗渠掘り方埋土] 炭化物・焼土若干含。
12	黄褐 2.5Y5/3	細砂	[暗渠掘り方埋土] 地山ブロック (大) 多。
13	黒褐 10YR2/2	シルト	[暗渠掘り方埋土] 地山ブロック多。
14	黒褐 2.5Y3/1	シルト	[暗渠掘り方埋土] 地山ブロック多。

第210図　SI1560竪穴遺構

所で確認しており、6～12cm の円形で上部の重みのためか概して掘り方埋土よりも深く沈み込んでいる。また2ヶ所で灰白色火山灰粒が混入する切取り穴を確認している。柱間隔は中央柱列で、南北が北より 0.93m･1.04m、東西が西より 0.94m･1.06mである。方向は南北の中央柱列でみると、北で約28度東に偏している。

暗渠は掘り方底面で南北に2条、東西に1条検出した。掘り方とともに埋め戻されており、規模は長さ 1.8～2.0m、上端幅 20～32cm、下端幅 8～20cm で、深さが 5cm 前後である。

遺構内堆積土は1層で、自然堆積とみられる。

遺物は遺構内堆積土から土師器、瓦などが少量出土している。

(6) 土壙

35 基以上の土壙を検出したが、これらのうち4基について説明する。

【ＳＫ1889 土壙】（第211･220 図）

調査区北西に位置し、地山面で検出した。ＳＢ1880 掘立柱建物跡と重複し、それより新しい。西側半分は撹乱の溝によって壊されている。

平面形は径 1.8m前後の円形で、深さは 96cm である。壁はやや緩やかに立ち上がり、断面形は摺鉢状を呈する。

堆積土は5層に細分され、いずれも自然堆積である。

遺物は堆積土からロクロ調整の土師器、須恵器、赤焼土器などが出土している。

【ＳＫ1648 土壙】（第225 図）

調査区南東に位置し、地山面で検出した。ＳＢ1864 掘立柱建物跡やＳＸ1799 土器埋設遺構と重複し、それらよりも古い。

平面形は長辺約5.7m、短辺約2.5mの隅丸長方形で、深さは11～18cmである。断面形は皿状を呈する。

堆積土は1層で、地山ブロックが混入する暗灰黄色の砂質土で人為的埋土と考えられる。

遺物は堆積土からロクロ調整の土師器および須恵器、瓦などが出土している。須恵器のうち坏の底部調整はヘラ切り無調整が主体である。

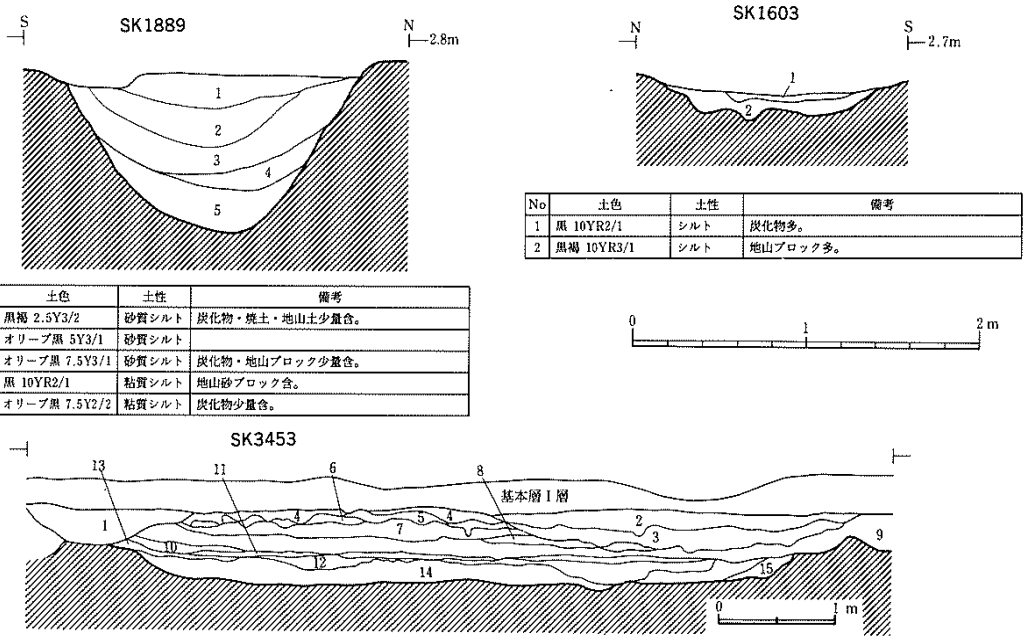
【ＳＫ1603 土壙】（第211･226 図）

調査区南東に位置し、地山面で検出した。ＳＢ1690 掘立柱建物跡と重複するが、新旧関係は不明である。

平面形は長径 1.0～1.2mの円形で、深さは 31cm である。壁は緩やかに立ち上がり、底面にはやや凹凸がある。断面形は皿状を呈する。

堆積土は2層に細分され、いずれも人為的埋土とみられる。

遺物は堆積土からロクロ調整の土師器および須恵器、瓦などが出土している。須恵器のうち坏の底部調整はヘラ切り無調整のものが比較的多い。



No	土色	土性	備考
1	黒褐 2.5Y3/2	砂質シルト	炭化物・焼土・地山土少量含。
2	オリーブ黒 5Y3/1	砂質シルト	
3	オリーブ黒 7.5Y3/1	砂質シルト	炭化物・地山ブロック少量含。
4	黒 10YR2/1	粘質シルト	地山砂ブロック含。
5	オリーブ黒 7.5Y2/2	粘質シルト	炭化物少量含。

No	土色	土性	備考
1	黒 10YR2/1	シルト	炭化物多。
2	黒褐 10YR3/1	シルト	地山ブロック多。

No	土色	土性	備考	
1	オリーブ黒 5Y3/1	粘質シルト	SD1718	
2	黒褐 2.5Y3/1	シルト	SK3453	炭化物少量含。
3	黒 10YR2/1	シルト		炭化物・焼土多。
4	黒 2.5Y2/1	シルト		炭化物少量含。
5	黒褐 2.5Y3/1	シルト		
6	黄灰 2.5Y4/1	シルト		
7	暗オリーブ褐 2.5Y3/3	シルト		炭化物少量含。
8	暗灰黄 2.5Y4/2	シルト		

No	土色	土性	備考	
9	黒褐 2.5Y3/2	シルト	SK3453	炭化物少量含。
10	黒褐 10YR3/2	シルト		
11	暗灰黄 2.5Y4/2	シルト		炭化物少量含。
12	黒褐 2.5Y3/2	シルト		灰白ブロック多。
13	黒褐 10YR3/2	シルト		
14	黒褐 2.5Y3/1	シルト		炭化物少量含。
15	黄灰 2.5Y4/1	シルト		炭化物・地山粒含。

第211図　南２西１区土壙断面図

【ＳＫ3453 土壙】（第211･227 図）

調査区南端やや東寄り、ＳＸ1900 北側溝のすぐ北側に位置し、地山面で検出した。東側の一部が今回の調査区にかかったもので溝跡の可能性も考えられるがここでは土壙として述べることとする。ＳＦ3627 小溝状遺構群、ＳＤ1718 溝跡と重複し、ＳＦ3627 より新しく、ＳＤ1718 よりも古い。

平面形・規模等の詳細は不明であるが径 6m以上、深さ 25cm 以上の大土壙である。

堆積土は 14 層に細分され、12 層には灰白色火山灰ブロックが多量に混入し、その上は基本層位Ⅱ・Ⅲｂ層によって覆われている。

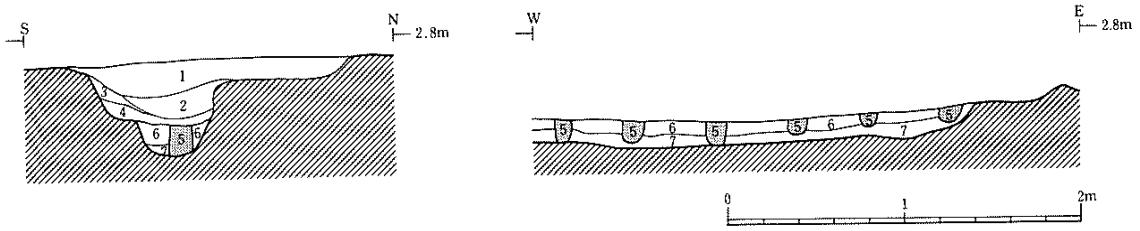
遺物はロクロ調整の土師器および須恵器が少量出土している。

(7)材木塀跡

【ＳＡ1609 材木塀跡】（第212･225 図）

調査区南東に位置し、布掘り状掘り方を持つ東西方向の材木塀跡で、地山面で検出した。ＳＦ3627Ａ小溝状遺構群などと重複し、それより新しい。

掘り方は総長約 7m、上端幅 0.4～0.7m、底面幅 0.3～0.6m、深さは 32cm で、断面形は「Ｕ」字状を呈する。柱痕跡は径 12cm 前後の円形で、柱間隔は 28～36cm、方向は東で約 3 度南に偏している。



No	土色	土性	備考	No	土色	土性	備考
1	黒褐 10YR2/2	シルト	［抜取り溝堆積土］炭化物・焼土・遺物多。	5	黒褐 2.5Y3/1	粘土	［柱痕跡］地山ブロック・炭化物若干含。
2	暗褐 10YR3/3	シルト	［抜取り溝堆積土］炭化物若干含。	6	暗灰黄 2.5Y4/2	粘質シルト	［掘り方埋土］地山ブロック多。
3	暗褐 10YR3/2	シルト	［抜取り溝堆積土］地山ブロック・炭化物若干含。	7	にぶい黄褐 10YR4/3	粘質シルト	［掘り方埋土］地山ブロック多。
4	黒褐 10YR3/1	粘質シルト	［抜取り溝堆積土］地山ブロック多。				

第212図　SA1609材木塀跡断面図

切取り溝堆積土は4層に細分され、いずれも人為的埋土とみられる。

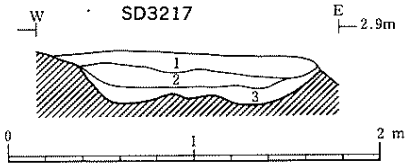
遺物は主に切取り溝堆積土1層からロクロ調整の土師器、須恵器、灰釉陶器、瓦などが出土している。なかでも須恵器が多く、坏の底部調整は手持ちヘラケズリとヘラ切り無調整が比較的多い。

(8)溝跡

【ＳＤ3217溝跡】（第213･221図）

調査区ほぼ中央に位置し南北方向に延びる溝跡で、地山面で検出した。ＳＢ3216掘立柱建物跡と重複し、それより古い。

検出長は約8.5ｍで、上端幅1.5～2.1ｍ、底面幅0.8～1.2ｍである。深さは25～39cmで、断面形は「Ｕ」字状を呈し、底面にはやや凹凸がある。方向は北で約1度東に偏している。



No	土色	土性	備考
1	暗褐 10YR3/4	シルト	炭化物多。
2	灰黄褐 10YR4/2	シルト	
3	オリーブ褐 2.5Y4/3	シルト	地山ブロック含。

第213図　SD3217溝跡断面図

堆積土は3層に細分され、人為的埋土と考えられる。

遺物は堆積土中からロクロ調整の土師器および須恵器、赤焼土器、緑釉陶器、瓦が出土している。その中でも土師器が多く、赤焼土器は極少量である。坏類の底部調整をみると回転糸切り無調整が多い。

【ＳＤ1618溝跡】（第221･222･223図）

調査区中央のやや南側に位置し東西方向に延びる溝跡で、地山面で検出した。ＳＩ3435竪穴住居跡、ＳＤ1602河川跡、ＳＤ1775溝跡と重複し、それらより新しい。

検出長は約47ｍで、上端幅0.2～0.6ｍ、底面幅0.1～0.4ｍである。傾斜はほとんどなく深さは4～17cmで、断面形はＵ字状を呈する。方向は東で約12度南に偏している。

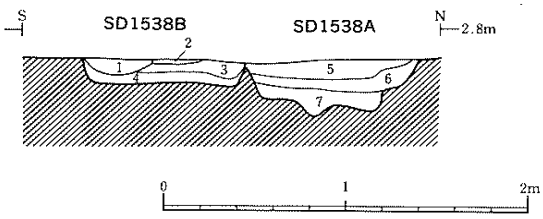
堆積土は1層で基本層位Ⅱｂ層起源の黒色土である。

遺物は堆積土中からロクロ調整の土師器、須恵器、灰釉陶器が出土している。

【ＳＤ1538 溝跡】（第215･222 図）

調査区中央に位置し北東～南西方向に延びる溝跡である。重複するＳＸ3461 以南への延びは認められない。地山面で検出し、Ａ→Ｂの 2 時期の変遷を確認している。ＳＸ3461 道路跡、ＳＢ1536 掘立柱建物跡、ＳＤ1602河川跡、ＳＤ1539溝跡と重複し、ＳＤ1602より新しく、ＳＸ3461、ＳＢ1536、ＳＤ1539 より古い。

Ａは検出長約 14.0ｍで、上端幅約 1.0ｍ、底面幅約 0.6ｍである。深さは 33cm で、断面形は「Ｕ」字状を呈し、底面には凹凸がある。方向は北で約19 度東に偏している。



No	土色	土性	備考	
1	黒褐 10YR3/2	砂質シルト	SD1538B	灰白粒若干含。炭化物含。
2	黒褐 2.5Y3/1	砂質シルト		
3	黒褐 2.5Y3/2	シルト		地山ブロック含。
4	黒褐 10YR3/1	シルト		地山砂ブロック含。
5	黒褐 10YR2/2	砂質シルト	SD1538A	
6	黒褐 2.5Y3/2	シルト		地山砂・粘土ブロック含。
7	黒褐 2.5Y3/1	粘質シルト		地山ブロック（大）多。

第214図　SD1538溝跡断面図

堆積土は 3 層に細分され、いずれも人為的埋土とみられる。

Ｂは検出長約 14.5ｍで、上端幅 0.7～1.0ｍ、底面幅約 0.7ｍである。深さは約 14cm で、断面形は逆台形状を呈する。方向は北で約19度東に偏している。

堆積土は 3 層に細分され、いずれも人為的埋土とみられる。

遺物はＡ・Ｂの堆積土中から非ロクロ調整とロクロ調整の土師器および須恵器、瓦が少量ずつ出土している。土師器のうち坏についてはすべてロクロ調整である。

【ＳＤ1539 溝跡】（第222 図）

調査区中央に位置し北東方向にやや湾曲しながら延びる溝跡で、地山面で検出した。ＳＢ1536 掘立柱建物跡、ＳＤ1538 溝跡と重複し、ＳＤ1538 より新しく、ＳＢ1536 より古い。

検出長は約 15ｍで、上端幅 0.8～1.2ｍ、底面幅 0.4～0.5ｍである。深さは 10～23cm で、断面形は浅い「Ｕ」字状を呈する。方向は北で約46 度東に偏している。

遺物は堆積土中からロクロ調整の土師器、須恵器が数片出土しているのみである。

【ＳＤ3402 溝跡】（第222 図）

調査区中央やや南側に位置し南北方向に延びる溝跡で、地山面で検出した。ＳＸ3461 道路跡と重複し、それより新しい。

検出長は約 13ｍで、上端幅 0.5ｍ、底面幅 0.3ｍである。深さは 13cm で、断面形は浅い「Ｕ」字状を呈する。方向は北で約 4 度東に偏している。

堆積土は 1 層で、黒褐色砂質土の自然堆積とみられる。

遺物は堆積土中からロクロ調整の土師器、須恵器、赤焼土器が数片出土しているのみである。

(9) 小溝状遺構群

小溝状遺構群は調査区の北西部で 2 面、中央南寄りで 1 面、南東部で 1 面検出したが、残存状況が悪く、面的な広がりを確認できなかったものが多い。

【ＳＦ3229 小溝状遺構群】（第219図）

調査区北西に位置し、地山面で検出した。南北に平行して延びる小溝群である。ＳＫ3214 土壙などと重複し、それより新しい。

溝は 0.5～0.9m間隔で 5 条（ａ～ｅ）確認しており、検出長は最長約 6ｍで、上端幅 0.2～0.4m、底面幅は 0.1～0.3mである。深さは 2～8cm で断面形は浅い「Ｕ」字状を呈する。方向は北で約20度東に偏している。

堆積土は 1 層で、黒褐色土からなる。

遺物は出土していない。

【ＳＦ3201 小溝状遺構群】（第220図）

調査区ほぼ中央に位置し、地山面で検出した。南北に平行して延びる小溝群である。ＳＢ3212･3215･3216 掘立柱建物跡やＳＩ3213 竪穴住居跡と重複し、ＳＢ3212・3215・3216 よりも古く、ＳＩ3213 より新しい。

溝は 0.5～0.9m間隔で 7 条（ａ～ｇ）確認しており、検出長は最長約 6ｍで、上端幅 0.3～0.5m、底面幅は 0.1～0.3mである。深さは 5cm 前後で、断面形は浅い「Ｕ」字状を呈する。方向は北で約20度東に偏している。

堆積土は 1 層で、黒褐色土からなる。

遺物は出土していない。

【ＳＦ1625 小溝状遺構群】（第222･223 図）

調査区中央のやや南寄りに位置し、地山やＳＤ1602 上面で検出した。南北に平行して延びる小溝群である。ＳＸ3461 道路跡やＳＤ1602 河川跡と重複し、これより新しい。

溝は 0.2～1.2m間隔で 13 条（ａ～ｍ）確認しており、検出長は最長約 5ｍで、上端幅 0.2～0.7m、底面幅は 0.1～0.5mである。深さは 2～18cm で断面形は浅い「Ｕ」字状を呈する。方向は真北方向から、東に15度程度偏するものまで若干のばらつきがある。

堆積土は 1 層で、黒褐色土からなる。

遺物は堆積土中からロクロ調整の土師器、須恵器、土製円盤などが少量出土している。

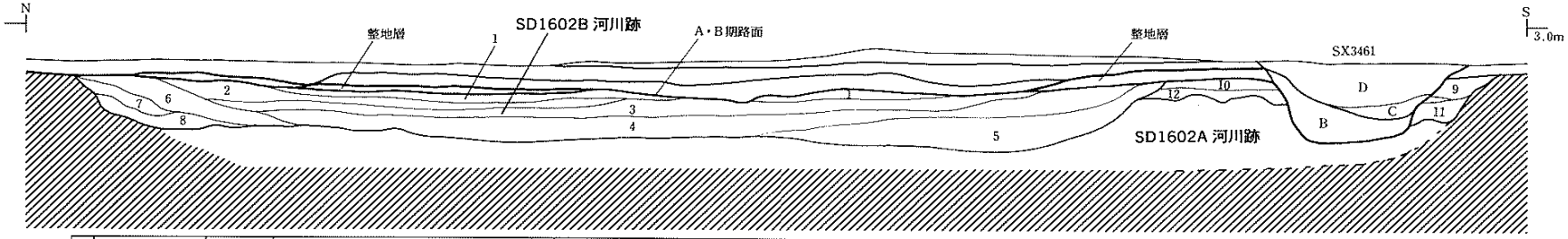
【ＳＦ3627 小溝状遺構群】（第225図）

調査区南東に位置し、地山面で検出した。東西・南北に平行して延びる小溝群である。方向によってＡ（南北）→Ｂ（東西）の変遷を確認している。ＳＢ1690･1691･3442･3446 掘立柱建物跡やＳＡ1609 塀跡、ＳＥ1606 井戸跡、ＳＤ1718 溝跡などと重複し、これらより古い。遺構はさらに南に延びており、詳細については南 3 西 1 区において後述する。

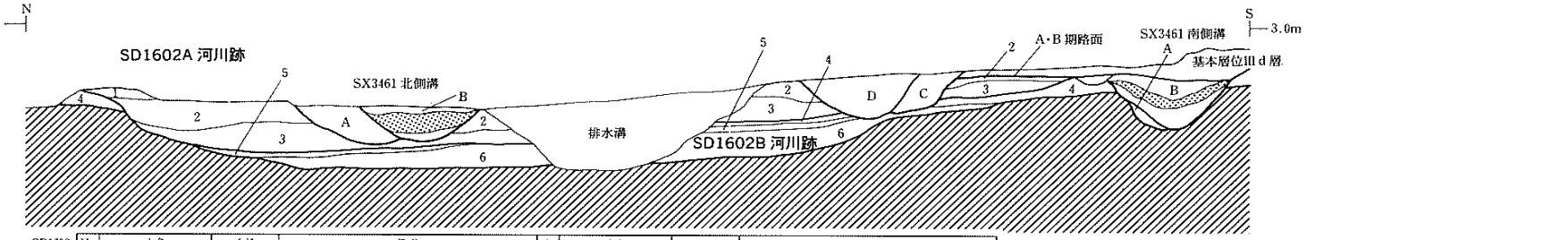
(10) 水田跡

【ＳＦ3700Ｂ水田跡】（第224図）

ＳＤ1602 河川跡の南側に位置し、基本層位Ⅲｅ層上面で検出した水田跡である。ＳＸ1900 南 2 道路を挟んで、さらに南側に延びている。ＳＢ3440・3442・3445 掘立柱建物跡と重複し、これらよりも古い。



SD1602	No	土色	土性		備考	No	土色	土性		備考
	1	黒褐 10YR3/1	粘質シルト	SD1602B	灰白粒・炭化物含。	7	暗褐 10YR3/3	砂	SD1602B	細砂層。地山ブロック多。
	2	黒 7.5YR2/1	粘質シルト		炭化物含。	8	暗オリーブ褐 2.5Y3/3	砂		細砂層。地山ブロック多。
	3	黒 7.5YR1.7/1	粘質シルト			9	黒褐 2.5Y3/1	シルト	SD1602A	
	4	黒 10YR2/1	粘質シルト		炭化物含。	10	黒 10YR2/1	粘質シルト		
	5	黒 10YR1.7/1	粘質シルト		地山ブロック（大）多。	11	黒 2.5Y2/1	シルト		地山ブロック含。
	6	黒褐 10YR2/2	シルト		地山ブロック（大）多。	12	黒褐 10YR3/1	シルト		地山ブロック多。



SD1602	No	土色	土性		備考	No	土色	土性		備考
	1	灰黄褐 10YR4/2	砂	SD1602B	粗砂層	4	暗灰黄 2.5Y4/2	砂質シルト	SD1602A	
	2	褐 10YR4/4	砂		中砂～粗砂層（ラミナ）。	5	暗褐 10YR3/3	粘質シルト		細砂～中砂層。流木・植物遺体多。
	3	暗オリーブ灰 2.5GY3/1	砂		細砂～中砂（ラミナ）。	6	オリーブ褐 2.5Y4/3	砂		粗砂層（ラミナ）。

第215図　南２西１区河川跡断面図

耕作土は削平によりごく一部が残存しているにすぎないが、Ⅲｅ層をブロック状にすき込んだ暗灰黄色シルトで層の厚さは8cm前後である。畔跡や区画形態などについては、本調査区においては残りが非常に悪く不明な点が多いため、詳細については比較的残りの良い南3区において後述することとする。

(11)河川跡

【ＳＤ1602河川跡】（第214･221･222･223図）

調査区南側に位置し東西方向に延びる河川跡で、西から東に向かって流れていたと考えられる。地山面で検出し、侵食により河道を一度やや北に移している（Ａ→Ｂ）。ＳＸ3461道路跡、ＳＦ1625小溝状遺構群と重複し、それらより古い。ＳＸ3461はＳＤ1602がほぼ埋まった後上面を盛土による整地をして掘り込まれたものである。

Ａは上端幅9ｍ前後、底面幅約5ｍで、深さは約1.1ｍである。堆積土は暗灰黄色の砂質土や暗褐色の粘質土・暗緑灰色の砂などが堆積し、流木などが混入している。

遺物は調整不明の土師器甕が20片程度出土しているのみである。

Ｂは上端幅8～10ｍ、底面幅4～8ｍで、深さは75cm前後である。堆積土は東側は炭化物を含む黒・黒褐色の粘質土で下層になるほど砂の混じりが多くなり、西側は灰黄褐色や暗オリーブ灰色の砂が堆積しており、砂粒は上層ほど粗くなっている。

遺物は土師器、須恵器、赤焼土器、緑釉陶器、硯、砥石などが出土している。坏類は土師器が特に多く、赤焼土器が極少量である。またこの中には「宇多」「宇多田」「毛」などの墨書土器も含まれている。坏類の底部調整は土師器が手持ちヘラケズリ調整と回転糸切り無調整がともに多く、須恵器坏は回転糸切り無調整、ヘラ切り無調整、手持ちヘラケズリ調整の順に多くみられる。

【ＳＤ2000河川跡】（第40･42図）

調査区の東を流れる砂押川の旧河道とみられる河川跡である。やや蛇行しながら、ＳＸ1850･1950西0道路と並行して北から南へ向かって流れており、今回の調査では間に未調査部分を挟んで長さ約35ｍにわたって検出した。堆積土は水中で堆積と侵食を繰り返して形成されており、河川の侵食および河道の移動に伴う3時期の変遷（Ａ→Ｂ→Ｃ）が捉えられた。また、ＳＤ2000の東側で、存続時の支流とみられる小河川跡（ＳＤ3625）を検出した。

Ａは基本層位Ⅳ層を侵食し、ＳＦ3624小溝状遺構群やＳＦ3700水田跡、ＳＸ1900南2道路よりも古くから存続している。東岸をＢに侵食されているため上幅は明らかではないが、西岸から河底の心までを折り返した長さは約22ｍ程である。河底はほぼ平坦であり、下幅が約6ｍ、検出面からの比高差が約3.5ｍ（最深部の標高約－1ｍ）で、現砂押川の底面（標高約2ｍ）よりもかなり低くなっている。東岸の状況は不明であるが、西岸から垂直に1.5～2ｍ下ったところには河川の侵食によるテラス状の段が形成されており、調査区の南端部ではこの上面でＳＡ3624杭列を検出している。堆積層は層の特徴、遺物の出土状況等によって5層（8～12層）に分層される。河底に接して灰色砂層（12層）が厚く堆積し、その土にオリーブ黒色粘土層と灰色砂層が互層をなして堆積している。砂層は粗砂と細砂

が互層をなしており、ラミナが顕著に認められた。また、9 層の粘土層を挟んだ上下の砂層（8・10層）は、層が上下に大きく乱れており、いわゆる墳砂の存在が知られた(図版14右下)。8 層上部にまではおよんでいないことから、8 層堆積時に噴砂が起こったものと考えられる。なお、前述のとおり、ＳＤ2000Ａの段階では、ＳＸ1900Ａを河川西岸まで検出しているが、これと交差するＳＸ1850･1950Ａは少なくとも西岸において確認することはできなかった。

ＢはＡを侵食して流れる河川跡で、10 世紀前葉頃に降下した灰白色火山灰層（5 層）を挟んだ時期に存続している。調査区内において、河道は全体的に東側に移動しており、上幅が約 25m、下幅が約 18m、検出面からの比高差が約 1.5m（最深部の標高約 1m）で、浅く幅の広い河川となっている。Ｂの埋没過程において、ＳＸ1850･1950 の西側溝が構築されており、路面の中央～東半部を南北に貫いて流れる位置関係にある。堆積層は、層の特徴やＳＸ1850･1950 との変遷によって 4 層（4～7 層）に分層される。いずれも薄くラミナ状に堆積した黒褐色スクモ層と灰オリーブ色砂層の互層が主体をなし、これを侵食して短期間に供給された砂層が堆積するといった繰り返しによって徐々に埋没している。

Ｃは上幅が約 10m、下幅が約 3m 程の河川跡である。Ｂの河底を侵食しているため、検出面からの比高差は約 2m（最深部の標高約 0.5m）でＢよりも深くなっている。方向は同様にＳＸ1850･1950 を貫いて北から南へ流れているが、川幅は狭く蛇行し、徐々に埋没している。堆積層（1～3 層）はオリーブ黒～黒褐色スクモ層と暗オリーブ褐色砂層が薄くラミナ状に互層をなして堆積しており、上層ほど未分解の植物遺体を多く含んでいる。砂層はしまりのない細砂層からなり、水流の少ない比較的緩やかな堆積状況にあったものとみられる。

遺物は、膨大な量の土器をはじめ、木製品や金属製品、土製品、石製品、骨角製品、動植物遺体など多種多様のものが多量に出土している。これらはＡ・Ｂ、とくに道路構築前のＡから多く出土しており、Ｃからはほとんどまとまった遺物の出土は見られない。また、Ａ・Ｂについても、各層から万偏なく出土するのではなく、11ｂ・10ａ・8・4ｂ層などの短期間に堆積したとみられる砂層から、まとまって出土する傾向にある。しかも、土器をはじめ、完形に近い状態で出土する遺物が多い。

最下層の12層からは土師器、須恵器、製塩土器などが出土している。坏では須恵器が圧倒的に多く、坏底部の調整はほとんどのものがヘラ切り無調整である。土師器坏ではロクロ調整のものを主体とし、底部の調整がヘラ削り調整と回転ヘラ削り調整のものが多いが、非ロクロ調整のものも定量出土している。

11ｂ層からは土師器、須恵器、製塩土器、木製品、金属製品、動物遺体などが出土している。最も出土量の多い土器のうち、坏では須恵器が圧倒的に多く、坏底部の調整はほとんどのものがヘラ切り無調整である。土師器はロクロ調整のものが多く、坏底部の調整は手持ちヘラ削り調整と回転糸切り無調整のものが主体をなすが、非ロクロ調整の坏も少量出土している。金属製品には銭貨、鉄鏃、鉄鎌がある。このうち銭貨は隆平永寶（796 年初鋳）で 1 点出土している。

10ａ層からは最も多量に遺物が出土している。土師器、須恵器、灰釉陶器、製塩土器、金属製品、動物遺体などが出土している。坏底部の調整は土師器が回転糸切り無調整のもの、須恵器がヘラ切り無調整のものが大半を占めている。また、これらの中には人面墨書土器や呪符を墨書した土器をはじめ、

多量の墨書土器が含まれている。金属製品としては柄付きを含む刀子が5点出土している。

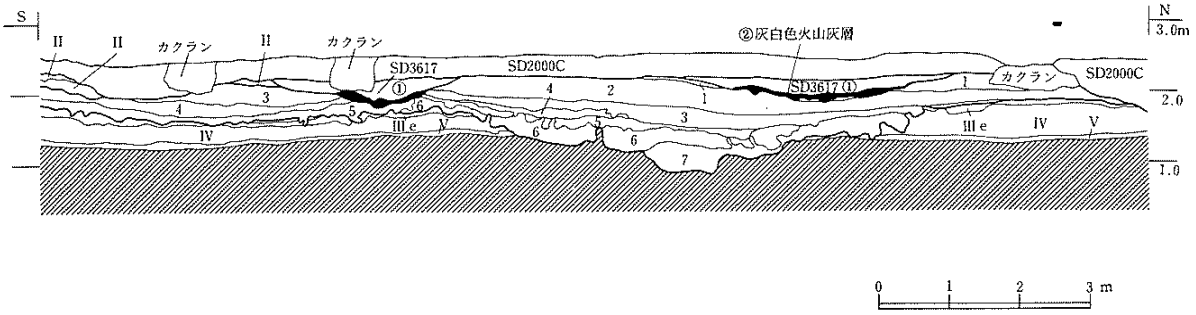
8 層からは土師器、須恵器、赤焼土器、灰釉陶器、瓦、金属製品、動物遺体などが出土している。坏では土師器の占める割合が高く、底部の調整は回転糸切り無調整のものが主体をなしている。須恵器はヘラ切り無調整のものが大半を占めるが、回転糸切り無調整のものも目立つ。

4b 層からは土師器、須恵器、赤焼土器、製塩土器、瓦、動物遺体などが出土している。坏では土師器の占める割合が圧倒的に高いが、小型坏や小型皿を含む赤焼土器の割合も高くなっている。坏底部の調整は土師器、須恵器とも回転糸切り無調整のものが主体をなしている。

【ＳＤ3625 河川跡】（第42･216 図）

ＳＤ2000 河川跡の東側で検出した、ＳＤ2000 の支流とみられる小河川跡である。基本層位Ⅲｇ層を侵食して南流し、西岸をＳＤ2000Ｂに侵食されている。ＳＦ3700Ｃ水田跡やＳＤ3627 よりも古く、少なくとも灰白色火山灰降下以前には埋没している。規模は上幅が 8m以上、下幅が約 4m、検出面からの比高差が約 1.3m（最深部の標高約 0.9m）である。河底は侵食され、また堆積後の外圧(註 3)によっても大きく乱れており、凹凸が認められる。

堆積層は、層の特徴や堆積状況等によって 7 層に分層される。河底に接して基本層位Ⅲｅ層起源の黒色粘土層（7 層）が堆積し、その上に比較的しまりのある褐灰～黒褐色砂質土層と黄灰色細砂層が薄く互層をなして堆積している。短期間に供給されたような粗砂層（4 層）の堆積も部分的に認められるが、全体的に未分解の植物質層を介在するような水成堆積を繰り返している。また、5 層上面(最深部の標高約 1.7m)では、ヒトおよびウシのものとみられる足跡を多数確認しており、このことからも水流の少ない緩やかな堆積状況が窺える。なお、4～6 層の堆積状況からみて、5 層堆積時に噴砂が起こったものとみられ、ＳＤ3625 はＳＤ2000Ａの 8 層を中心とした時期の一時的な支流と考えられ



No	土色	土性	備考		No	土色	土性	備考	
①	暗灰黄 2.5Y4/2	粘質シルト	SD3617	しまりなし。灰白粒・炭化物含。	4	灰オリーブ 5Y5/3	砂	SD3625	粗砂･細砂の互層(ラミナ)=SD2000A 8層
②	灰白色火山灰			灰白の一次堆積層	5	黒褐 10YR3/1	砂質シルト		細砂･スクモの薄層が互層をなす。植物遺体多。
1	暗灰黄 2.5Y4/2	シルト	SD3625		6	黒褐 2.5Y3/1	シルト		細砂・植物遺体含。
2	褐灰 10Y4/1	砂質シルト		しまりあり。地山砂多。	7	黒 5Y2/1	粘質シルト		地山ブロック（粘土）多。植物遺体含。
3	黒褐 10YR2/2	砂質シルト		細砂含。					

第216図　SD3625河川跡断面図

る。

遺物は土師器、須恵器、赤焼土器、木製品などが出土しているが、量は少なく、小破片が多い。ＳＤ2000河川跡とは異なった出土状況にある。坏底部の調整は、土師器、須恵器とも回転糸切り無調整のものが多い。

【ＳＡ3624杭列】（第40･238図）

ＳＤ2000Ａ西岸のテラス状平坦面上で検出した杭列で、平行して東西に延びる２条を確認した。いずれも径10cm前後の杭を約0.4m間隔で打ち込んだもので、両杭列間の距離は0.8mを測る。幅3m程の平坦面を横断して北側で５本、南側で４本残存しており、少なくとも西岸から河の中心に向かって4.5mは延びていたものとみられる。こうした状況からみて、これら２条の杭列は河岸から河道に突き出す小規模な桟橋であった可能性が考えられる。杭の打ち込まれた時期については、ＳＸ1950の下層で検出され、平坦面に沿っていることや打ち込まれた杭のレベル、層の堆積状況などから、ＳＤ2000Ａ機能時で、９層が堆積する以前に構築された可能性が高く、10層以前の堆積に伴うものと思われる。

(12)時期不明の遺構

前述の南１西２区のものと同様に径(一辺)20～45cmの小規模な柱穴を持ち、柱穴埋土に基本層位Ⅱ層起源の黒･黒褐色土を含む掘立柱建物跡や柱列である。またＳＤ1718溝跡についてもⅡ層上面から掘り込まれていることから時期不明の遺構として扱うこととする。

掘立柱建物跡

【ＳＢ1549掘立柱建物跡】（第220･222図）

調査区ほぼ中央に位置する東西２間以上、南北２間の東西棟である。柱穴は地山面で５ヶ所検出し、すべての柱穴で柱痕跡を確認している。ＳＢ1812掘立柱建物跡と重複するが新旧関係は不明である。

平面規模は桁行の柱間寸法が南側柱列で2.34m、梁行は東妻で総長4.17m、柱間寸法は北より2.16m・2.02mである。方向は北側柱列でみると、東で約11度南に偏している。柱穴は隅丸方形で一辺が32～45cm、深さ21～27cm。柱痕跡は径18cm前後の円形である。

遺物は出土していない。

【ＳＢ1812掘立柱建物跡】（第220･222図）

調査区ほぼ中央に位置する南北４間以上、東西３間以上の北・東に廂が付く建物跡である。南西部分は調査区外に延びており、廂部分の柱列が別の建物跡となる可能性も考えられる。柱穴は地山面で身舎５ヶ所、廂８ヶ所を検出し、身舎４ヶ所、廂６ヶ所で柱痕跡を確認している。ＳＢ1549掘立柱建物跡やＳＤ1740溝跡と重複し、ＳＤ1740より新しい。ＳＢ1549との新旧関係は不明である。

平面規模は北入側柱列で柱間寸法が西より2.27m･2.41m、廂の出は2.19m。東入側柱列で柱間寸法が南から2.42m･2.24m、廂の出は1.52cmである。方向は東入側柱列でみると、北で約15度南に偏している。柱穴は身舎･廂ともに円形で一辺が20～25cm、深さは6～32cm。柱痕跡は径15cm前後の円形である。

遺物は出土していない。

【ＳＢ1495 掘立柱建物跡】（第222図）

調査区ほぼ中央に位置する南北４間、東西３間の東廂付の南北棟である。柱穴は地山面で身舎 11 ヶ所、廂５ヶ所で検出し、身舎７ヶ所、廂４ヶ所で柱痕跡を確認している。ＳＢ1536 掘立柱建物跡やＳＤ1538・1539 溝跡と重複し、ＳＤ1538・1539 より新しい。ＳＢ1536 とは直接の切り合いはないものの、柱穴埋土などから、新しいものと考えられる。

平面規模は桁行が東入側柱列で総長 8.94ｍ、柱間寸法は北より 2.31ｍ・2.20ｍ・2.20ｍ・2.24ｍ。梁行は北妻で総長 5.03ｍ、柱間寸法は等間とすると約 2.1ｍ、廂の出は 0.75ｍである。方向は東入側柱列でみると、北で約５度南に偏している。柱穴は身舎・廂ともに円形で径が 20～42㎝、柱痕跡は 13～22㎝の円形である。掘り上げは行っておらず柱穴の深さについては不明である。

柱列

【ＳＡ1863 柱列】（第220図）

調査区の中央、ＳＡ1567 柱穴列の約 2.1ｍ北に位置し、これとほぼ平行する柱穴列である。地山面で４間分を検出した。ＳＢ1512 掘立柱建物跡、ＳＩ1515 竪穴住居跡と重複し、それらより新しい。

柱間寸法は西より 2.61ｍ・2.30ｍ・2.29ｍ・2.39ｍで、方向は東で約16度南に偏している。柱穴は円形で１辺が 18～32㎝、柱痕跡は径 12～18㎝ でともに円形である。掘り上げは行っておらず柱穴の深さについては不明である。

【ＳＡ1567 柱列】（第220図）

調査区の中央に位置する東西方向の柱穴列である。地山面で４間分を検出した。ＳＫ1516 土壙と重複し、これより新しい。

柱間寸法は西より 2.31ｍ・2.38ｍ・2.28ｍ・2.39ｍで、方向は東で約16度南に偏している。柱穴は径 26㎝ 前後、柱痕跡は径 15～20㎝ でともに円形である。掘り上げは行っておらず柱穴の深さについては不明である。

溝跡

【ＳＤ1718 溝跡】（第226・227・228図）

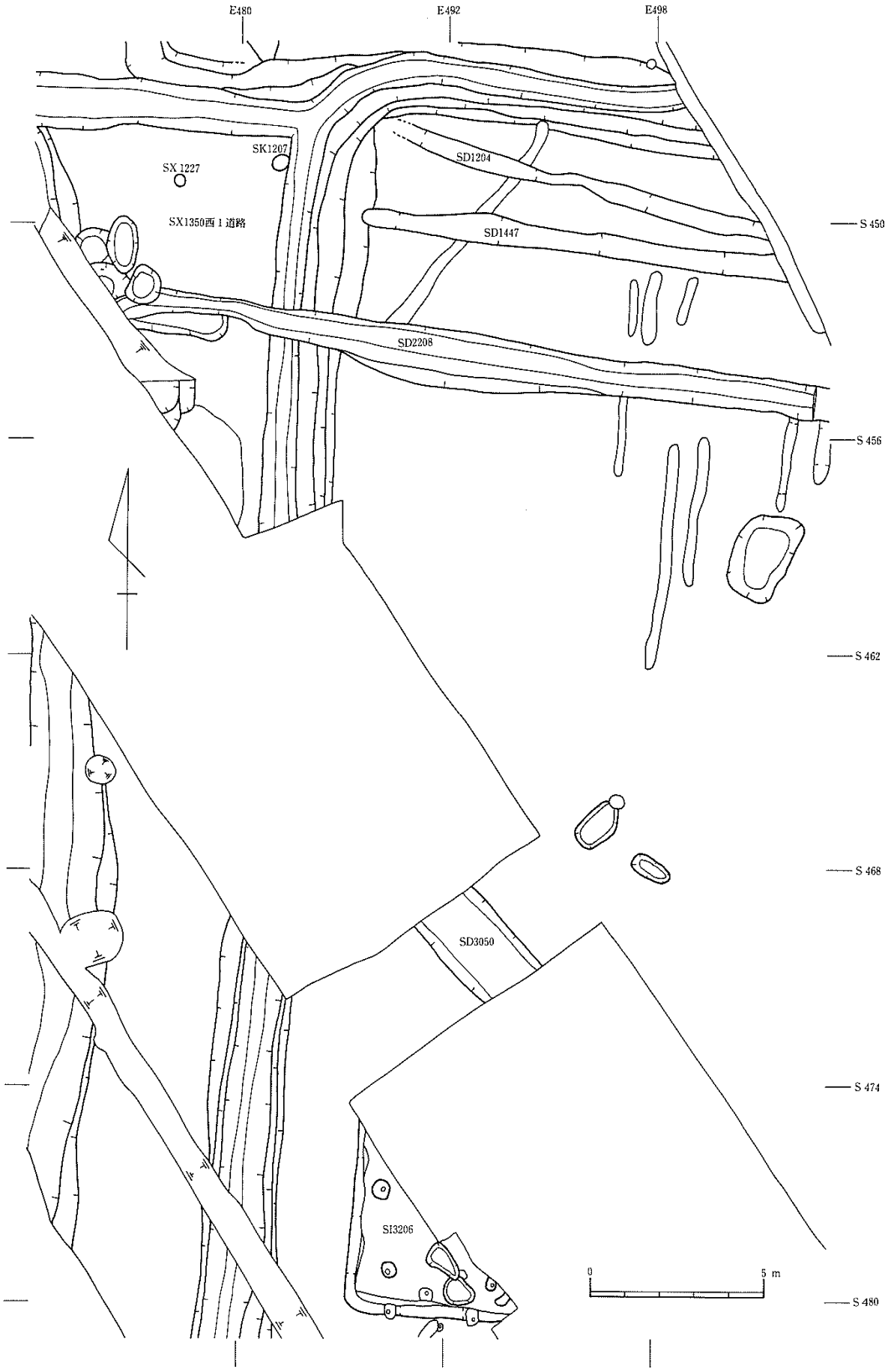
調査区南東、ＳＸ1900 道路跡の北側に位置し、東西方向に延びる溝跡でⅡ層上面で検出した。ＳＫ3453 土壙などと重複し、それより新しい。

途中で途切れるものの、検出長は延べ約 33ｍで、上端幅 0.5～1.0ｍ、底面幅 0.2～0.7ｍである。深さは最も残りの良い西側で 28㎝ あり、断面形は逆台形上を呈する。方向は東で約17度南に偏している。

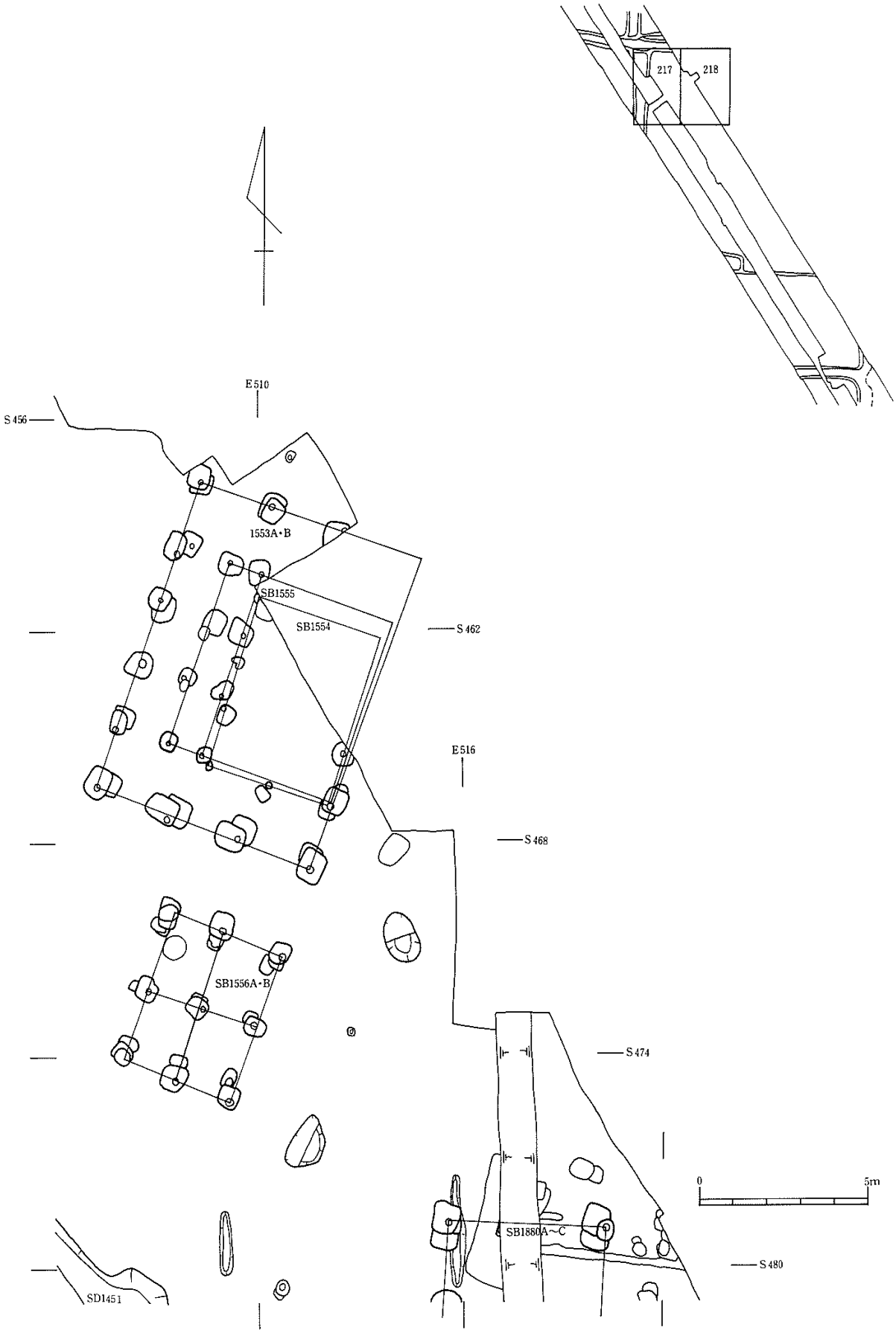
堆積土は１層で、Ⅱ層の黒色土をまきこんだ、粘性のあるオリーブ黒色土で、自然堆積とみられる。

遺物は堆積土中からロクロ調整の土師器、須恵器が出土しているが、そのほとんどは小片である。

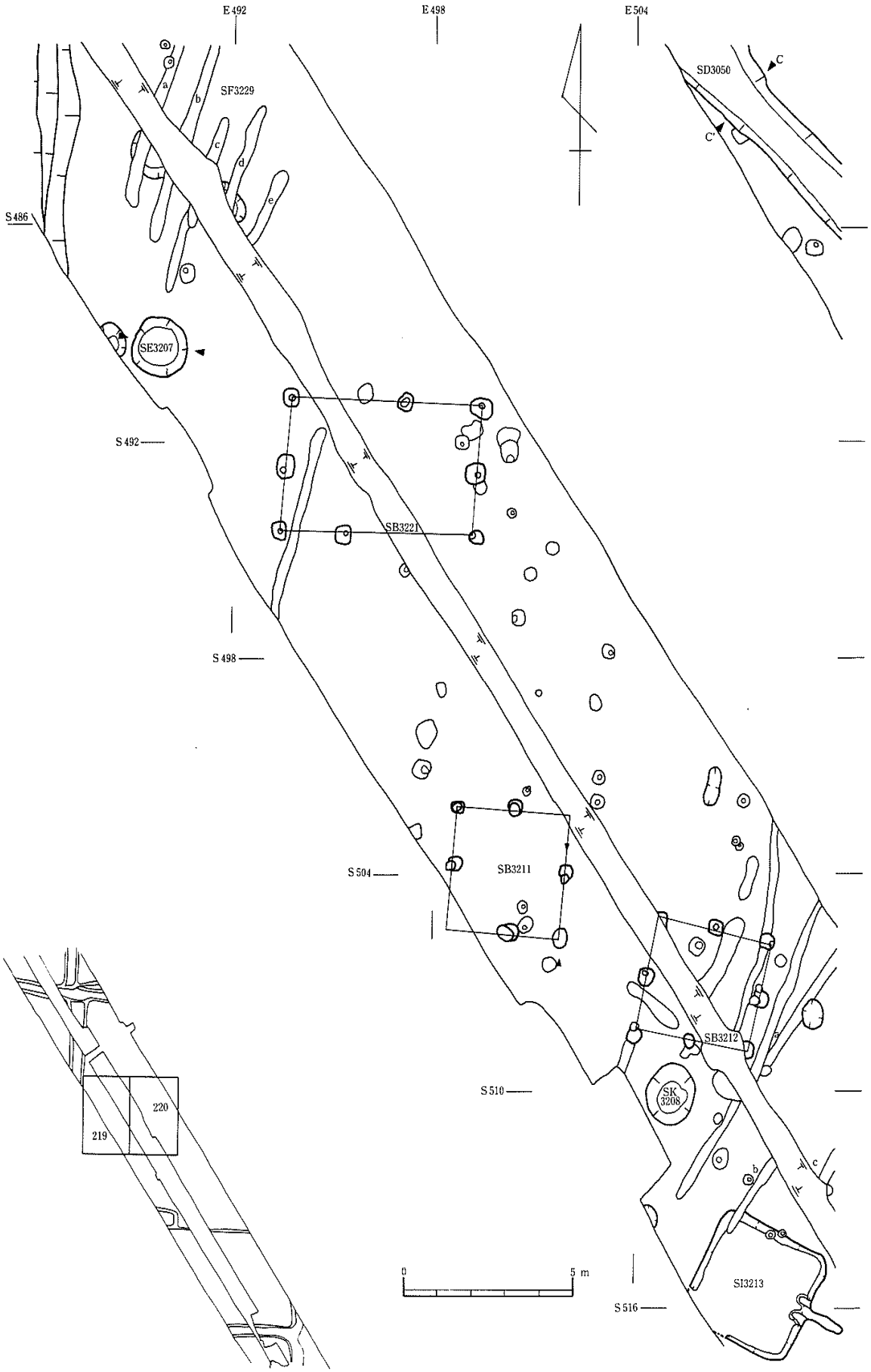
（註 3）ＳＤ3625 の 5・6 層下面の河底部分のみ、基本層位Ⅲｅ層が渦巻状に攪拌されたような堆積状況にある。東北大学理学部助教授の松本秀明氏の御教示によれば、地盤が軟弱な場所では急激な土砂の流入に伴う土圧などによって地層が褶曲することがあるという。噴砂や短期間に供給された砂層の存在などからみて、地震や洪水による影響が考えられる。



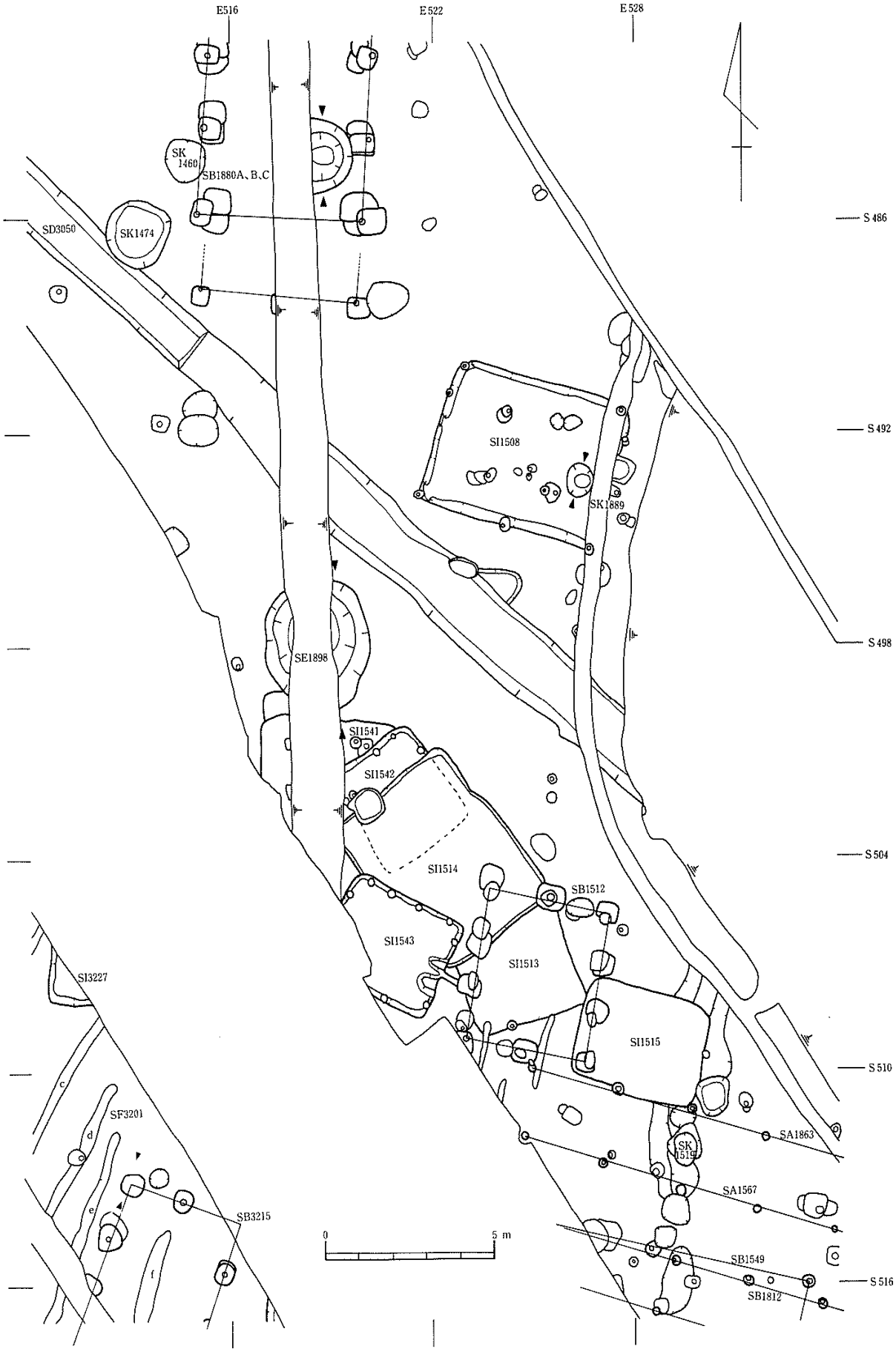
第217図　南2西1区分割図(1)



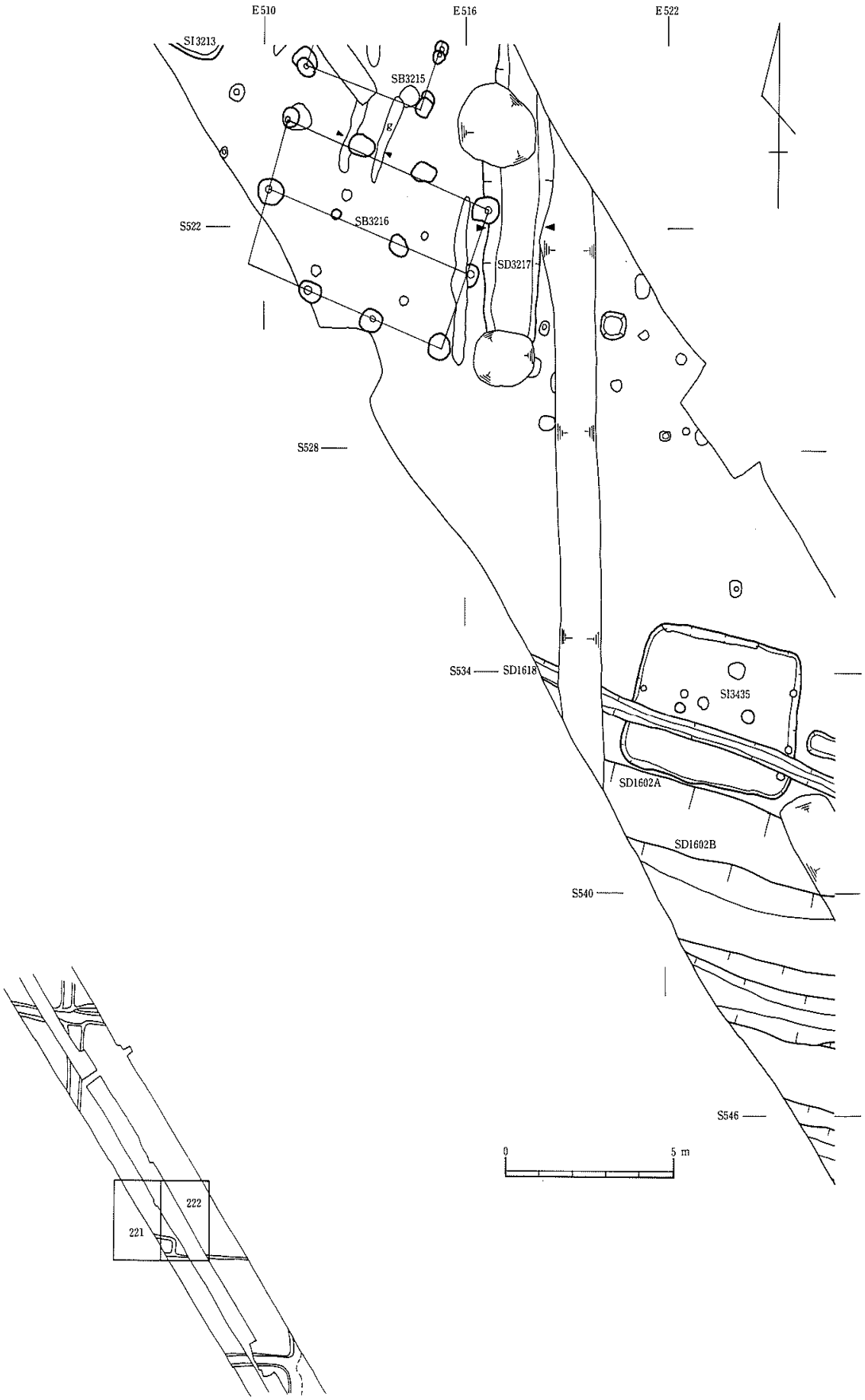
第218図　南2西1区分割図(2)



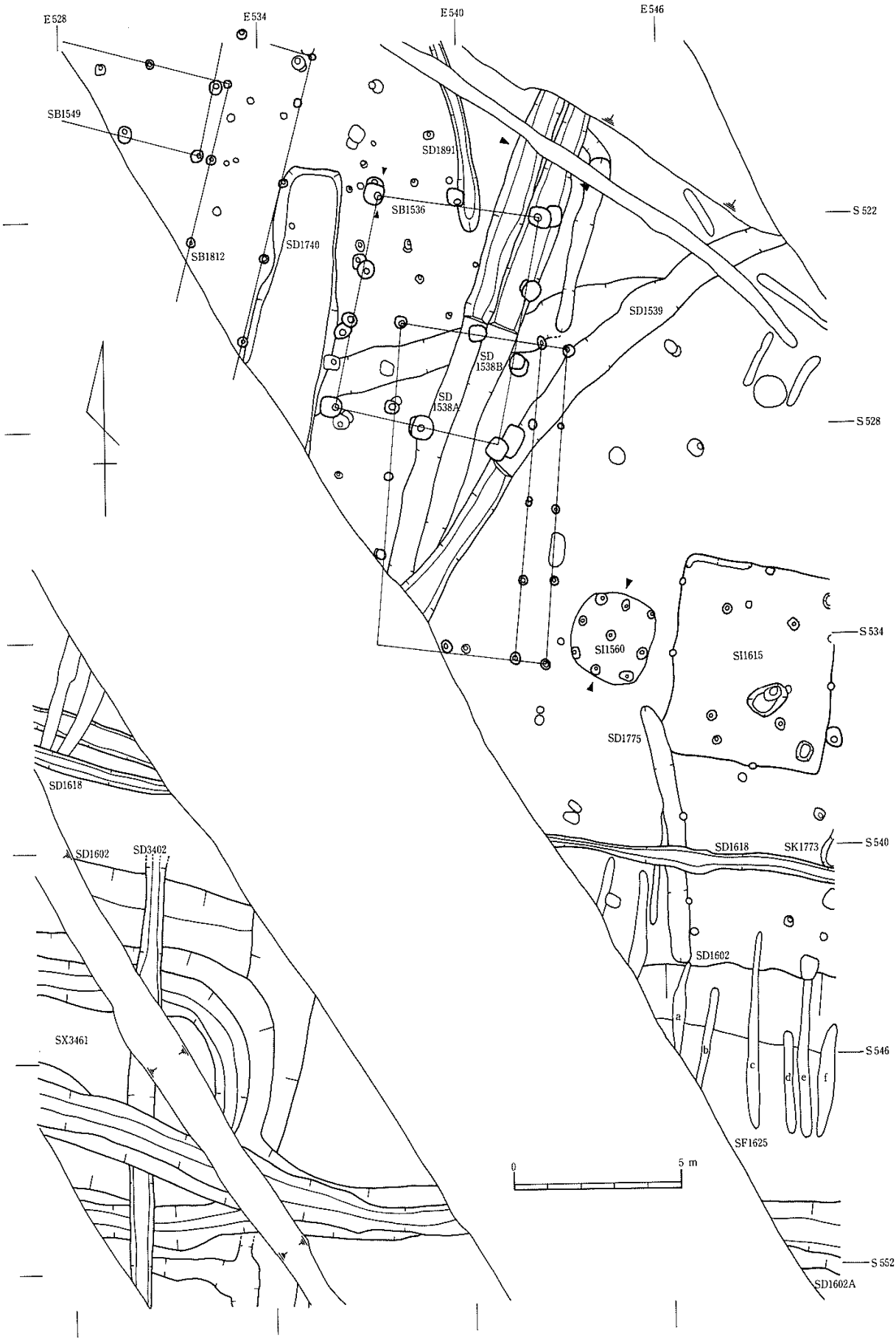
第219図　南2西1区分割図(3)



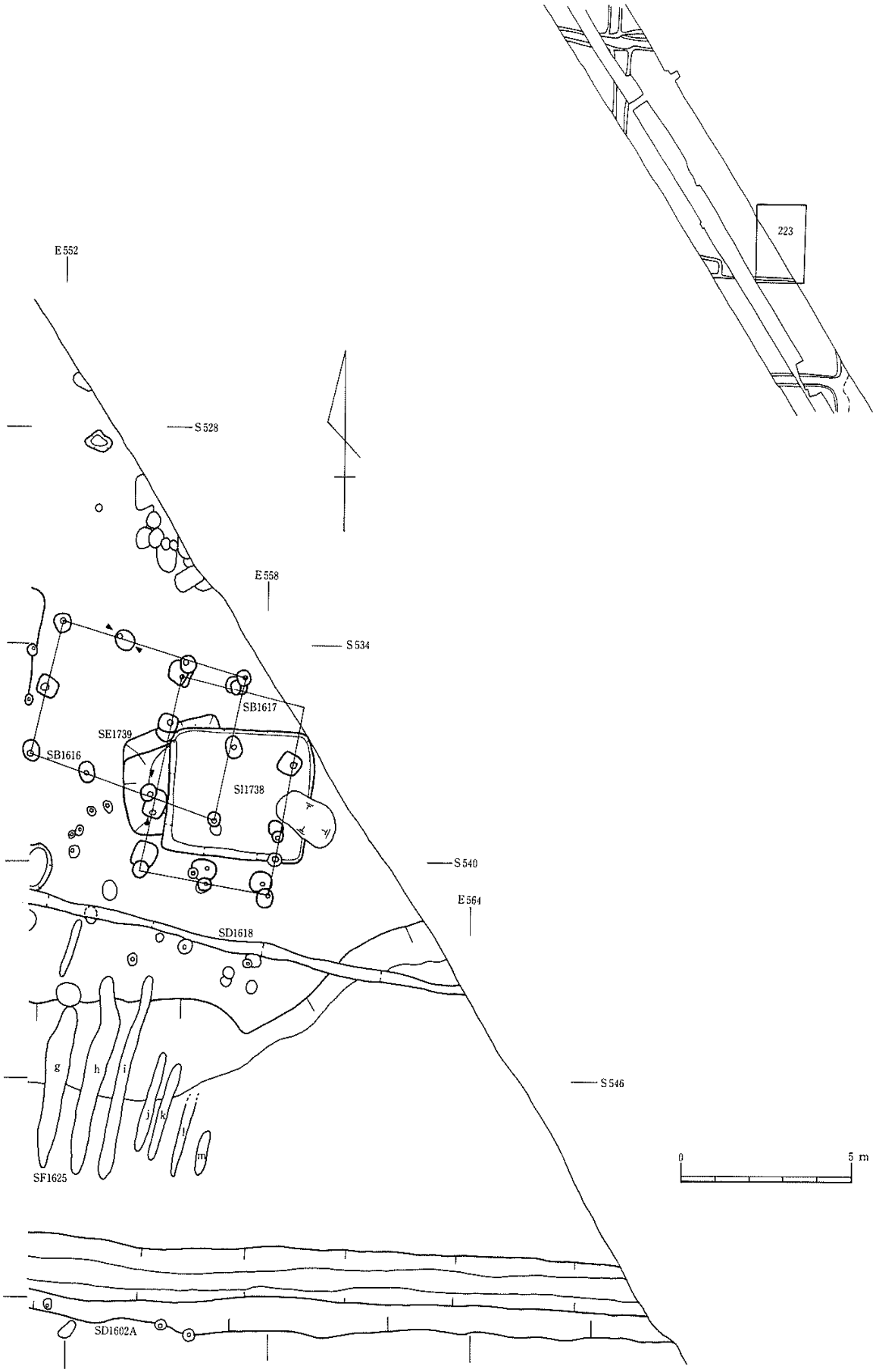
第220図　南2西1区分割図(4)



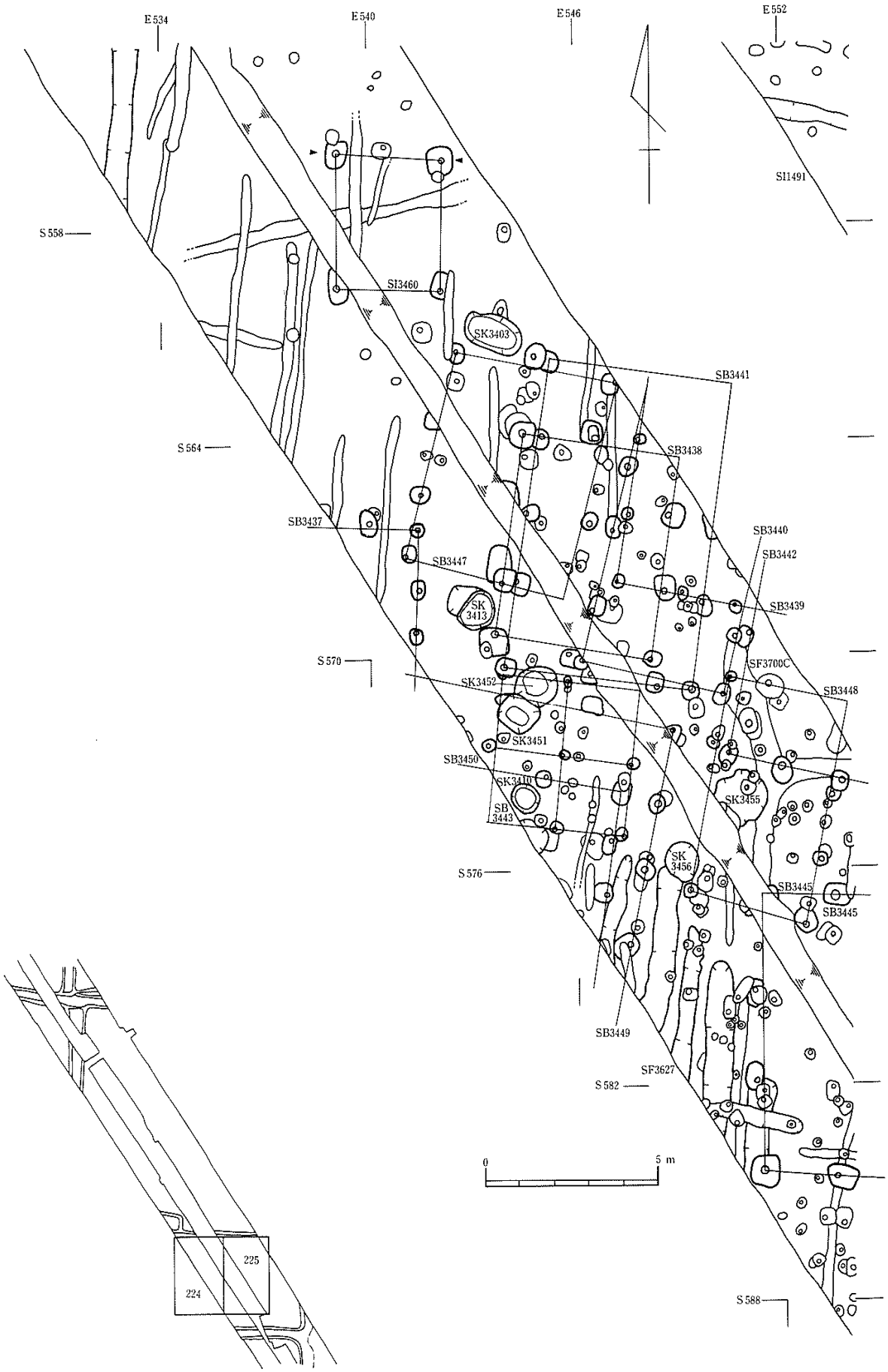
第221図　南2西1区分割図(5)



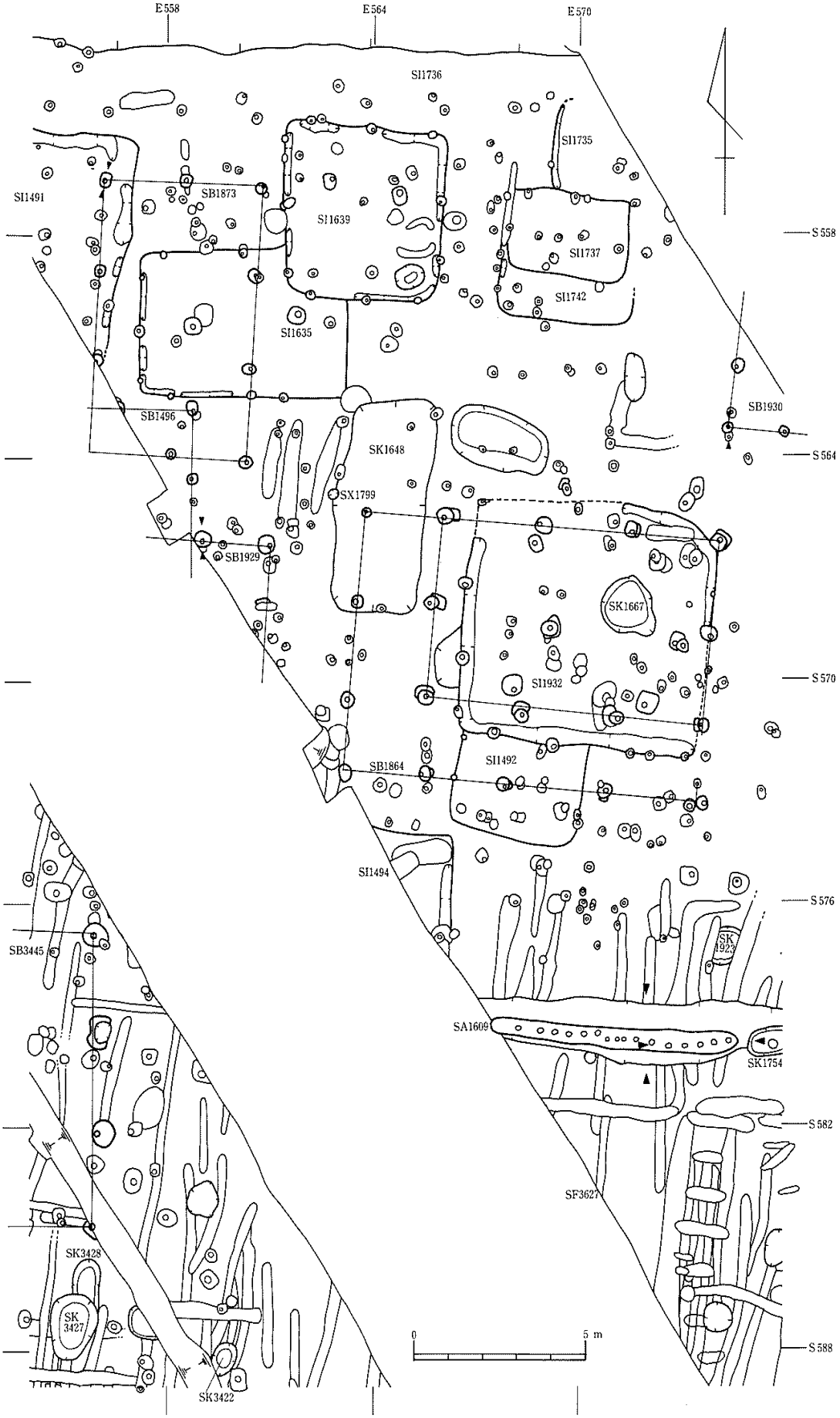
第222図　南２西１区分割図(6)



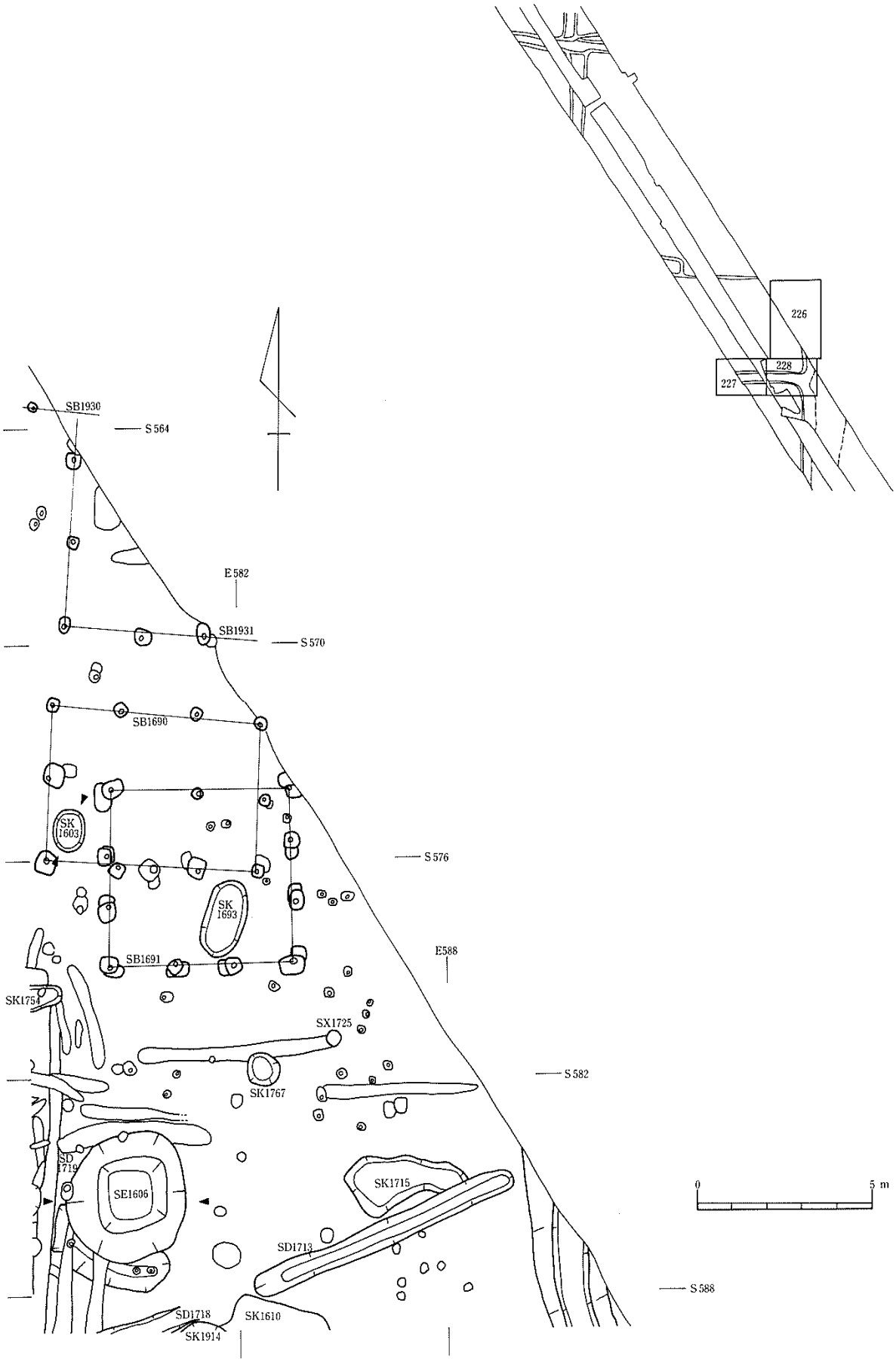
第223図　南2西1区分割図(7)



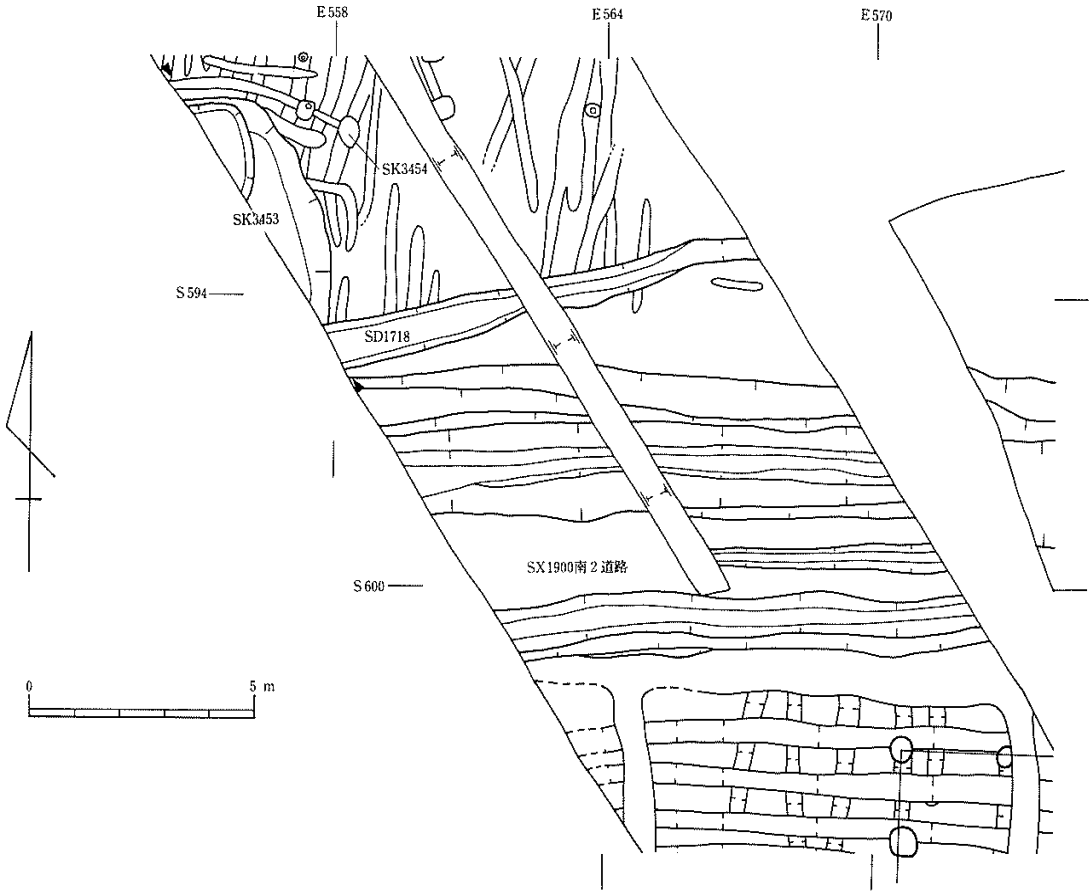
第224図　南２西１区分割図(8)



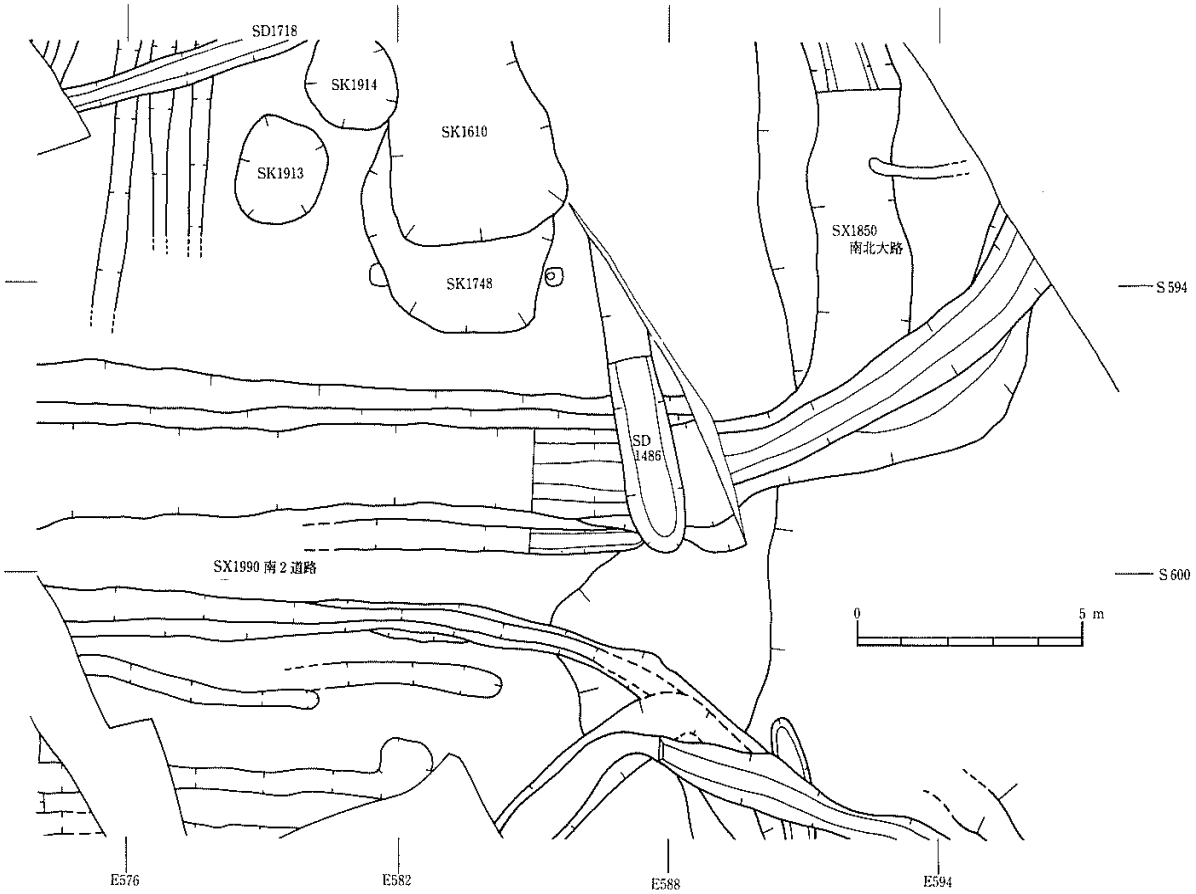
第225図　南2西1区分割図(9)



第226図　南２西１区分割図(10)



第227図　南2西1区分割図(11)



第228図　南2西1区分割図(12)

第18表　南２西１区掘立柱建物跡一覧表

遺構名	棟方向	規模（間）（長軸×短軸）	総長（m）	方向（°）	備考	本文（頁）	図版番号 分割図	図版番号 個別図
SB1495	南北棟	4×3	8.94×5.03	N-5-E	片廂（東廂）。	269		
SB1496	不明	1以上×1以上	不明	(N-2-E)			225	
SB1512	南北棟	3×2	(4.3)×(3.6)	(N-9-E)		232	220	
SB1536A	南北棟	3×2	不明	N-13-E		233	222	
SB1536B			6.23×4.91					
SB1549	東西棟	2以上×2	不明×4.17	E-11-S		268	220・222	
SB1553	南北棟	5×3	9.26×6.63	N-18-E		229	218	174
SB1554	南北棟	3×2	(5.0)×(3.7)	N-17-E		231	218	174
SB1555	南北棟	3×3	5.47×(5.0)	N-18-E	片廂（西廂）。	229	218	174
SB1556	南北棟	2×2	4.38×3.58	N-21-E	総柱。	231	218	174
SB1616	東西棟	3×2	5.56×3.74	E-16-S		233	223	
SB1617A	南北棟	3×2	不明	N-12-E		234	223	
SB1617B			(5.5)×(3.8)					
SB1690	東西棟	3×2	6.02×4.30	E-6-S		239	226	196
SB1691A	東西棟	3×3	5.23×4.89	E-1-S	北側柱のみ2間割り。	239	226	196
SB1691B								
SB1812	南北棟	4以上×3以上	不明	(N-15-E)	二面廂（東・北廂）？	268	220・222	
SB1864A	東西棟	4×3	不明	E-5-S	二面廂（南・西廂）。	239	225	196
SB1864B			10.48×7.08					
SB1873	南北棟	3×2	7.47×4.58	N-4-E		238	225	
SB1880	南北棟	3×2	7.04×4.87	N-5-E	1～2度建て替え。	231	218・220	174
SB1929	不明	1以上×1以上	不明	不明			225	
SB1930	不明	1以上×1以上	不明	不明			225	
SB1931	不明	2以上×2以上	不明	N-3-E		239	226	
SB3211	―	2×2	3.4×3.3	N-5-E		232	219	
SB3212	東西棟	2×2	(3.5)×(3.1)	N-11-E		232	219	
SB3215A	南北棟	3×2	不明	N-19-E		232	220	
SB3215B			4.8×3.6				221	
SB3216	東西棟	3×2	6.47×3.8	E-22-S		233	221	
SB3221	東西棟	3×2	5.72×3.6	E-1-S		232	219	
SB3437	不明	2以上×1以上	不明	N-3-E		236	224	185
SB3438	東西棟	3×2	5.64×4.63	N-10-E			224	185
SB3439	不明	2以上×2以上	不明	N-9-E		237	224	185
SB3440	南北棟	3以上×2	不明×4.19	N-14-E	礎板あり。	234	224	185
SB3441	南北棟	4以上×2	不明×5.62	N-11-E		234	224	185
SB3442	不明	2以上×2以上	不明	N-11-E		237	224	185
SB3443	―	2×2	4.27×4.17	N-8-E	総柱。	237	224	185
SB3445	南北棟	3×2	(7.6)×(4.7)	N-1-W	礎板あり。	238	224・225	185
SB3447	南北棟	3×2	5.87×4.73	N-15-E	礎板あり。	236	224	185
SB3448	南北棟	3×2	6.07×3.52	N-11-E		237	224	185
SB3449	南北棟？	3以上×2以上	不明	N-13-E		238	224	185
SB3450	南北棟？	3以上×1以上	不明	N-10-E		238	224	185

第19表　南2西1区竪穴住居跡一覧表

遺構名	平面形	規模（m）（長軸×短軸）	方向（°）	床面	柱穴（個） 主柱	柱穴（個） 壁柱	周溝	カマド	備考	本文（頁）	図版番号 分割図	図版番号 個別図
SI1491	不明	5.5～×5.5～	E-10-S	確認のみ（詳細不明）。							225	
SI1492	隅丸長方形	4.6×3.7	N-12-E	確認のみ（詳細不明）。							225	
SI1494	不明	3.2～×2.5～	N-4-E	確認のみ（詳細不明）。							225	
SI1508	隅丸長方形	5.3×4.2	N-18-E	○	4	7	ほぼ全周	無	主柱穴のみ2時期。貯蔵穴状ピットあり。	242	220	198
SI1513	不明	3.6×3.0～	N-73-E	確認のみ（詳細不明）。							220	
SI1514	隅丸長方形	5.3×4.1	E-53-S	○	無	無	無	無	→埋め戻し。	244	220	199
SI1515	隅丸長方形	3.8×2.9	N-18-E	確認のみ（詳細不明）。							220	
SI1541	不明	4.0×不明	E-5-S	×	3	不明	不明	不明		242	220	198
SI1542	隅丸方形	3.3×3.0	E-57-S	×	無	7	不明	不明		220	220	198
SI1543	隅丸方形	3.6×3.0	E-27-S	○	無	8	全周	○東辺		244	220	199
SI1615	隅丸長方形	5.6×4.7	N-9-E	△	4	6	一部	不明	主柱穴に礎板あり。	247	222	201
SI1635	隅丸長方形	6.0×4.0	E-1-S	○	2	8	一部	無		250	225	203
SI1639	隅丸方形	4.6×4.6	N-4-E	○	2	11	ほぼ全周	○東辺	→埋め戻し。貯蔵穴状ピットあり（2時期）。	250	225	203
SI1735	隅丸長方形	3.5～×2.5	N-4-E	△	不明	無？	一部？	不明		252	225	204
SI1737	隅丸長方形	3.2×2.2	E-9-S	○	無	無	無	無		252	225	204
SI1738	隅丸方形	4.1×3.5	E-10-S	○	無	無	一部	無		249	223	202
SI1742	不明	4.0×2.0～	E-5-S	確認のみ（詳細不明）。							225	
SI1932	隅丸方形	7.2×6.6	E-11-S	×	4	11	全周？	不明		253	225	205
SI1935	不明	不明	不明	×	4	不明	不明	不明	主柱穴のみ（2時期）。			
SI3206	不明	5.0～×4.7～	N-5-E	○	(3)	無	有	不明	2時期。貯蔵穴状ピットあり（A）。	241	217	
SI3213	隅丸方形	3.5×3.2	E-25-S	○	無	無	全周	○東辺		247	219	200
SI3227	不明	不明	不明	×	不明	不明	有	不明			220	
SI3435	隅丸長方形	5.3（4.6）×4.1	E-12-S	○	2	4	一部	無	床面の2ヶ所にスミ・焼土が分布。	247	221	200
SI3460	不明	不明	不明	×	4	不明	不明	不明	主柱穴のみ。			

＊1　床面で、○：残存、△：一部残存、×：削平により残存しない場合をそれぞれ示す。
＊2　柱穴の（　）は、部分的な検出によって確認された柱穴の個数を示す。

第20表　南2西1・2区土壙一覧表

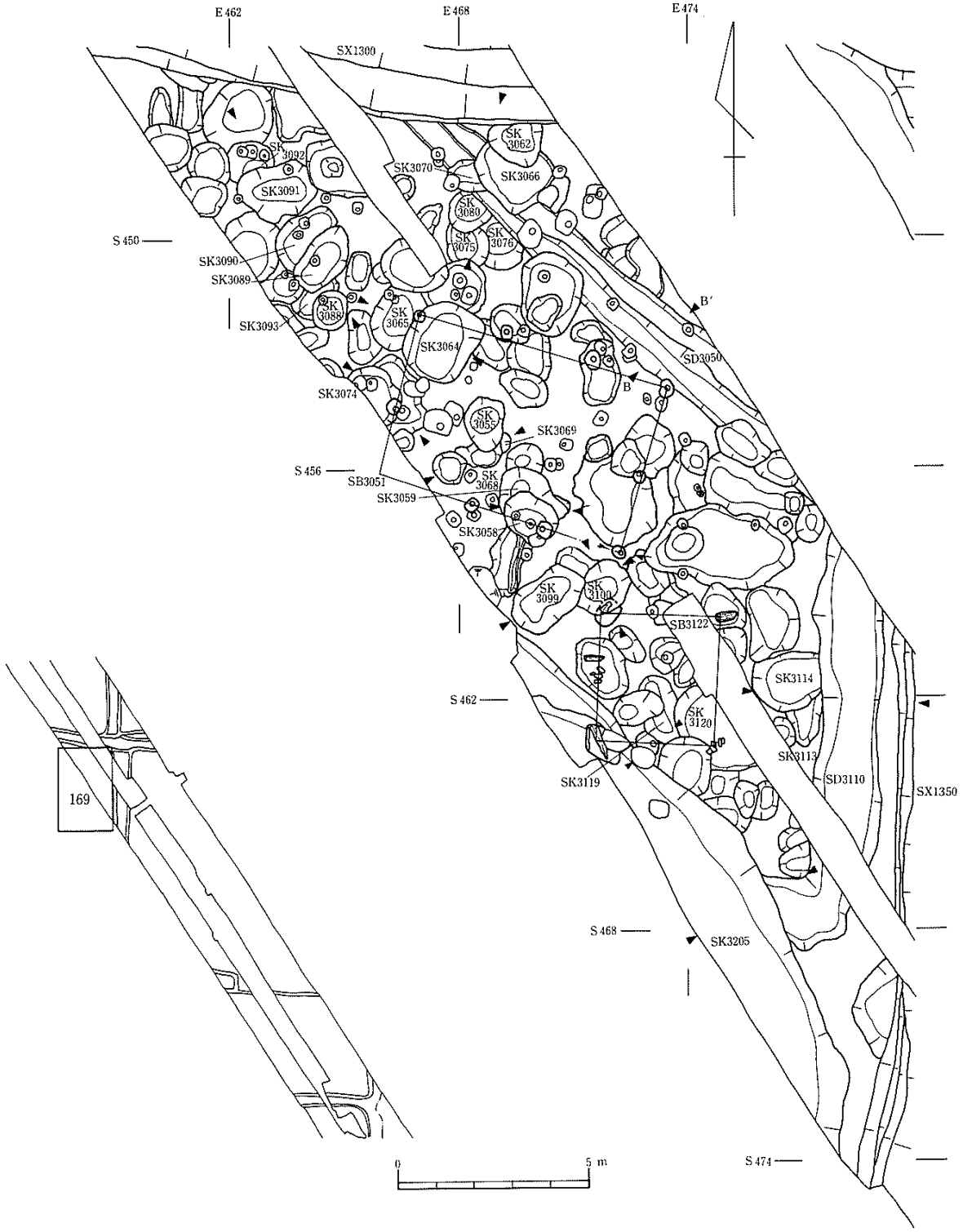
遺構名	平面図	断面形	規模 長軸×短軸（m）	規模 深さ（cm）	備考	本文（頁）	図版番号 分割図	図版番号 断面図
SK1460	円形	不明	1.2	不明			220	
SK1474	円形	不明	1.8～1.9	13			220	
SK1517	不整方形	皿状	1.0	23				
SK1519	方形	皿状	0.6～0.9	13			220	
SK1560	隅丸方形	逆台形	2.4	18		258	222	210
SK1561	隅丸方形	隅丸方	0.9	8				
SK1603	不整円形	隅丸方	1.0～1.2	31		259	226	211
SK1610	不整方形	逆台形	3.5	54			226	
SK1648	隅丸長方形	皿状	5.7×2.6	18		259	225	
SK1667	不整円形	皿状	1.5	13			225	
SK1693	楕円形	逆台形	2.2×1.1	17			226	
SK1704	楕円形	皿状	1.5×0.9	40				
SK1715	不整形	不明	3.5×1.3	10			226	
SK1748	不整円形	不整形	4.3	59			228	
SK1754	楕円形	皿状	1.9×0.8	25			225	
SK1767	円形？	皿状	1.0	16			226	
SK1773	楕円形	逆台形	1.3×0.9	42			222	
SK1889	円形	摺鉢状	1.8	96		259	220	211
SK1913	円形	不明	2.2×1.9	不明	井戸？		228	
SK1914	円形	不明	2.0～2.2	不明			226	
SK1923	円形？	逆台形状	1.0？	20			225	
SK3208	楕円形	皿状	1.7×1.4	23			219	
SK3403	楕円形	逆台形	3.0×1.5	46	灰白粒含。		224	
SK3410	円形	逆台形	0.8～0.9	20			224	
SK3413	不整円形	皿状	1.1	13			224	
SK3422	楕円形	逆台形	0.9×0.6	22			225	
SK3427	楕円形	皿状	1.8×1.4	3			225	
SK3428	楕円形	皿状	1.5×0.8	5			225	
SK3451	方形	皿状	1.0～1.1	33			224	
SK3452	円形	皿状	1.2	32			224	
SK3453	不明	不明	6.0以上	68	灰白ブロック含。	259	227	211
SK3454	楕円形	皿状	0.7×0.4	19			227	
SK3455	不整円形	皿状	1.5	3			224	
SK3456	円形	皿状	1.1×1.0	5			224	

第21表　南2西1区溝跡一覧表

遺構名	規模			方向（°）	断面形	備考	本文	図版番号	
	上端幅（m）	下端幅（m）	深さ（cm）				（頁）	分割図	断面図
SD1538A	1.0	0.6	33	N-19-E	不整形	→SX3461	263	222	215
SD1538B	0.7～1.0	0.7	14	N-19-E	逆台形				
SD1539	0.8～1.2	0.4～0.5	10～23	N-46-E	「U」字形		263	222	
SD1618	0.2～0.6	0.1～0.4	4～17	N-12-E	「U」字形		261	221～223	
SD1718	0.5～1.0	0.2～0.7	28	N-72-E	「U」字形			226～228	
SD1740	4.0～5.0	3.0～4.5	43	N-9-E	逆台形			222	
SD1775	0.5～0.7	0.3～0.4	30～45	N-7-E	「U」字形			222	
SD2208	0.4～1.6	0.2～0.6	15～28	E-8-S	「U」字形	→SX1350		217	
SD3217	1.5～2.1	0.8～1.2	25～39	N-1-E	「U」字形		261	221	213

8. 南2西2区

北をＳＸ1300南１道路、西をＳＸ1350西１道路に面した区画で、今回の調査区はその北東隅の部分にあたる。掘立柱建物跡２棟、土壙60基以上、溝跡２条などを検出した。とくに土壙は土取り穴と考え



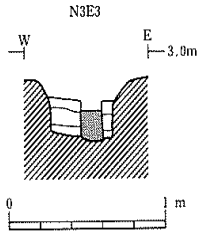
第229図　南２西２区遺構全体図

られるもので、調査区のほぼ全域に分布し、しかも道路の造成や改修、灰白色火山灰の降下を挟んで重複して認められており、本調査区の周辺は長期にわたって断続的に土取り場として利用されていたことが知られる。

(1)掘立柱建物跡

【ＳＢ3051 掘立柱建物跡】（第229･230 図）

東西を 3 間､南北 2 間の東西棟である｡柱穴は地山面で 9 ヶ所検出し、すべての柱穴で柱痕跡を確認している｡重複するＳＫ3064･3074 などの土取り穴よりも新しい。



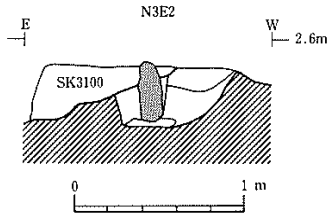
第230図　SB3051柱穴断面図

平面規模は桁行が北側柱列で総長6.84m､柱間寸法は西より 2.34m･2.41m･2.10mであり､梁行は東妻で総長4.44m､柱間寸法は北より 2.34m･2.10mである｡方向は北側柱列でみると､東で約17度南に偏している｡柱穴は一辺が 28～49cm の隅丸方形で、深さは 21～49cm、柱痕跡は径 11～15cm の円形である。

遺物は柱穴からロクロ調整の土師器、須恵器、赤焼土器が少量出土している。

【ＳＢ3122 掘立柱建物跡】（第229･231 図）

南北 2 間、東西 2 間の建物跡である。柱穴は地山面で 7 ヶ所検出したが､ＳＫ3100･3120 土取り穴やＳＫ3205 土壙などに壊されており柱痕跡を確認したのは 1 ヶ所のみである。



第231図　SB3122柱穴断面図

平面規模は南北が約 3.3m、東西が約 3.1mと推定され、柱間寸法は等間とすると南北約 1.75m東西約 1.55mとなる｡方向は北で1～3 度東に偏していると推定される｡柱穴は一辺が約60cmの方形で､深さは約35cm､径約13cmの柱材が遺存している。また 6 ヶ所で礎板を確認している。

遺物は出土していない。

(2)土壙

60 基以上検出した。ここでは、他の遺構との重複関係において年代が把握できるものを中心に説明し、その他の土壙については平面形や規模等を一覧表に一括して掲載した。

【ＳＫ3131 土壙】（第169･232 図）

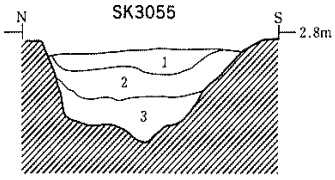
ＳＸ1300 道路跡路面上に位置し、路面堆積土に覆われる土壙で地山面で検出した。土取り穴とみられ、東側は調査区外に延びる。ＳＸ1300Ｆ南側溝と重複し、それより古い。

平面形は径約 3.3mの不整形で、深さは約 70cm 残存する｡底面はやや凹凸があり､断面形はほぼ逆台形状を呈する。

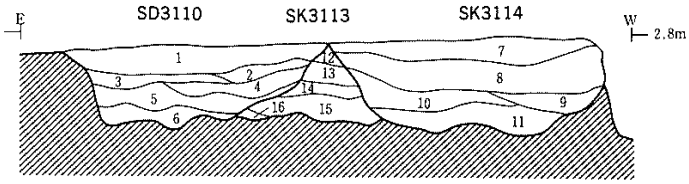
土取り後の堆積土 9 層に細分され､地山ブロックや灰白色火山灰ブロックが混入する黄灰･暗灰黄･黒褐色土などの人為堆積土である。

遺物は出土していない。

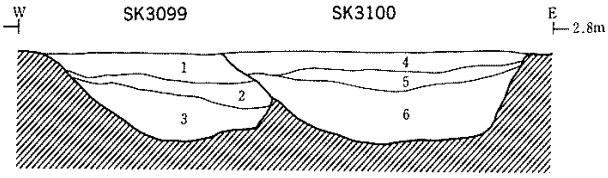
【ＳＫ3091 土壙】（第229 図）



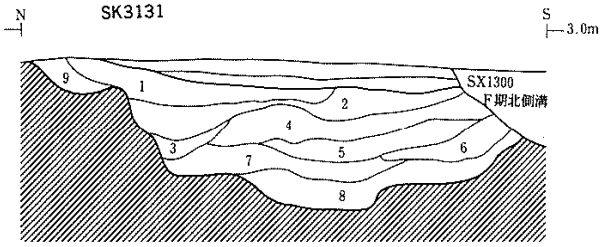
No	土色	土性	備考
1	黒褐 10YR3/1	シルト	灰白粒少量含。炭化物多。
2	黒褐 7.5YR3/1	シルト	炭化物・地山ブロック含。
3	黒 2.5Y2/1	粘質シルト	炭化物・地山ブロック含。



No	土色	土性	備考	
1	褐灰 10YR4/1	砂質シルト	SD3110	粗砂若干含。
2	灰黄褐 10YR4/2	砂質シルト		粗砂若干含。
3	黒褐 10YR3/2	シルト		
4	黄褐 10YR3/3	粘土		炭化物少量含。
5	黒褐 10YR2/2	粘土		地山砂若干含。
6	黒褐 10YR2/2	粘土		地山ブロック多。
7	暗オリーブ褐 2.5Y3/3	シルト	SK3114	炭化物少量含。
8	黒褐 10YR3/1	シルト		
9	黒褐 2.5Y3/2	砂質シルト		
10	黒褐 2.5Y3/1	砂質シルト		炭化物少量含。
11	黒 2.5Y2/1	粘質シルト		地山ブロック多。
12	暗灰黄 2.5Y4/2	シルト	SK3113	炭化物少量含。
13	黒褐 2.5Y3/2	シルト		
14	暗オリーブ褐 2.5Y3/3	砂質シルト		地山砂含。
15	黒褐 2.5Y3/1	粘質シルト		地山ブロック多。
16	黄褐 2.5Y4/1	シルト		

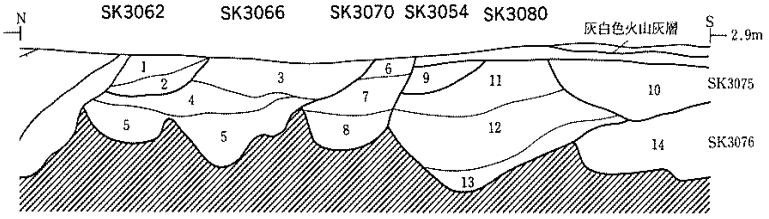


No	土色	土性	備考	
1	黒褐 2.5Y3/2	シルト	SK3099	炭化物含。
2	暗オリーブ褐 2.5Y3/3	シルト		
3	黒褐 2.5Y3/1	粘土		地山ブロック多。
4	黒褐 10YR3/2	シルト	SK3100	
5	黒褐 2.5Y3/2	粘質シルト		地山ブロック多。
6	黒褐 2.5Y3/2	粘質シルト		地山ブロック含。

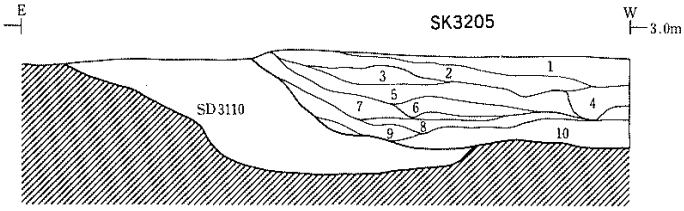


No	土色	土性	備考
1	黄灰 2.5Y4/1	シルト	炭化物・地山ブロック含。
2	褐灰 10YR4/1	シルト	灰白ブロック・焼土・地山ブロック含。
3	黒褐 10YR3/1	シルト	
4	黄灰 2.5Y5/1	シルト	地山土多。灰白ブロック含。
5	褐灰 10YR4/1	シルト	灰白ブロック多。地山ブロック含。
6	暗灰黄 2.5Y4/2	シルト	灰白粒・炭化物少量含。地山ブロック多。
7	黄灰 2.5Y4/1	シルト	地山ブロック多。
8	暗灰黄 2.5Y4/2	シルト	灰白ブロック少量含。地山土多。
9	褐灰 10YR4/1	シルト	地山ブロック多。

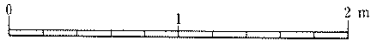
※平面図（セクションポイント）は、第169図参照



No	土色	土性	備考		No	土色	土性	備考	
1	黒褐 10YR3/2	シルト	SK3062	炭化物含。	8	オリーブ黒 5Y3/1	粘土	SK3070	
2	黒褐 2.5Y3/1	粘土		地山ブロック含。	9	黒褐 10YR3/1	シルト	SD3054	
3	黒褐 2.5Y3/1	シルト	SK3066	炭化物含。	10	黒褐 10YR3/2	粘質シルト	SK3075	炭化物少量含。
4	黒褐 2.5Y3/2	シルト		地山ブロック多。	11	黒褐 10YR3/2	粘土	SK3080	炭化物少量含。
5	オリーブ黒 5Y3/2	粘質シルト		グライ化した地山ブロック含。	12	黒褐 10YR2/2	粘質シルト		
6	黒褐 2.5Y3/1	シルト	SK3070		13	黒 5Y2/1	粘土		地山ブロック多。
7	黒褐 10YR3/2	粘質シルト		炭化物少量含。	14	黒褐 2.5Y3/1	粘土	SK3076	地山ブロック含。



No	土色	土性	備考
1	黒 10YR2/1	粘質シルト	炭化物・焼土若干含。
2	黒褐 2.5Y3/2	シルト	地山ブロック含。
3	黒褐 10YR3/1	シルト	炭化物・焼土含。
4	黒 2.5Y2/1	粘質シルト	地山ブロック含。
5	黒褐 2.5Y3/2	シルト	
6	褐灰 10YR4/1	シルト	
7	黄灰 2.5Y4/1	シルト	灰白粒若干含。
8	灰 5Y4/1	シルト	灰白ブロック含。
9	黄灰 2.5Y4/1	シルト	
10	黒褐 2.5Y3/1	粘質シルト	



第232図　南2西2区土壙・溝跡断面図

地山面で検出した土取り穴とみられる土壙でＳＫ3092土壙などと重複し、それより古い。

平面形は径約1.2～2.0ｍの不整形で、深さは約45cm残存する。壁はやや急に立ち上がり、断面形はほぼ逆台形状を呈する。

土取り後の堆積土は4層に細分され、粘性のある褐灰・黒・黒褐色土などの人為堆積土である。

遺物はロクロ調整の土師器、須恵器坏が数片出土しているのみである。

【ＳＫ3089土壙】（第229図）

地山面で検出した土取り穴とみられる土壙でＳＫ3090・3093土壙などと重複し、それらより新しい。

平面形は長軸約1.9ｍ・短軸約1.0ｍの楕円形で、深さは約40cm残存する。壁はやや急に立ち上がり、断面形はほぼ逆台形状を呈する。

土取り後の堆積土は4層に細分され、地山ブロックが混入する黒・黒褐色土などの人為堆積土である。

遺物は出土していない。

【ＳＫ3088土壙】（第229図）

地山面で検出した土取り穴とみられる土壙でＳＫ3093土壙などと重複し、それらより新しい。

平面形は径約1.0ｍの円形で、深さは約40cm残存する。壁は急に立ち上がり、底面は平坦である。

土取り後の堆積土は3層に細分され、地山ブロックが混入する黒褐色土などの人為堆積土である。

遺物はロクロ調整の土師器、須恵器が数片出土しているのみである。

【ＳＫ3066土壙】（第229・232図）

地山面で検出した土取り穴とみられる土壙でＳＸ1300Ｃ南側溝やＳＤ3050溝跡などと重複し、ＳＸ1300Ｃ南側溝より古く、ＳＤ3050より新しい。

平面形は径1.7～2.0ｍの不整方形で、深さは約60cm残存する。壁はやや緩やかに立ち上がり、断面形は摺鉢状を呈する。

土取り後の堆積土は、地山ブロックが混入するオリーブ黒・黒褐色土などの人為堆積土である。

遺物は非ロクロ調整の土師器、須恵器などが出土しているがすべて小片である。

【ＳＫ3080土壙】（第229・232図）

地山面で検出した土取り穴とみられる土壙でＳＤ3050溝跡などと重複し、それより古い。

平面形は径約1.1ｍの円形で、深さは約75cm残存する。壁はやや緩やかに立ち上がり、断面形は摺鉢状を呈する。

土取り後の堆積土は3層に細分され、黒・黒褐色土などの人為堆積土である。

遺物は出土していない。

【ＳＫ3064土壙】（第229図）

地山面で検出した土取り穴とみられる土壙でＳＫ3065土壙などと重複し、それより新しい。

平面形は径約1.7～2.0ｍの不整円形で、深さは約50cm残存する。断面形はほぼ逆台形状を呈する。

土取り後の堆積土は4層に細分され、地山ブロックが多量に混入する褐灰・黄灰・黒褐色土などの人為堆積土である。

遺物はロクロ調整の土師器、須恵器などが出土しているがすべて小片である。

【ＳＫ3055 土壙】（第229図）

地山面で検出した土取り穴とみられる土壙でＳＫ3068 土壙などと重複し、それより新しい。平面形は径 1.0～1.4ｍの不整円形で、深さは約 60cm 残存する。壁はやや急に立ち上がり、底面にはやや凹凸がある。断面形は摺鉢状を呈する。

土取り後の堆積土は 3 層に細分され、地山ブロックが混入する黒・黒褐色土などの人為堆積土である。

遺物はロクロ調整の土師器、須恵器が数片出土しているのみである。

【ＳＫ3067 土壙】（第229図）

地山面で検出した土取り穴とみられる土壙でＳＫ3068 土壙と重複し、それより新しい。

平面形は径約 0.8ｍの不整円形で、深さは約 25cm 残存する。断面形はやや凹凸のある不整形で、壁はやや緩やかに立ち上がり、断面形は皿状を呈する。

土取り後の堆積土は 1 層で、地山粒が多量に混入する黒褐色土の人為堆積土である。

遺物は調整不明の土師器甕が 1 片のみ出土している。

【ＳＫ3058 土壙】（第229図）

地山面で検出した土取り穴とみられる土壙でＳＫ3059 土壙などと重複し、それより新しい。

平面形は径 1.1～1.5ｍの不整円形で、深さは約 55cm 残存する。壁はやや緩やかに立ち上がり、断面形は摺鉢状を呈する。

土取り後の堆積土は 4 層に細分され、粘性のあるオリーブ黒・黒褐色土などの人為堆積土である。

遺物はロクロ調整の土師器、須恵器、平瓦などが極少量出土しているのみである。

【ＳＫ3100 土壙】（第229･232 図）

地山面で検出した土取り穴とみられる土壙でＳＢ3122 掘立柱建物跡やＳＫ3099 土壙などと重複し、これより新しい。

平面形は径約 1.2～2.1ｍの不整形で、深さは約 50cm 残存する。壁はやや緩やかに立ち上がり、底面は平坦で、断面形はほぼ逆台形状を呈する。

土取り後の堆積土は 3 層に細分され、地山ブロックが混入する黒褐色土などの人為堆積土である。

遺物は出土していない。

【ＳＫ3114 土壙】（第229･232 図）

地山面で検出した土取り穴とみられる土壙でＳＤ3110 溝跡などと重複し、それより古い。

平面形は径約 1.5～2.0ｍの不整円形で、深さは約 50cm 残存する。断面形はほぼ逆台形状を呈する。

土取り後の堆積土は 5 層に細分され、地山ブロックが多く混入する黒・黒褐色土などの人為堆積土である。

遺物はロクロ調整の土師器、須恵器が出土しているがすべて小片である。また塩釜式期の壺がほぼ完形に近い状態で出土している。

【ＳＫ3205 土壙】（第229･232 図）

ＳＸ1350 西側溝のすぐ西側に位置し、東端が調査区にかかったもので地山面で検出した。ＳＤ3110 溝跡と重複し、それより新しい。

平面形・規模等の詳細は不明であるが径15ｍ以上、深さ約70㎝以上の大土壙である。底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。

堆積土は10層に細分され、いずれも自然堆積である。8層には灰白色火山灰ブロックが非常に多く堆積している。また1層は基本層位Ⅱｂ層に対応し、ＳＸ1350道路跡廃絶後に堆積したものと同様のものであることから、この土壙は灰白色火山灰降下以前に掘り込まれ、道路廃絶時まで徐々に埋まっていったものと考えられる。

遺物は堆積土中からロクロ調整の土師器、須恵器、赤焼土器、瓦などが出土しており、特に1層からは白磁の破片も出土している。坏類の底部調整は土師器が回転糸切り無調整、須恵器はヘラ切り無調整が主体である。

(3)溝跡

【ＳＤ3110溝跡】（第229・232図）

南北方向から西にほぼ直角に折れ曲がる溝跡で地山面で検出した。ＳＸ1350Ｃ西側溝やＳＫ3205土壙、ＳＫ3114土壙と重複し、ＳＫ3114より新しく、ＳＸ1350Ｃ西側溝やＳＫ3205より古い。

長さは南北約 10ｍ、東西約 4ｍまで検出し、上端幅 1.3～1.8ｍ、底面幅 0.8ｍ～1.2ｍで、深さは約45㎝が残存する。断面形は底面にやや凹凸はあるがほぼ逆台形状を呈する。方向は東西が東で約11度南に偏し、南北は北で約1度東に偏しており、ＳＸ1350道路跡とほぼ平行する。

堆積土は6層に細分され、いずれも人為堆積土とみられる。

遺物は堆積土中からロクロ調整の土師器、須恵器が出土しており、須恵器坏の底部調整は回転糸切り無調整がやや多い。

9．南３区

南３区以南の地域はＳＤ2000河川跡を挟んで東１区と西１区とに分かれる。これらの地区で発見された古代の主な遺構は、東１区ではＳＦ3700水田跡、西１区ではＳＦ3627小溝状遺構群で、掘立柱建物跡は合わせて６棟発見されたにすぎない。このような遺構のあり方は、南３区以南が古代においては宅地としてではなく、耕作地として利用されたことを示している。

南３区以南の古代の遺構面は南に行くにつれ低くなる。このため南２区以北にはみられなかった堆積層が重層的に確認され、とくに東１区では複数の水田耕作土が確認されている。このうち古代以前の層序についてみると、水田耕作土はＳＦ3700Ａ～Ｃ水田跡の３枚で、最上層のＳＦ3700Ｃ水田耕作土には10世紀前半に降下したとされる灰白色火山灰塊が含まれている。ＳＦ3700ＣとＢの間には水性堆積の薄い砂層が介在し、ＳＦ3700Ｂ水田跡の上面はこの砂層で覆われている。ＳＦ3700Ａ水田耕作土はその下層のスクモ層を巻き上げている。このスクモ層は未分解の植物遺体を含む湿地性の堆積層である。この層のさらに約１ｍ下層には古墳時代前期の水田跡が発見されている。古墳時代前期の水田跡から古代の水田跡直下のスクモ層までの間は砂、シルトの互層が厚く堆積している。

発見された遺構について、その変遷を検出された層位関係からみると、東１区ではＳＦ3700Ａ水田跡が古く、次いでＳＢ3705・3706掘立柱建物跡・ＳＡ3707柱列、ＳＦ3700Ｂ水田跡、ＳＦ3700Ｃ水田跡の順に変遷する。西１区では畑跡とみられるＳＦ3627Ａ・Ｂ小溝状遺構群が古く、次いでＳＢ3685掘立柱建物跡、ＳＦ3700Ｂ水田跡、ＳＢ3619掘立柱建物跡の順となり、両地区の遺構については発見された層位から大きく四時期の変遷が跡づけられる（Ⅲｃ～Ⅲｆ）。このうち、ＳＦ3627Ａ・Ｂ小溝状遺構群とＳＦ3700Ｂ水田跡はいずれも北側の南２区のＳＤ1602河川跡付近まで広がっており、南２道路に先行する遺構である。

(1)掘立柱建物跡

【ＳＢ1708掘立柱建物跡】（第237図）

南３東１区の北西部に位置する南北２間、東西３間の東西棟とみられる。南西隅の柱穴は調査区外にある。柱穴は８ケ所で検出し、このうちの３ケ所で柱痕跡を確認している。ＳＦ3700Ｂ水田跡の耕作土を掘り込んで作られていることからこの水田跡より新しいとみられるが、ＳＦ3700Ｃ水田跡、ＳＤ2000河川跡との新旧関係は不明である。

平面規模は桁行が北側柱列で総長6.0ｍ、柱間寸法は北側柱列で西より約2.2ｍ、約1.8ｍ、2.0ｍ、梁行が東妻で4.0ｍ、柱間寸法は2.0ｍ等間である。柱穴掘り形の平面形は径30㎝の不整な方形を基調とする。確認面からの深さはいずれも30㎝前後である。柱痕跡は径15㎝の円形である。

【ＳＢ3619掘立柱建物跡】（第237・239図）

南３西１区の北東部に位置する南北２間、東西３間の東西棟とみられる。南西隅の柱穴は調査区外にある。柱穴は７ケ所で検出し、柱穴掘方埋土に灰白色火山灰を含む。すべての柱穴で柱痕跡を確認している。

平面規模は桁行が北側柱列で総長5.6ｍ、柱間寸法は北側柱列で西より1.8ｍ、2.0ｍ、1.8ｍ、梁行が東妻で3.4ｍである。柱穴掘り形の平面形は径30㎝の隅丸方形を基調とする。確認面からの深さは30

cm 前後である。柱痕跡は径 15cm の円形である。

【ＳＢ3685 掘立柱建物跡】（第235･239 図）

南 3 西 1 区の北東部に位置する東西 2 間以上、南北 2 間の東西棟である。南側は調査区外で不明である。柱穴は 6 ケ所で検出し、このうちの 4 ケ所で柱痕跡を確認している。礎板は 2 ケ所で確認している。南北方向のＳＦ3627Ａ小溝状遺構群、東西方向のＳＦ3627Ｂ小溝状遺構群のいずれよりも新しい。

平面規模は桁行が南側柱列で 4.2m以上、梁行が西側柱列で 4.2m、柱間寸法は桁、梁行ともほぼ 2.1m等間である。方向は南側柱列で東で南に約 10 度振れている。柱穴掘り形の平面形は一辺 40cm の隅丸方形で、確認面からの深さは 30cm 前後である。柱痕跡は径 15cm の円形である。

【ＳＢ3705 掘立柱建物跡】（第235 図）

南 3 東 1 区の南西部に位置する東西 3 間、南北 2 間の東西棟である。南東隅の柱穴は失われている。柱穴は 9 ケ所で検出し、このうちの 1 ケ所で柱痕跡を確認している。礎板は 2 ケ所で確認している。

平面規模は桁行が南側柱列で総長 4.6m、柱間寸法は北側柱列で西より約 1.5m、約 1.5m、1.6m、梁行が西妻で 4.2m、柱間寸法はほぼ 2.2m等間である。柱穴掘り形の平面形は一辺 40cm の方形を基調とするが、梁間の柱穴は 70cm×40cm の長方形である。確認面からの深さはいずれも 40cm 前後である。柱痕跡は径 15cm の円形である。

【ＳＢ3706 掘立柱建物跡】（第235 図）

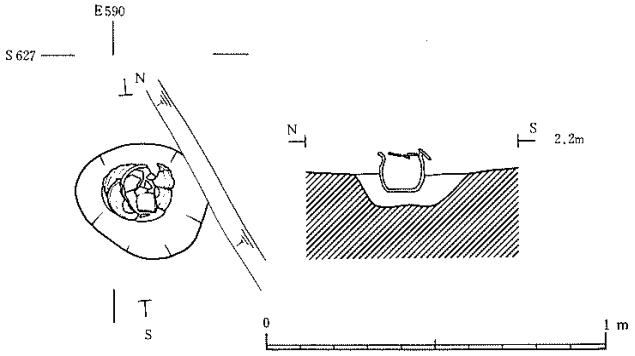
南 3 東 1 区の南西部に位置する東西 1 間、南北 2 間の建物跡である。南東隅の柱穴は排水溝により失われている。柱穴は 5 ケ所で検出し、すべての柱穴で礎板を確認している。ＳＤ3703Ｂ溝跡より古い。

平面規模は西側柱列で総長 2.6m、柱間寸法は西側柱列で 1.3m等間、北側柱列で 2.7mである。柱穴掘り形の平面形は一辺 40cm の方形を基調とする。確認面からの深さはいずれも 40cm 前後である。

(2) 土器埋設遺構

【ＳＸ3620 土器埋設遺構】（第40･233 図）

ＳＤ2000 河川跡の 7 層上面で検出した土器埋設遺構である。ＳＸ1950 西 0 道路跡の西側で、西側溝に南接した位置にある。ロクロ調整の土師器甕の口縁部に赤焼土器坏を 4 個重ねて合わせ口にし、正位に埋設したものである。据え方は長径 40cm、短径 35cm の楕円形をなす。深さは約 10cm 残存している。埋土は灰白色火山灰粒を少量含む黒褐色の砂質土である。



第233図　SX3620土器埋設遺構

(3) 柱列

【ＳＡ3707 柱列】（第235 図）

南 3 東 1 区の南西部に位置する。ＳＢ3705 掘立柱建物跡の東側に位置し、その南側柱列と柱筋を揃える東西方向の柱列である。柱穴は 3 ケ所検出し、すべての柱穴で柱痕跡を確認している。さらに東の調査区外に延びる可能性がある。柱間寸法は 1.5ｍ等間である。柱穴掘り形の平面形は一辺 20cm の方形を基調とする。確認面からの深さは 10cm 前後である。柱痕跡は径 10cm の円形である。

(4)溝跡

【ＳＤ1833 溝跡】（第235図）

東区のＳＤ2000 河川跡東側に位置する南北方向の溝跡である。上幅約 80cm、深さ約 30cm、断面形は浅い「Ｕ」字形である。ＳＦ3700Ｂ水田跡の耕作により削平され部分的に残っている。方向は北で東に 1 度前後振れている。堆積土は褐色シルトである。

【ＳＤ1826・1827・1828 溝跡】（第235図）

いずれも東区のＳＤ2000 河川跡東側に位置する南北方向の溝跡である。上幅 50cm 前後、深さ 20cm 前後、断面形は浅い「Ｕ」字形である。ＳＦ3700Ｂ水田跡の耕作により削平され部分的に残っている。方向は北で西に 2～5 度前後振れている。堆積土は暗灰色粘質シルトである。

【ＳＤ3701Ａ溝跡】（第234図）

東 1 区の大畦（ＮＯ.1）南側に位置する東西方向の溝跡である。上幅約 2ｍ、深さ約 50cm、断面形は逆台形で北辺は大畦（ＮＯ.1）、南辺は小畦（ＮＯ.2）になっている。方向は東で南に 8 度前後振れている。堆積土は水性堆積の黒色粘質シルトで、須恵器坏・壺、土師器坏・甕、木製品が出土している。土師器坏・甕には非ロクロ調整のものがみられる。

【ＳＤ3701Ｂ溝跡】（第241図）

南 3 東 1 区の南辺に位置する東西方向の溝跡である。上幅約 4ｍ、深さ約 50cm、断面形は逆台形である。方向は東で南に 5 度前後振れている。堆積土は水性堆積の黒色粘質シルトである。

【ＳＤ3702Ａ溝跡】（第234・241図）

東 1 区の大畦（ＮＯ.1）北側に位置する東西方向の溝跡である。上幅約 80cm、深さ約 50cm、上部はＳＤ3702Ｂ溝跡に削平されているため不明であるが下部の断面形は「Ｖ」字形である。方向は東で南に 8 度前後振れている。堆積土は水性堆積の黒色粘質シルトである。

【ＳＤ3702Ｂ溝跡】（第241図）

南 3 東 1 区の南辺に位置する東西方向の溝跡である。上幅約 7ｍ、深さ約 30cm で底面は凹凸が激しい。方向は東で南に 5 度前後振れている。堆積土は水性堆積の黒色粘質シルトである。

【ＳＤ3703Ａ溝跡】（第234・241図）

東 1 区に位置する南北方向の溝跡である。上幅約 50cm、深さ約 30cm、断面形は逆台形である。方向は北で東に 10 度前後振れている。堆積土は 7 層の耕作土と同質の黒褐色砂質シルトで須恵器、土師器、木製品が出土している。

【ＳＤ3703Ｂ溝跡】（第241図）

東区のＳＤ2000 河川跡東側に位置する南北方向の溝跡でＳＤ1826・1827・1828 溝跡の延長上にある。

上幅約50cm、深さ約10cm断面形は逆台形である。ＳＢ3706掘立柱建物跡より新しい。堆積土は黒褐色砂質シルトで土師器坏・甕、須恵器坏・甕の破片が出土している。土師器はロクロ調整の回転糸切り無調整である。

(5)小溝状遺構群

【ＳＦ3627Ａ小溝状遺構群】（第234･238図）

畑の畝間とみられる南北方向の溝跡群である。南３西１区から北に隣接する南２区のＳＤ1602河川跡の南側まで広がっている。東西方向のＳＦ3627Ｂ小溝状遺構群、ＳＢ3685 掘立柱建物跡のいずれよりも古い。

南２区では削平を受けているが南３区では残りが良く、上幅30cm前後、深さ20cm前後、断面形は「Ｕ」字状を呈する。方向は北で東に0～8度振れる。溝と溝との間隔は70cm前後である。

遺物は堆積土から土師器坏・甕、須恵器坏・甕・壺、金銅製帯金具が出土している。土師器坏・甕には非ロクロ調整のものがみられる。

【ＳＦ3627Ｂ小溝状遺構群】（第234･238図）

畑の畝間をみられる南北方向の溝跡群である。南３西１区から北に隣接する南２区のＳＤ1602河川跡の南側まで広がっている。方向をわずかに違え重複するものがあり２時期の変遷がみられるがいずれも、南北方向のＳＦ3627Ａ小溝状遺構群より新しく、ＳＢ3685掘立柱建物跡より古い。

南２区では削平を受けているが南３区では残りが良く、上程30cm前後、深さ20cm前後、断面形は「Ｕ」字状を呈する。方向は東で南に2～6度振れる。溝と溝との間隔は50cm前後である。

遺物は堆積土から土師器坏・甕、須恵器坏・甕が出土している。土師器坏・甕には非ロクロ調整のものがみられる。

(6)水田跡

【ＳＦ3700Ａ水田跡】（第234･241図）

ＳＤ2000 河川跡以東のほぼ全域で確認された。南･東･西側の三方向の調査区外にも及んでいる。ただし、畦跡は各所で部分的にのみ確認され、ＳＤ2000河川跡の両側は河川の侵食により失われている。

水田耕作土は下層のスクモ層をすき込み撹拌のすすんだ耕作土である。黒褐色のシルトで層の厚さは 15cm 前後である。層中から須恵器坏、土師器坏･甕の小破片が出土している。土師器坏･甕には非ロクロ調整のものがみられる。

畦跡の方向は南北方向のものが北で東に５度、東西方向のものが東で南に８度前後振れている。畦跡の幅に違いがあり大畦（ＮＯ.1）、小畦（ＮＯ.2～7）の２種類に分けられる。

大畦（ＮＯ.1）は上幅約４ｍ以上の東西方向の畦跡である。南２道路の南約120ｍに位置し、これとほぼ平行する。畦の北側がＳＤ3702Ｂ溝跡によって削平されているため本来の幅は不明である。

小畦（ＮＯ.2･3）は上幅50cm前後の東西方向の畦跡である。大畦（ＮＯ.1）の南側３ｍ、21ｍにそれぞれ位置し、これとほぼ平行する。

小畦（NO.4･5･6）はいずれも上幅50㎝前後の南北方向の畦跡である。東西方向の小畦（NO.2･3）に直交する。NO.4と5の間は10m、NO.5と6の間は12mである。

小畦（NO.7）は上幅50㎝前後の東西方向の畦跡である。大畦（NO.1）の北側21mに位置し、これとほぼ平行する。

水田区画については調査区が限定されていたため区画の全容が明確に確認できる水田跡は皆無である。ただし、大畦(NO.1)南側で確認されたいくつかの小畦の位置関係から推定すると、区画の形態は南北に長い長方形で、南北18m、東西幅10m前後の規模と推定される。

【ＳＦ3700Ｂ水田跡】（第236･239･240図）

水田耕作土は南2西1区のＳＤ1602河川跡以南の一部、南2道路跡以南のほぼ全域で確認され、さらに南･東･西側の三方向の調査区外にも及んでいる。ただし、南3東1区ではＳＦ3700Ｃ水田跡により削平され、畦跡は各所に部分的に残存しているにすぎない。またＳＤ2000河川跡の両側は河川の侵食により失われ水田区画の形態や広がりについて不明な点が多い。

耕作土はＳＦ3700Ａ水田耕作土上部をすき込み、撹範のすすんだ褐色の砂質シルトで、層の厚さは15㎝前後である。層中から須恵器坏、土師器坏の小破片が出土している。須恵器坏は底部ヘラ切り離しで手持ちヘラケズリ、土師器坏では回転糸切り手持ちヘラケズリのものが多い。

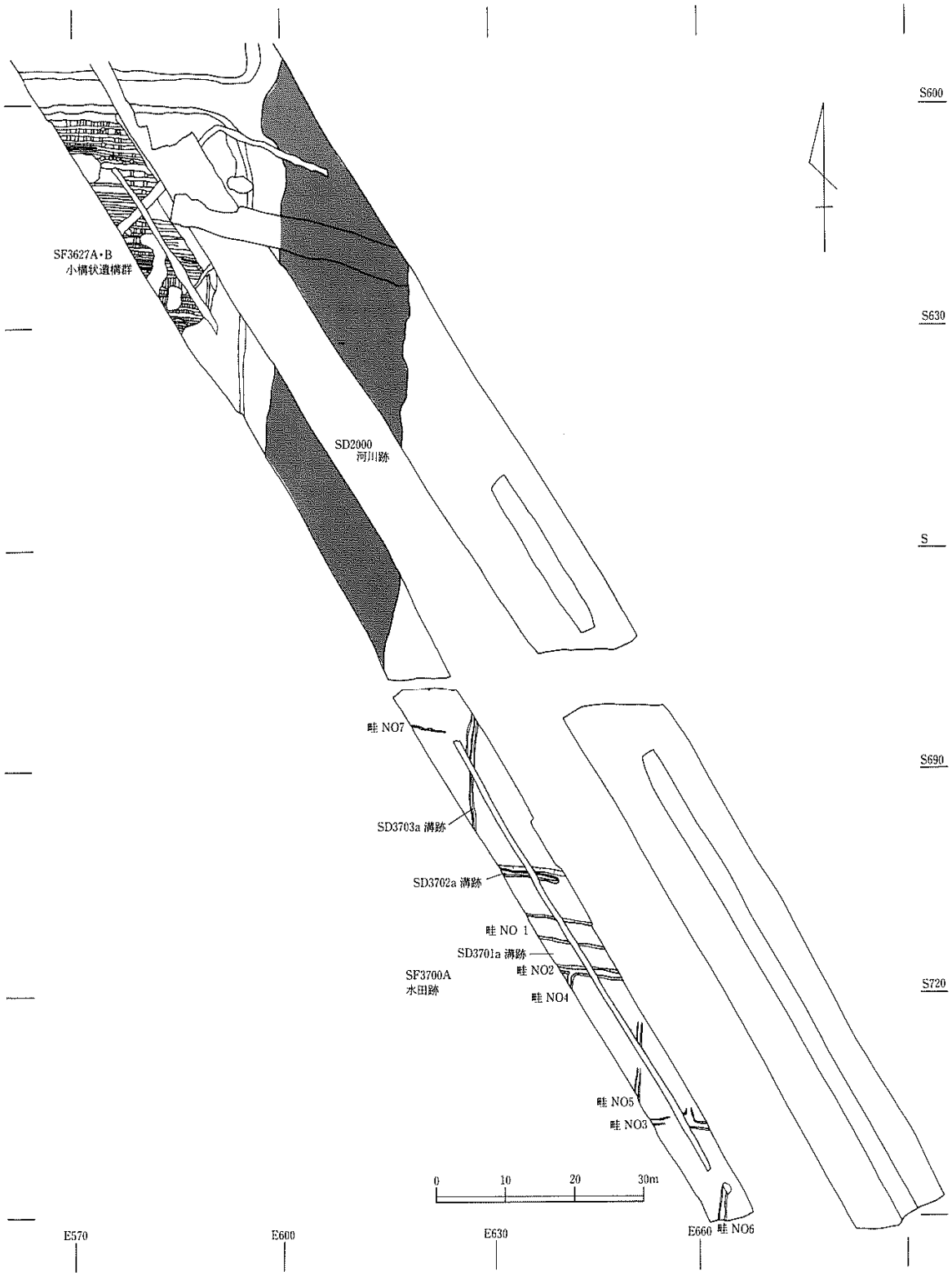
畦跡の残りが比較的良いのは南3東1区の北半で、この地域の畦跡は南北方向の畦は10m前後の間隔で直線的に筋が通り、その間を東西方向の小畦で区切っている。畦跡の方向は南北方向のものが北で西に5度前後、東西方向のものが東で南に8度前後振れている。畦の規模は上幅3～1m前後の大きなものと30㎝前後の小さなものがある。大きなものは東西方向のものが2つ(NO.1、2)、南北方向のものが3つ（NO.3、4、5）である。

このうち大きなものでは東西方向のNO.1が下層のＳＦ3700Ａ水田跡の畦跡NO.1とほぼ同位置、同方向の畦跡で、NO.2はNO.1の約3m南に位置し、これと平行する幅3m前後の畦跡である。水田区画についてみると南3西1区と南3東1区の北部で区画規模形態が確認できる水田がある。南3西1区では一辺約9mの方形のものが一区画確認できる。南3東1区では南北方向に約9m間隔で中規模の畦が通り、その間が東西方向の小畦で区切られている。このため区画の規模は東西幅が9m前後と一定で南北方向は任意の異なる大きさとなり、形態は正方形か長方形を呈するものである。

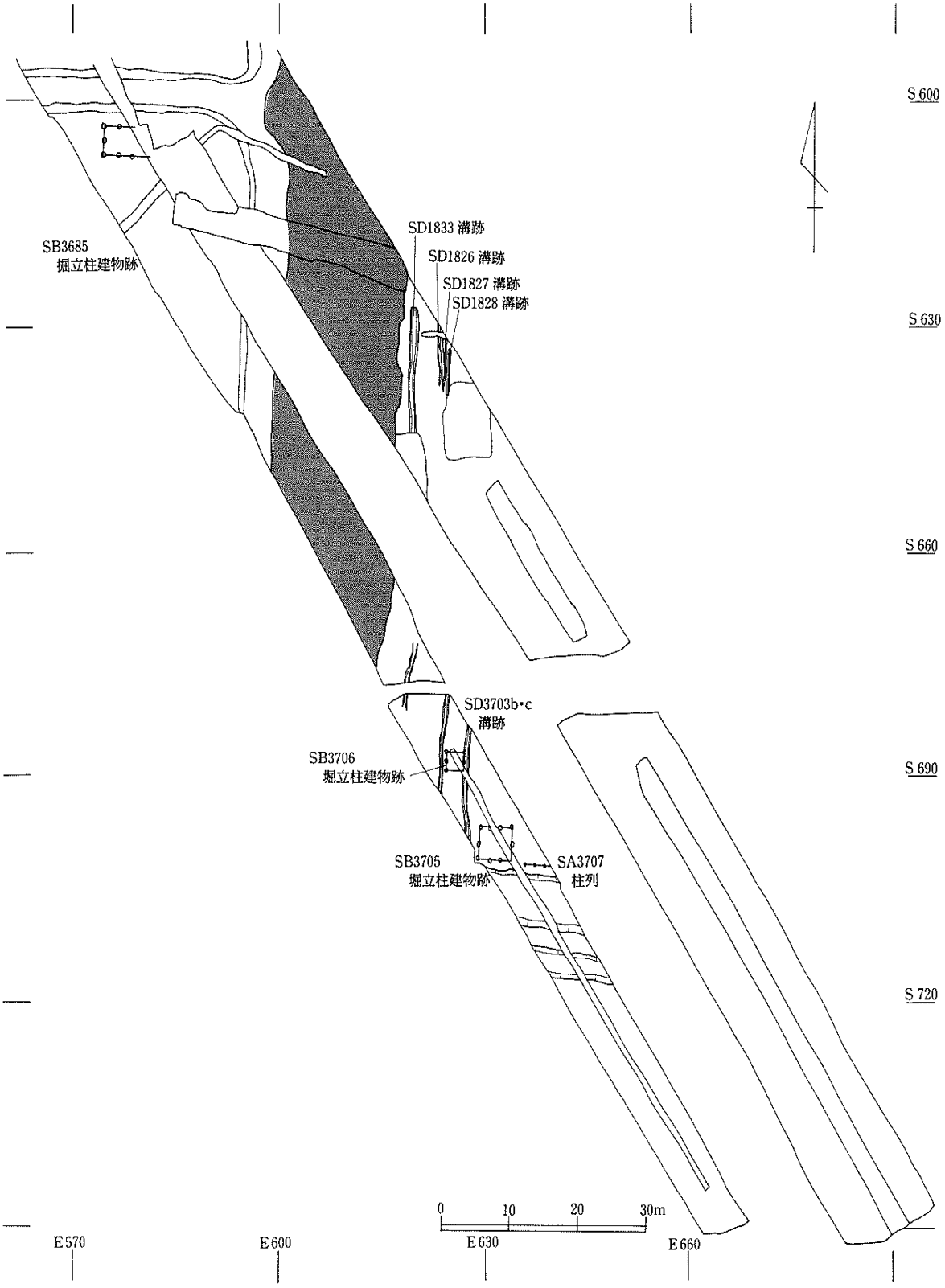
【ＳＦ3700Ｃ水田跡】（第237図）

南3東1区にのみ分布する。耕作土はＳＦ3700Ｂ水田跡の耕作土上部をすき込み、撹範をあまり受けない灰白色火山灰塊を含んだ暗灰黄色のグライ化とした砂質シルトである。層の厚さは10㎝前後で須恵器坏、土師器坏、赤焼土器皿の小破片が出土している。土師器坏は底部回転糸切り無調整が主である。

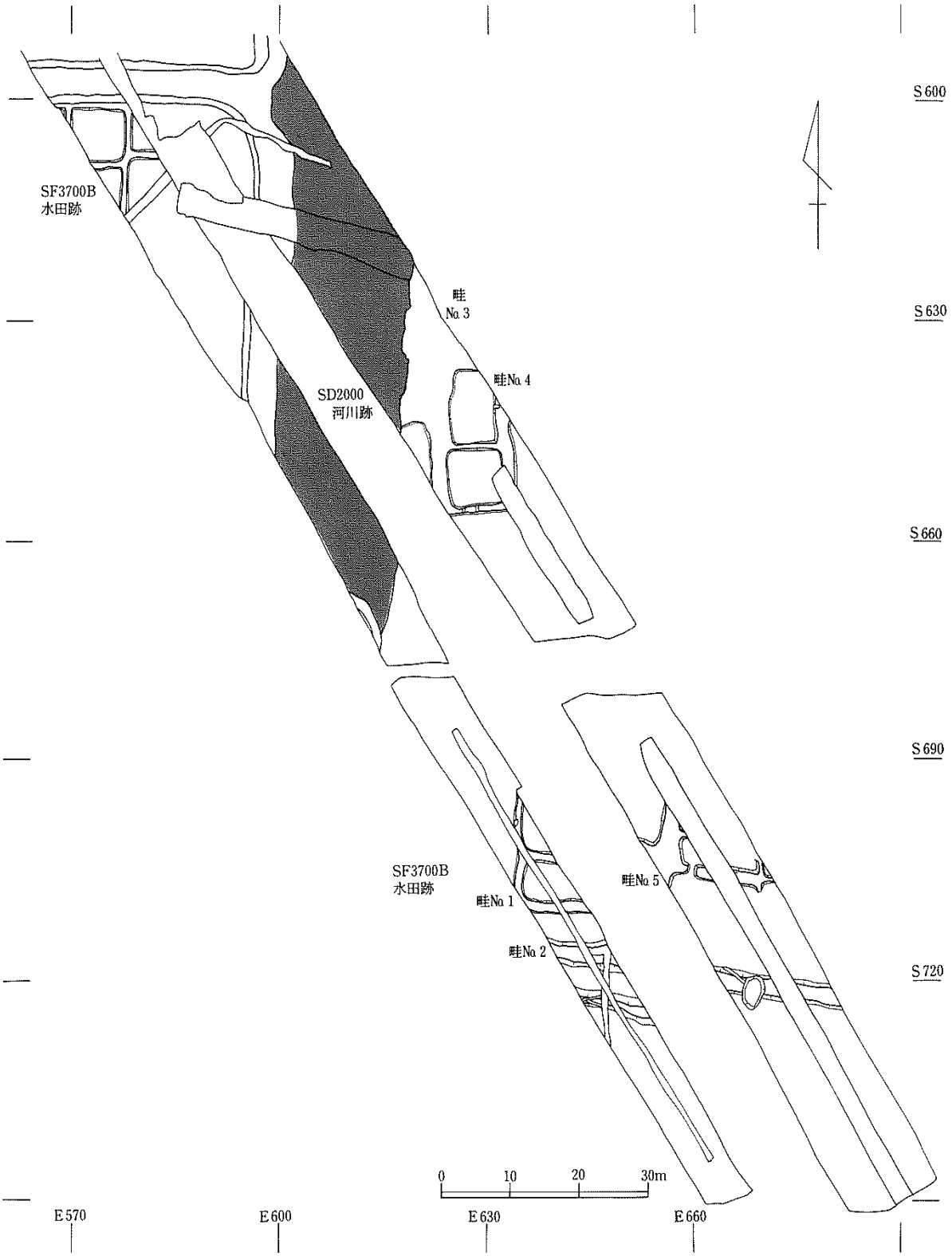
畦跡・区画についてみると畦跡の残りが比較的良いのは南3東1区の南半で、この部分の畦の規模は上幅が50㎝前後であるが、方向は一様でなく区画の形態も不整形である。



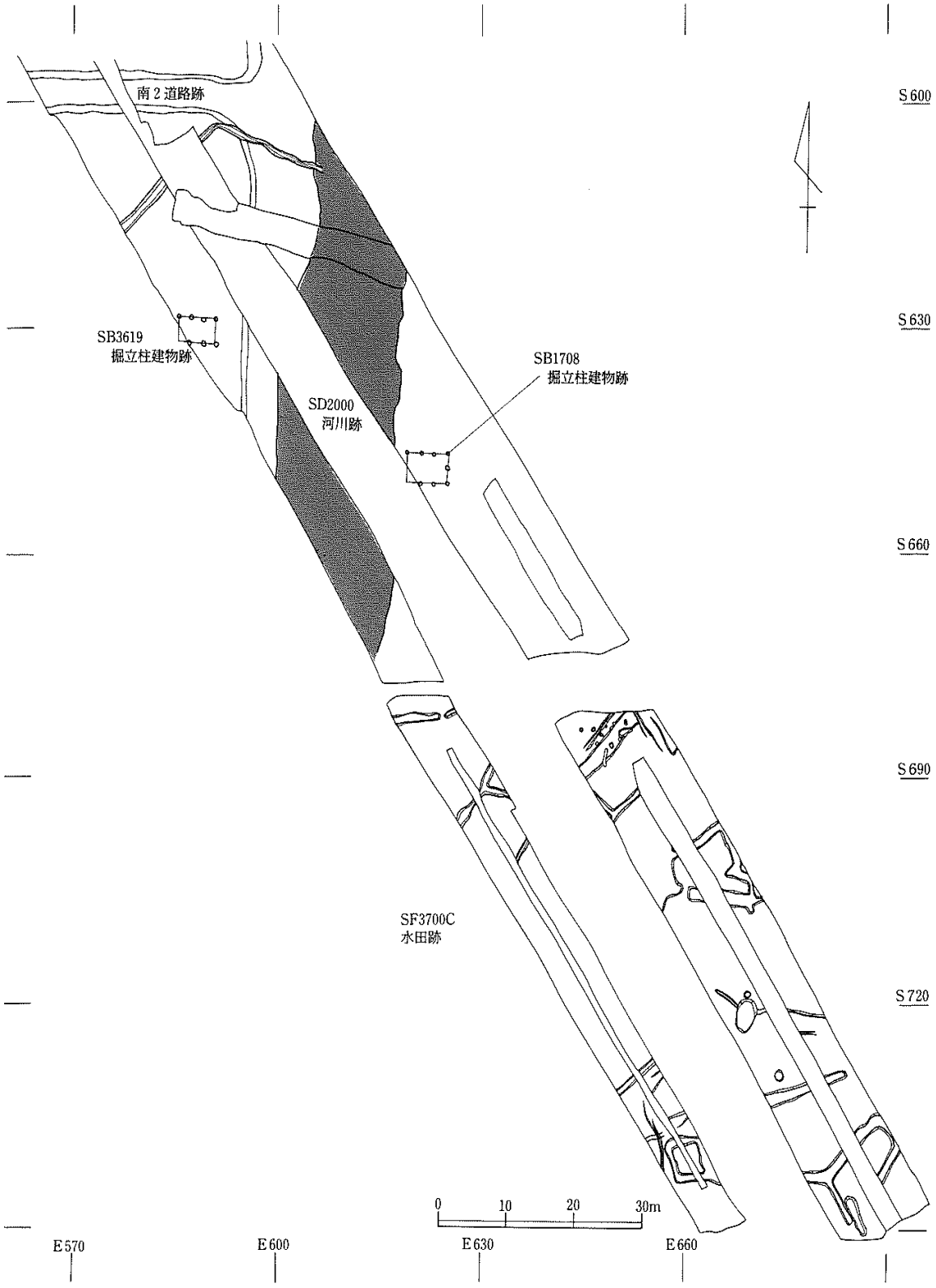
第234図　Ⅲｆ層上面の遺構平面図



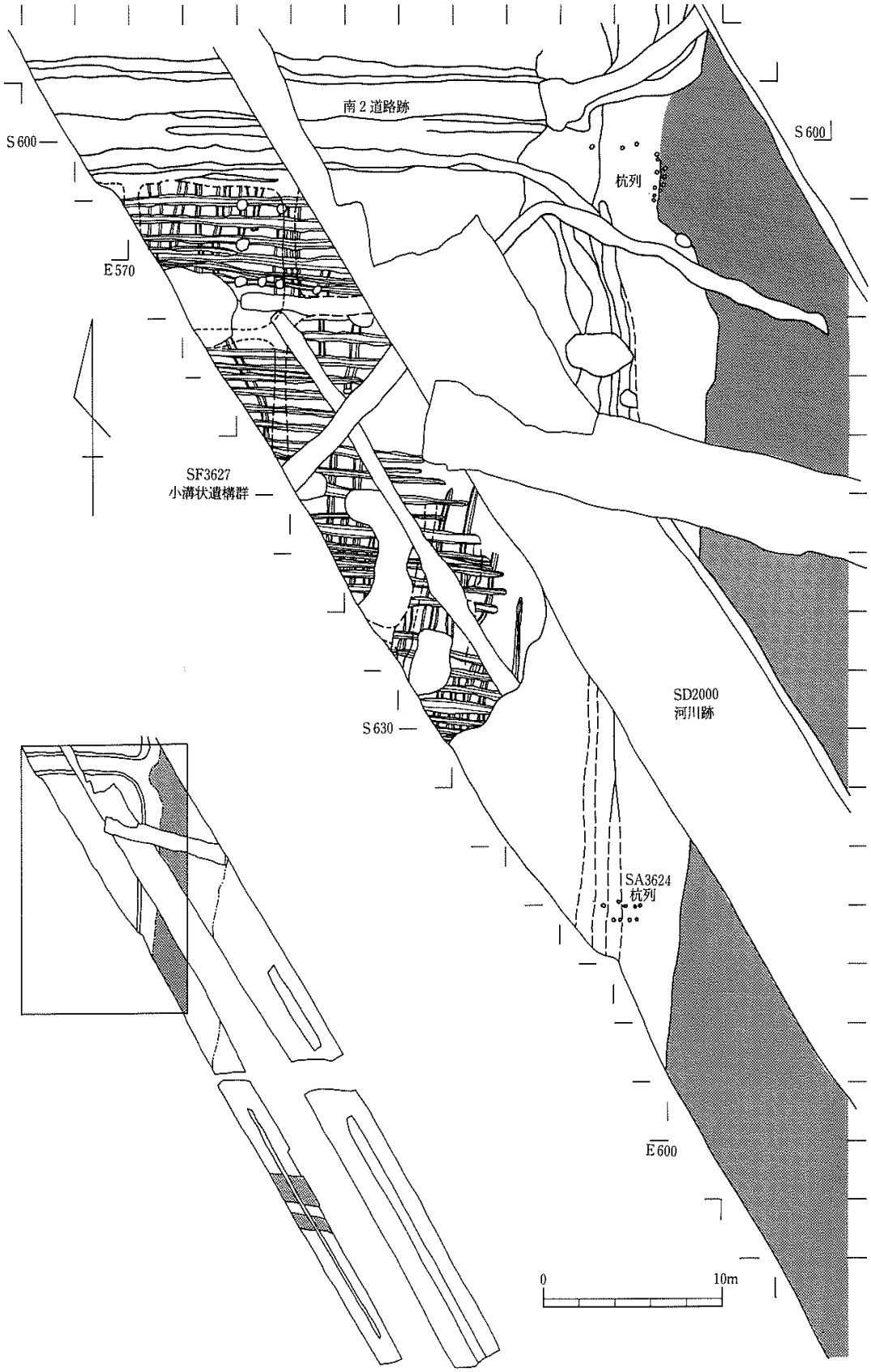
第235図　IIIe層上面の遺構平面図



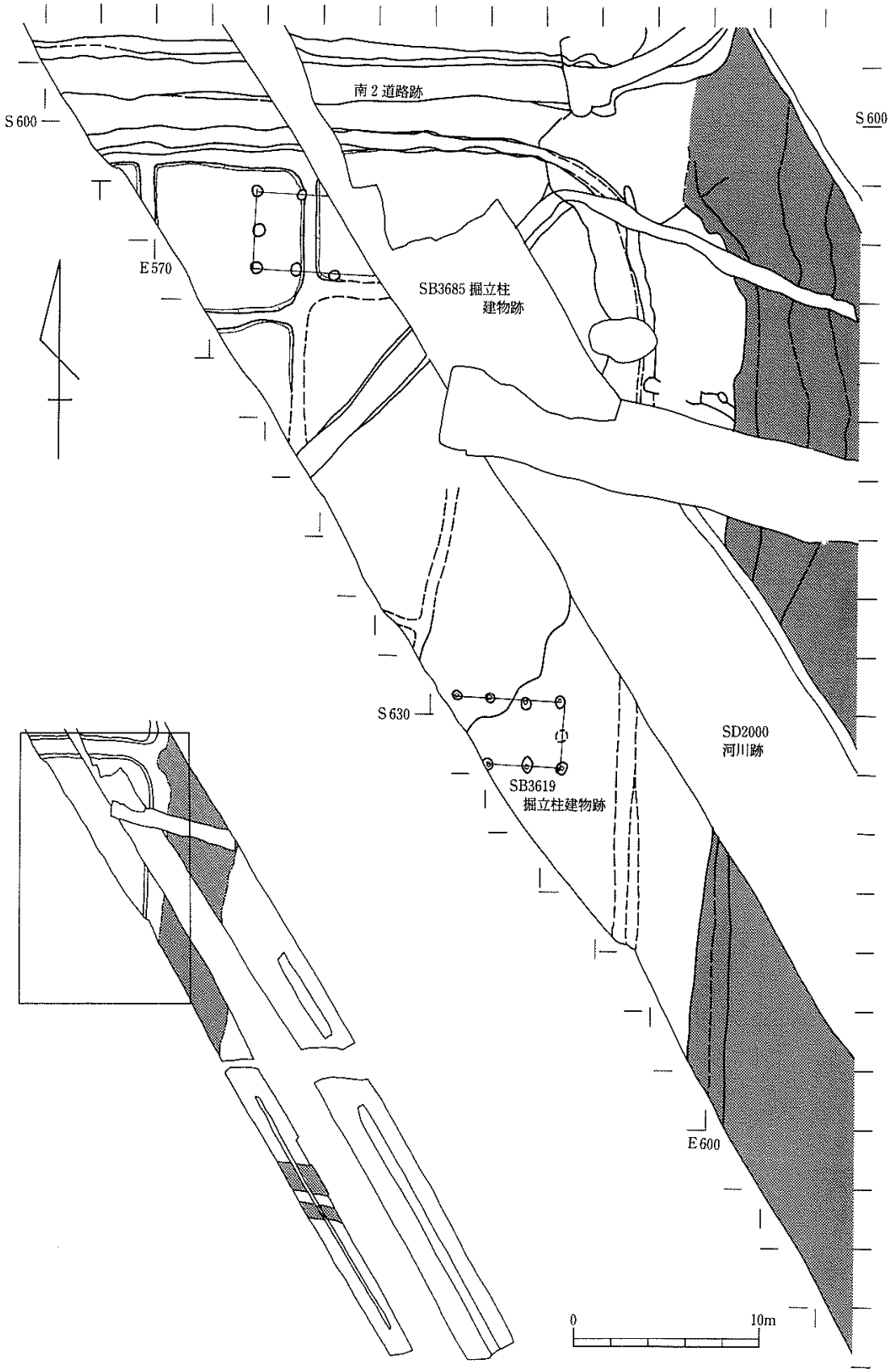
第236図　III b 層上面の遺構平面図



第237図　Ⅲc層上面の遺構平面図



第238図　SF3627A・B小溝状遺構群部分拡大図



第239図　SF3700B 水田跡部分拡大図 (1)